

妊娠と出生前検査の経験に関する
インターネット調査 2015

集計結果報告

2017年3月

編集：井原千琴・田中慶子・菅野摂子

発行：妊娠と出生前検査の経験に関する調査研究会

(妊娠研究会)

● **この報告書について**

井原千琴・田中慶子・菅野摂子編『妊娠と出生前検査の経験に関するインターネット調査2015』妊娠と出生前検査の経験に関する調査研究会2017年3月発行(科研費25283017、研究代表者柘植あづみ)

● **研究助成について**

平成25年度～平成28年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤(B)
研究課題:「医療技術の選択とジェンダー:妊娠と出生前検査の経験に関する調査」
研究課題番号:25283017
研究代表者 柘植あづみ

● **インターネット調査研究組織について(平成27・28年度:2015年1月～2017年3月)**

研究代表者

柘植あづみ 明治学院大学 教授

研究分担者

菅野摂子 電気通信大学 特任准教授

田中慶子 (公財)家計経済研究所 次席研究員

白井千晶 静岡大学 教授

研究協力者

石黒真里 明治学院大学 実習助手

井原千琴 日本筋ジストロフィー協会 認定遺伝カウンセラー

二階堂祐子 奈良先端科学技術大学 助手

はじめに

私たちは2013年4月から2017年3月まで「医療技術の選択とジェンダー：妊娠と出生前検査（注1）の経験に関する調査」という研究を行ってきた。

妊娠をめぐる医療技術が日々進歩するなかで、妊娠経験と出生前検査の経験も変化を余儀なくされている。それにもなって妊娠にかかわるさまざまな選択とその社会的な意味も変化している。それを把握・理解する目的で、「医療技術の選択とジェンダー：妊娠と出生前検査の経験に関する調査」では、妊娠経験のある女性へのアンケート調査とインターネット調査、出生前検査を受けた／受けようか迷った女性・夫婦へのインタビュー調査、さらに出生前検査や遺伝相談を臨床で実施している医療者へのインタビュー調査をした。

これらの調査を実施した背景には、2003年に行った「妊娠と出生前検査の経験についての調査」（アンケート調査とインタビュー調査）がある。2003年当時から、10年後の調査を計画していたため、アンケート調査は2013年の4月～7月に行った。2013年4月には「新型出生前診断」とマスコミで報道された非侵襲的出生前検査（NIPT）（注2）が日本でも始まったが、調査時期が早かったためにNIPT受検者からの回答はごくわずかだった。また羊水検査を受けた人も20名ほどに限られた。（注3）

そこでNIPTを含めてより多くの出生前検査を受けた人の回答を得るために、2015年初頭にインターネット調査を行った。この『妊娠と出生前検査の経験に関するインターネット調査 2015集計結果報告』は、その調査の結果をまとめたものである。

出生前検査をめぐる大規模調査は日本では少なく、また、検査を受けた／受けないという行動だけではなく、その意識までも把握しようとした調査はほとんどない。出生前検査という専門的知識を必要とする内容の調査、また気持ちの揺れや葛藤を伴う医療の選択について調べるのにインターネット調査という手法が適切であるのかとの課題も生じた。今後の調査手法の改善も含めて、この結果に関する議論が活発になることを願っている。

柘植あづみ

（注1）出生前検査とは、胎児のうちに疾患や障がいなどがあるかを調べる検査の総称である。胎児に疾患や障がいがあるとわかっていても治療できるのはごく一部である。さらに疾患や障がいの重篤さは、生まれる前には限定的にしかわからない。そのため、親になろうとしている人たちは、検査結果を受けて、妊娠を継続するのか中絶するのかという厳しい選択を迫られることになる。

（注2）この検査は、妊婦の血液中にふくまれる胎児のDNA断片から胎児の染色体の状態を調べるもので、検査前に遺伝カウンセリングを受けることを条件として、費用が20万円を超えるほど高額であるにもかかわらず、希望者が急増した。

（注3）『妊娠と出生前検査の経験に関するアンケート調査 2013集計結果報告』参照

目次

1 調査実施概要

1-1 調査の目的

1-2 調査の方法

2 結果の概要

2-1 回答者のプロフィール

2-2 一番最近の妊娠の経験

2-3 超音波検査の経験

2-4 母体血清マーカー検査の経験

2-5 羊水検査の経験

2-6 NIPT検査の経験

2-7 NT検査の経験

2-8 着床前診断・その他の検査の経験

2-9 妊娠・出産に対する意識

3 まとめ

4 補 データクリーニングについて

1. 調査実施概要

1-1 調査の目的

女性の妊娠と出生前検査については、医学的な手技やその成果についての論文や、胎児の疾患などの発見によって中絶することについての法的・倫理的な課題を指摘した論考は多くある。だが、女性がその経験をいかに受けとめているか、検査を受けるか/受けないか、妊娠を継続するかなど意思決定の過程とその要因を検討した研究が少ないこと、また検査を受けなかった人への調査がほとんどないことから、柘植・菅野・石黒は2003年に科学研究費補助金（課題番号14594023）の助成を受けて「妊娠と出生前検査についての調査」を東京都内で実施した。続いて26名の女性へのインタビュー調査をした。その成果は、研究成果報告書（2005年）の他に、柘植・菅野・石黒『妊娠——あなたの妊娠と出生前検査の経験をおしえてください』洛北出版（2009年）として出版した。

2003年調査から10年を経て、出生前検査の諸技術はさらに進歩した。2013年の4月からは「新型出生前診断」またはNIPTと呼ばれる新しい検査の日本での臨床研究が始まった。2003年からの変化を捉えることを目的として、2013年には本調査のメンバーなどで、首都圏の保育園や病院を通して質問紙調査を実施した。その結果は、「妊娠と出生前検査の経験に関するアンケート調査 2013」としてまとめられている（以下、同調査を「2013年調査」とする）。しかし、実施時期がNIPTの臨床研究の開始直後であったこと、また保育園等や病院を通じた質問紙の配布であるため、計量分析に耐えうるサンプルを確保できないという限界がある。そこで妊娠や出生前検査をめぐる環境の変化を背景に、幅広く女性の妊娠の経験や、妊娠・出産等に対する意識を捉えること、さらにNIPT実施の地域差などを考慮し、首都圏だけではなく全国の女性を対象とする調査を検討した。本調査が主眼とする対象者は妊娠経験がある人や、出生前検査の経験がある人であるため、それらの対象を効率よく抽出でき、かつ全国規模の大量調査が実施可能なインターネット調査を行った。出生前検査に対する知識と経験、さらに妊娠全般に関する経験や意識などを明らかにすることを目的としている。

1-2 調査の方法

インターネット調査は以下のような方法で行った。

- ①調査実施時期：配信 2015年1月30日（金）～2015年2月9日（月）
- ②調査方法および対象：調査対象者は、20～44歳までの女性で、妊娠経験があると回答し、妊娠経験等について回答した人、とした。その上で、出生前検査を受検した経験がある人（条件①）、もしくは受検の経験はないが出生前検査について妊娠中に受けるかどうか迷うなど、何らかのかかわりを持った人（条件②）を対象とした。前述の条件①は400名、同、条件②は1800名を完了目標とした。

基本属性や上記の条件（妊娠経験や出生前検査を検討する経験の有無など）を尋ねる予

備調査を行い、調査条件に該当する者のみ、予備調査後、参加意思を確認の上、本調査に進んでもらった。

調査は日経リサーチ（株）を通して、同社に調査モニターとして登録している（「日経リサーチアクセスパネル」）女性に調査協力依頼を配信した。

配信数、予備調査回答者数、本調査回答者数は下記のとおりである。

調査依頼 配信 403,031 名

↓

期間内に、予備調査へアクセス 20,196 名

↓

回答拒否 729 名と条件不適合者（男性／19 歳以下／45 歳以上／妊娠経験なし／妊娠経験回答拒否） 11,548 を除く

※回答者条件は、20～44 歳までの女性で、妊娠経験があると回答し、検査経験等の回答に承諾した人

↓

回答条件適格者 8,766 名（＝本調査配信対象）

↓

回収数 2,378 名（うち、条件①441 名、条件②1,937 名）

↓

有効回答数 2,357 名（直近の妊娠について「答えたくない」とした 21 を除く）

いわゆる回収率は、以下の通りとなる。

回収数 2378 ÷ 回答条件適格者 8766 =27.1%

有効回答数 2357 ÷ 回答条件適格者 8766 ÷ 26.9%

調査内容（質問項目）は以下の通りである。

調査	No		内容
予備調査	s1		性別
	s2		年齢
	s3		住所
	s4	1~4	知識問題（妊娠全般）
	s5	1~8	意識調査
	s6	1~8	政策評価
	s7		妊娠回数

	s8	1～3	超音波__経緯・受検有無・受検時期
	s9	1～3	マーカー__経緯・受検有無・受検時期
	s10	1～3	羊水__経緯・受検有無・受検時期
	s11	1～3	NIPT__経緯・受検有無・受検時期
	s12	1～3	NT__経緯・受検有無・受検時期
	s13	1～3	着床前__経緯・受検有無・受検時期
	s14	1～2	学歴__本人・夫
本調査	q1	1～8	知識問題（出生前検査）
	q2		妊娠中か
	q3	1～2	自然流産・自然死産・中絶
	q4		不妊治療経験
	q5	a～b	妊娠時期__年齢・無回答
	q6		拳児希望
	q7		性別希望
	q8		性別判明
	q9		妊娠判明
	q10		妊娠の判明時期
	q11		妊娠判明時の仕事有無
	q12		妊娠検査薬利用
	q13	1～4	妊娠判明時の感情
	q14		妊娠時の状況
	q15	1～8	妊娠中の不安
	q16		不妊検査
	q17		超音波検査受検有無
	q18	1～5	検査説明__超音波・マーカー・羊水・NIPT・NT
	q19	1～5	検査受検意思確認__超音波・マーカー・羊水・NIPT・NT
	q20		その他の検査受検有無
	q21	1～4	受検／非受検理由__超音波・マーカー・羊水・NIPT
	q22		超音波検査の結果
	q23		NT 受検有無
	q24		マーカー検査の結果
	q25		マーカー検査結果後の行動
	q26		羊水結果

	q27		羊水結果後の行動
	q28		妊娠結果
	q29		出産場所
	pd_q30		自由記述：妊娠
	pd_q31		自由記述：医療
	q32	1～5	子どもの性別と年齢
	q33		医療者として出生前検査の関わり経験
	q34	1～2	仕事__自分・夫
	q35	1～2	年収__自分・世帯

*¹：超音波検査の受検については、予備調査と本調査の両方で尋ねている。スクリーニング調査では検査を受けたかどうかとその経緯、本調査では回数を尋ねている。詳細は 2.結果を参照のこと。

*²：NTについても予備調査と本調査の両方で、検査を受けたかどうかについてほぼ同じ内容で尋ねている。詳細は 2.結果概要を参照のこと。

2 結果の概要

結果の表記および内容についての注意点

- ・ 以下では、調査の内容ごとに結果を報告する。実際のインターネット調査での質問順ではない
- ・ 図表の数値は、四捨五入でまらめているため、内訳の合計が必ずしも 100%にならないことがある
- ・ 図表内では 3%以下の場合は、表記を省略している
- ・ 文末の (n = *****) は集計対象となったサンプルサイズを示している
- ・ 調査の内容ごとに、「答えたくない」の回答がある場合、あるいは論理矛盾が多い場合は除外するなどの対応をとっているため、質問によってサンプルサイズが異なる
- ・ また、検査の受検者のみ等、質問ごとの該当者が異なり、各質問の集計対象人数には差が大きく、割合の数値を比べる際には注意が必要である
- ・ 巻末の「補 データクリーニングについて」で詳細を説明しているように、調査内の論理矛盾がある質問についてはデータクリーニングをおこない、矛盾ありとして再コードし、本報告では「その他」内に含めている。
- ・ NIPT を新型出生前検査とするなど、検査の名称や内容については、マスコミ報道等の表現を参考として、回答者に理解しやすい表現を採用している。そのため、医療用語としては必ずしも正確ではないが、本報告内でも、質問の表記をそのまま用いる

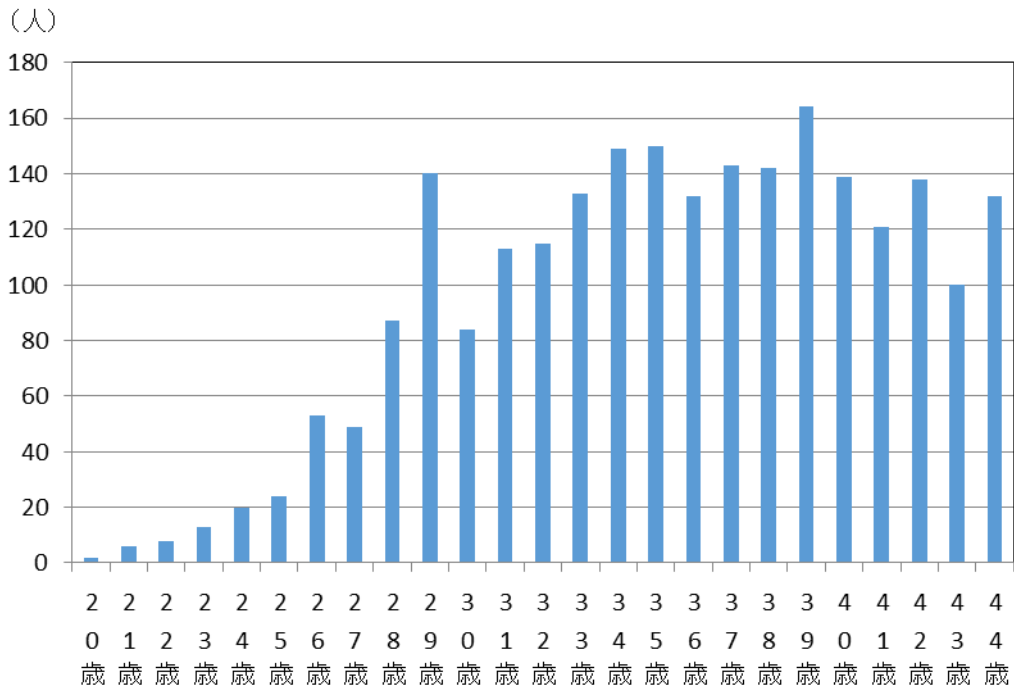
2-1 回答者のプロフィール

◇2-1-1 回答者の年齢

「年齢をお答えください」と尋ね、選択肢から該当する数字を選択してもらった。

回答者の平均年齢は 35.5 歳（標準偏差 5.4）であった。年齢層別の構成は 29 歳以下 402（17.0%）、30 代前半 594（25.2%）、30 代後半 731（31.0%）、40 代 630（26.7%）で、20 代（とくに 20 代前半）が少なく、30 代後半がやや多い構成となっている。

(n=2357)



◇2-1-2 居住地

「お住いの都道府県をお選びください」と尋ね、47都道府県から選択してもらった。

回答者の居住地は全国にわたっている。地域を8ブロックに分けて、国勢調査の女性人口の構成比をくらべると、本調査の回答者は中部地方と近畿地方でやや多く、九州・沖縄、北海道・東北でやや少ない。

(n=2357)

北海道	5.0	三重県	1.6
青森県	0.6	滋賀県	0.9
岩手県	0.6	京都府	1.6
宮城県	1.5	大阪府	9.1
秋田県	0.5	兵庫県	5.1
山形県	0.5	奈良県	1.1
福島県	0.6	和歌山県	0.6
茨城県	1.2	鳥取県	0.2
栃木県	1.5	島根県	0.4
群馬県	1.1	岡山県	1.6
埼玉県	5.6	広島県	2.2
千葉県	4.4	山口県	0.8
東京都	12	徳島県	0.2
神奈川県	8.4	香川県	1.1
新潟県	1.4	愛媛県	1.0
富山県	0.8	高知県	0.4
石川県	1.0	福岡県	4.6
福井県	0.6	佐賀県	0.5
山梨県	0.3	長崎県	0.5
長野県	1.2	熊本県	0.9
岐阜県	1.7	大分県	0.8
静岡県	2.8	宮崎県	0.3
愛知県	9.3	鹿児島県	1.0
		沖縄県	0.8

	本調査	2010年国勢調査	差
北海道・東北	9.2	10.8	-1.6
関東	34.2	35.4	-1.2
中部	19.1	16.2	2.9
近畿	20.2	18.3	1.9
中国四国	8.0	8.3	-0.3
九州・沖縄	9.3	11.0	-1.7

◇2-1-3 学歴

「あなたと配偶者/パートナーの最終学歴（初めて仕事に就く直前の学歴）について教えてください。中退を含んでお考えください」と尋ね、「中学校」、「高校」、「専門学校」、「短期大学」、「大学」、「大学院」、「その他」、(配偶者の回答のみ回答可で)「配偶者/パートナーはいない」で回答してもらった。

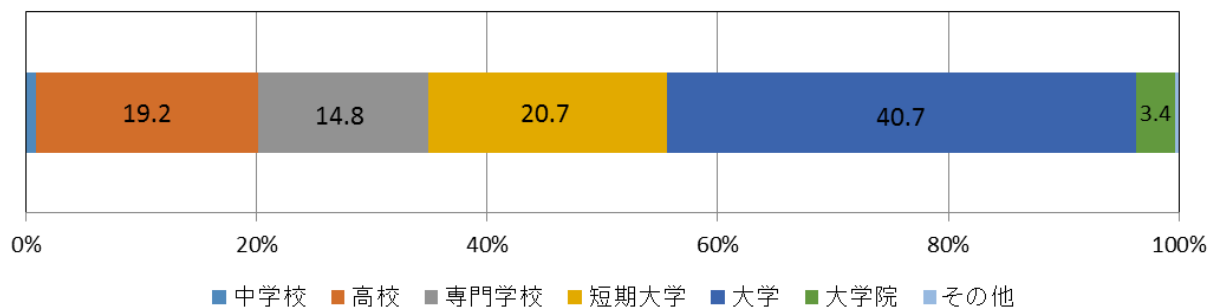
回答者の学歴は、「大学」が 959 (40.7%) と最も多く、「短期大学」489 (20.7%)、「高校」453 (19.2%)、「専門学校」348 (14.8%)、「大学院」79 (3.4%)、「中学校」21 (0.9%)、「その他」8 (0.3%) である。

配偶者の学歴は、回答者と同様に「大学」が 1108 (47.0%) と最も多く、「高校」506 (21.5%)、「専門学校」349 (14.8%)、「大学院」216 (9.2%)、「中学校」59 (2.5%)、「その他」14 (0.6%) である。回答時に「配偶者/パートナーがいない」は 57 (2.4%) であった。

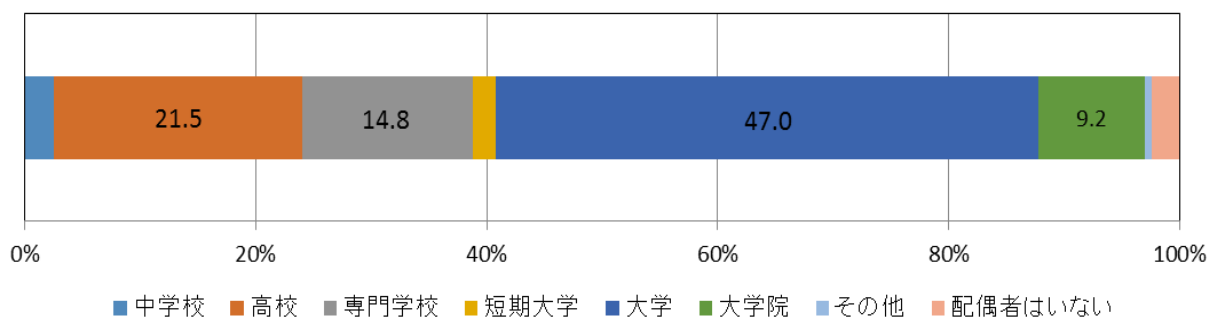
本人、配偶者ともに大学以上が多く、本調査の回答者は、高学歴者が多く、やや偏りがあることには留意が必要である。

(n=2357)

回答者の学歴



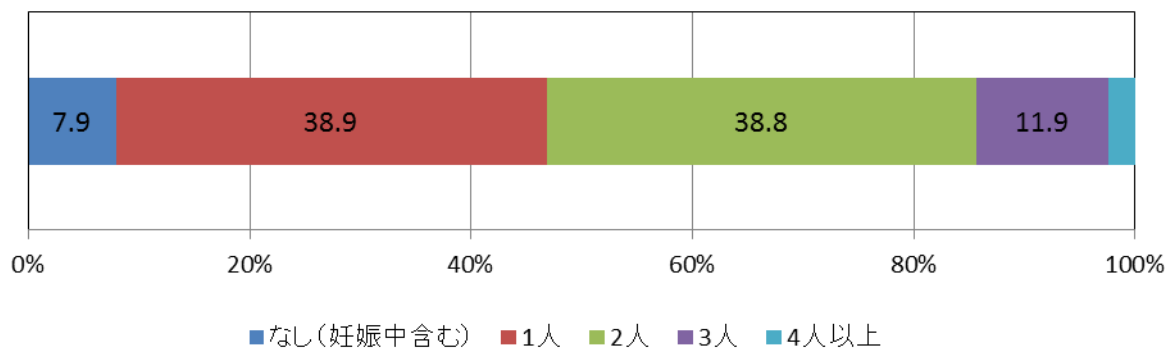
配偶者の学歴



◇2-1-4 子ども

「お子さんの年齢と性別を教えてください」と尋ね、第5子までの状況を回答してもらった。

子どもの人数は、なし（妊娠中を含む）が7.9%、1人が38.9%、2人が38.8%、3人が11.9%、4人以上が2.4%であった。子どもがいる人のみの平均は、1.8人（標準偏差0.8）であった。

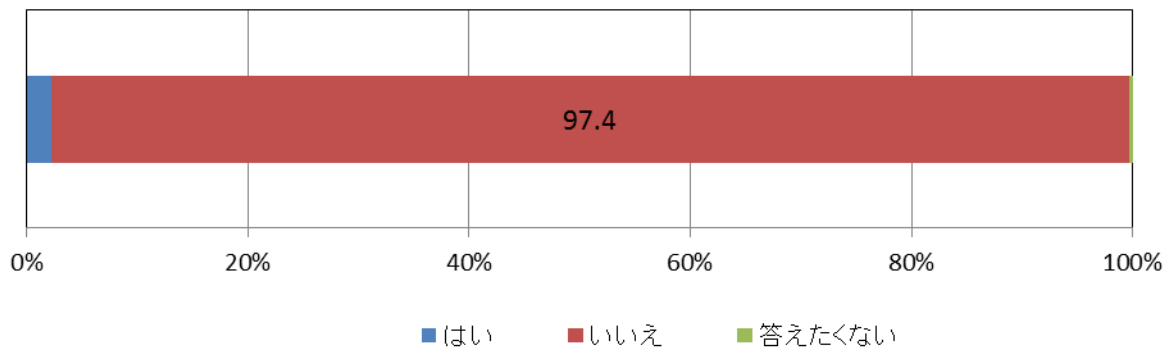


◇2-1-5 医療従事者の経験

「あなたは出生前検査に医療者として、何らかの形でかかわった経験はありますか」と尋ね、「はい」、「いいえ」、「答えたくない」で回答してもらった。

「いいえ」のかかわった経験がない人が 2295 (97.4%)、「はい」が 54 (2.3%)、「答えたくない」が 8 (0.3%) であった。職業として出生前検査にかかわったことがある人はわずかであった。

(n=2357)



◇2-1-6 現在の就業状況

「あなたと配偶者／パートナーのお仕事について教えてください」と尋ね、「1.専門・技術的な仕事」、「2.管理的な仕事」、「3.事務的な仕事」、「4.営業・販売の仕事」、「5.技能工・生産工程に関わる仕事」、「6.運輸・通信の仕事」、「7.保安的職業」、「8.サービス職」、「9.農林漁業に関わる仕事」、「10.その他」、「11.働いていない」から回答してもらった。

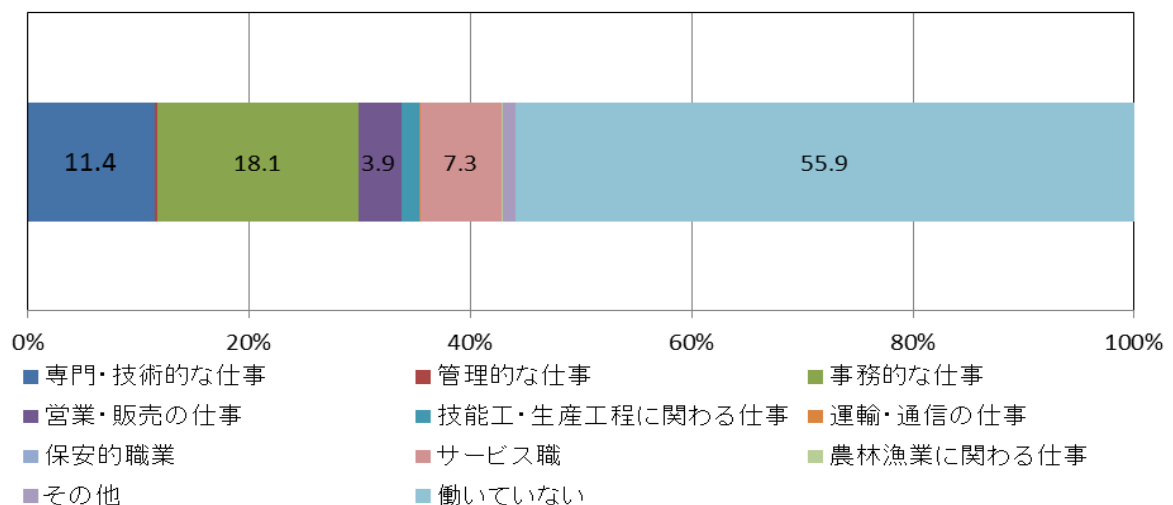
回答者の就業状況は、「働いていない」が1318（55.9%）と最も多く、有業者の職種で多いのは、「事務的な仕事」427（18.1%）、「専門・技術的な仕事」269（11.4%）、「サービス職」172（7.3%）の順となっている。

(n=2357)

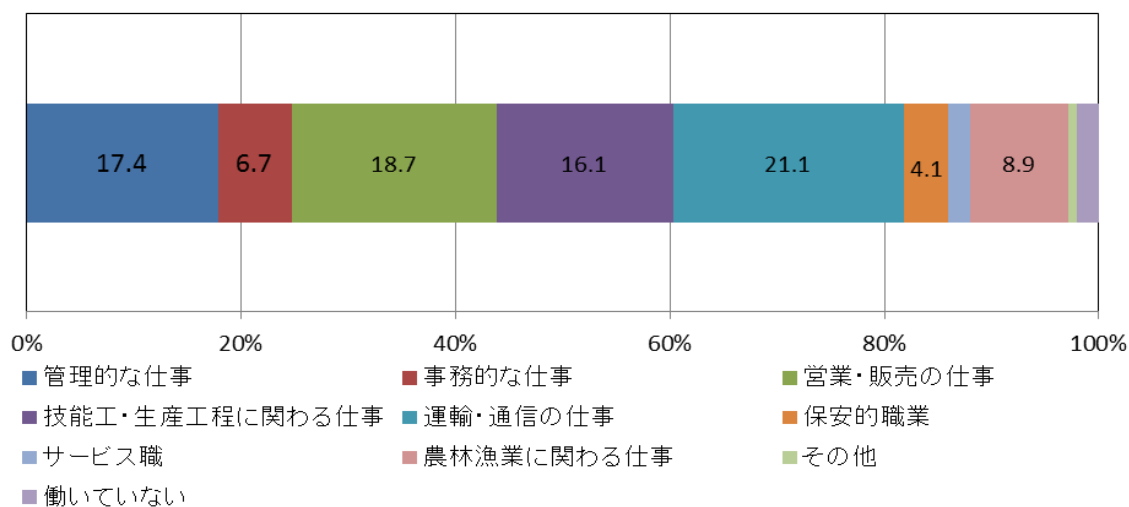
配偶者の就業はほぼ有業者で、職種では「技能工・生産工程に関わる仕事」485（21.1%）、事務的な仕事430（18.7%）、専門・技術的な仕事401（17.4%）の順となっている。

(n=2300)

回答者の就業状況



配偶者の就業状況

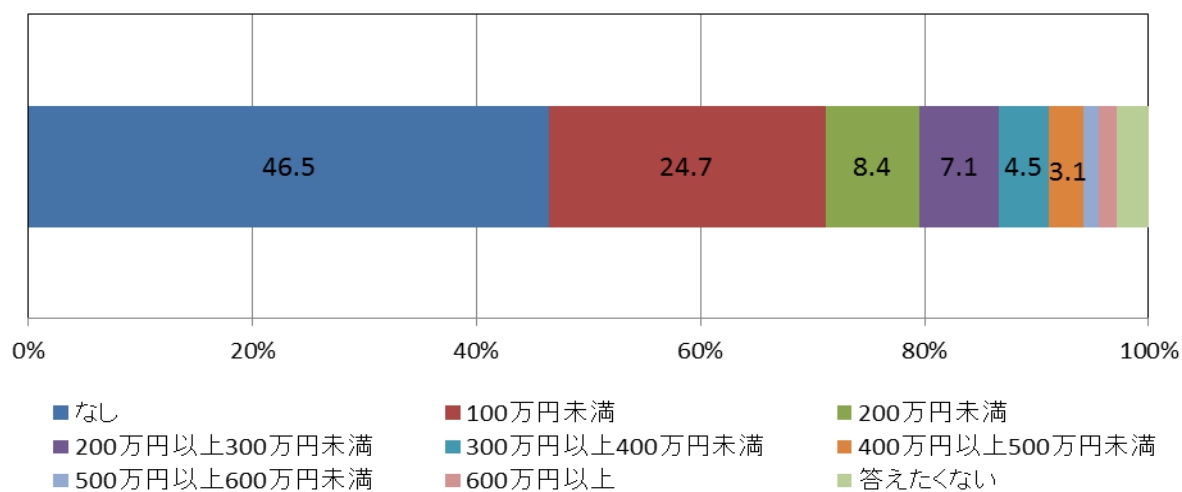


◇2-1-7 回答者の年収

「差支えなければ、昨年1年間のあなたと世帯全体の収入を教えてください」と尋ね、年収額を選択肢から1つ選んでもらった。

前問でみたように現在、無職の人が多いため、収入なしが1096 (46.5%) と最も多い。収入があった人では、「100万円未満」582 (24.7%)、「200万円未満」199 (8.4%) の順となっている。

(n=2357)

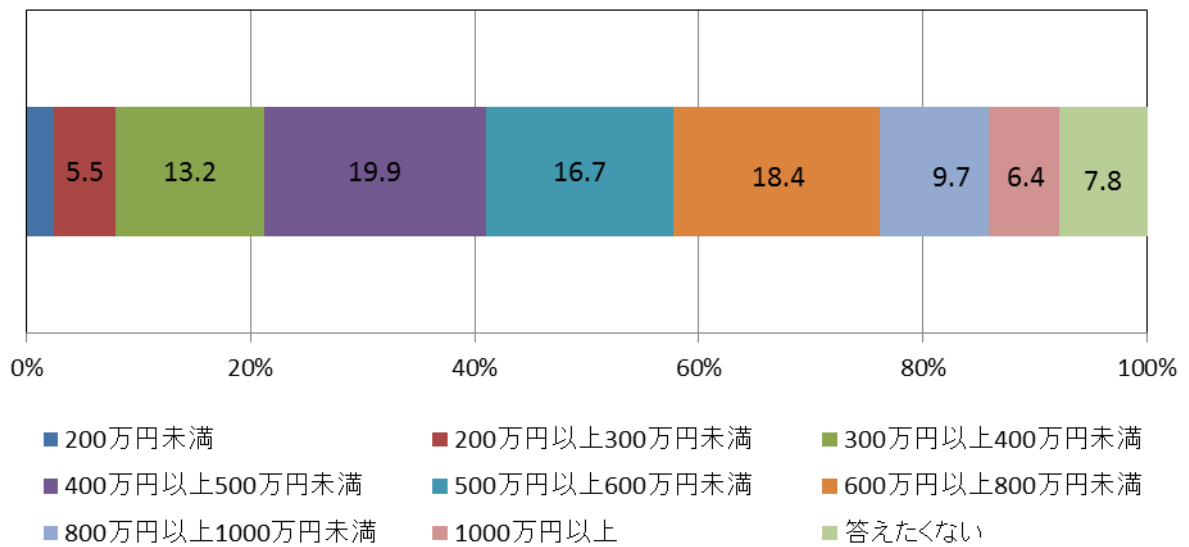


◇2-1-8 世帯年収

「差支えなければ、昨年1年間のあなたと世帯全体の収入を教えてください」と尋ね、世帯年収額を選択肢から1つ選んでもらった。

世帯年収が「400～500万円未満」が469（19.9%）と最も多く、以下「600～800万円未満」433（18.4%）、「500～600万円未満」394（16.7%）であった。答えたくないは184（7.8%）であった。

(n=2357)

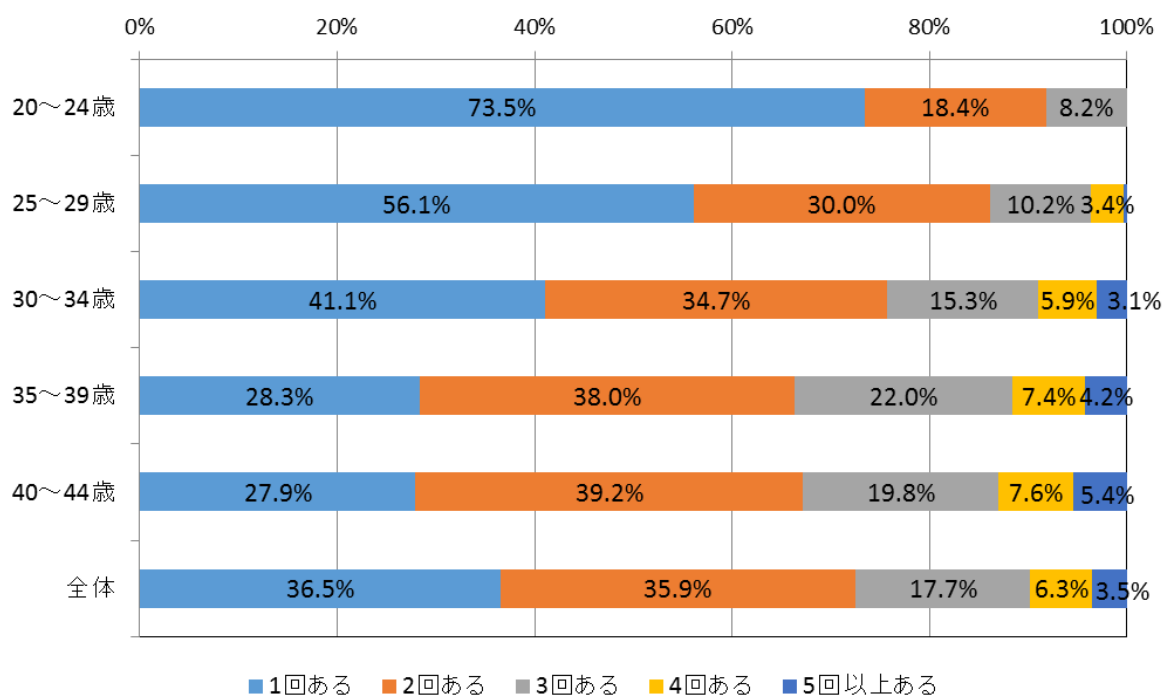


◇2-1-9 妊娠の経験

「あなたは今までに妊娠したことはありますか。(現在妊娠中の方は、その妊娠も含めてお考えください)」と尋ね、一度もない、1回ある～5回ある、の各回、6回以上、答えたくない、から回答してもらった。

全体では、「1回ある」846 (36.5%)、「2回ある」417 (35.9%)、3回以上ある人は650 (27.5%)である。年齢層別にみると、30代後半になると2回以上あるという人が増えている。

(n=2357)

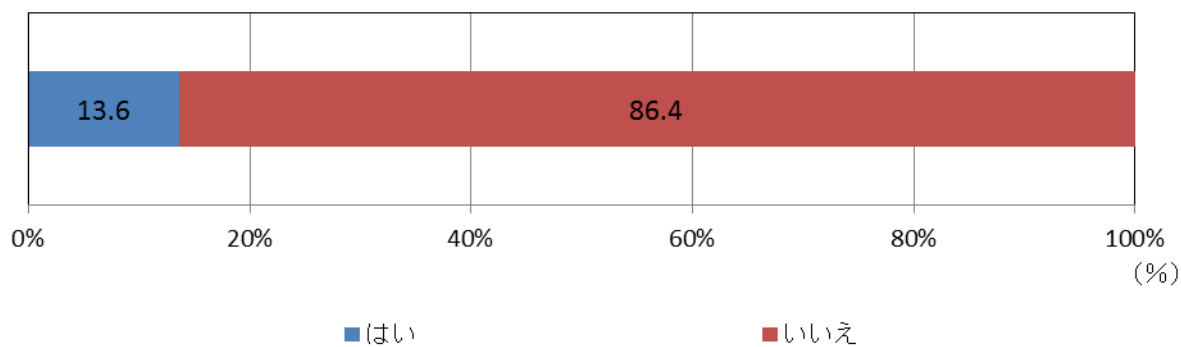


◇2-1-10 現在妊娠されていますか

「現在妊娠されていますか。」と尋ね、「はい」、「いいえ」、「答えたくない」から回答してもらった。

調査時点に妊娠中だった人は、320（13.6％）であった。

(n=2357)

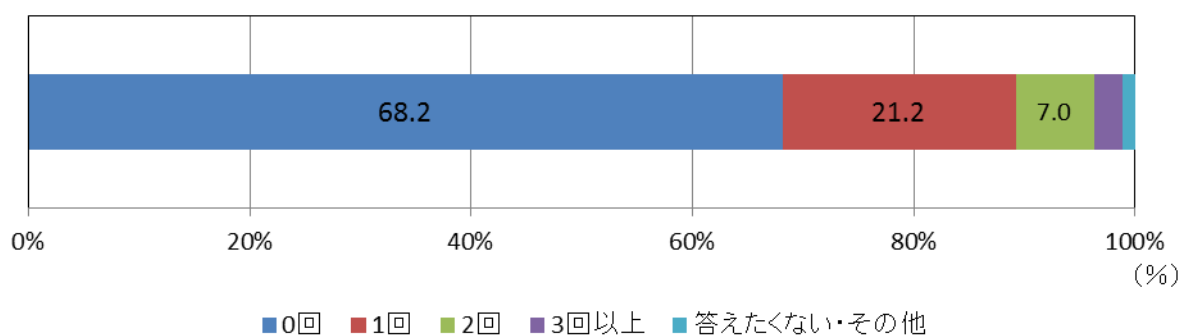


◇2-1-11 自然流産・自然死産の経験回数

「これまでの妊娠経験について教えてください」として、「自然流産・自然死産の経験回数」を、0回、1回～4回までの各回、5回以上、答えたくない、から回答してもらった。

自然流産・自然死産の経験は「0回」が1608(68.2%)であった。経験がある人の回数では1回500(21.2%)、2回164(7.0%)、3回45(1.9%)、4回9(0.4%)、5回以上7(0.3%)、答えたくない18(0.8%)、その他6(0.3%)であった。

(n=2357)

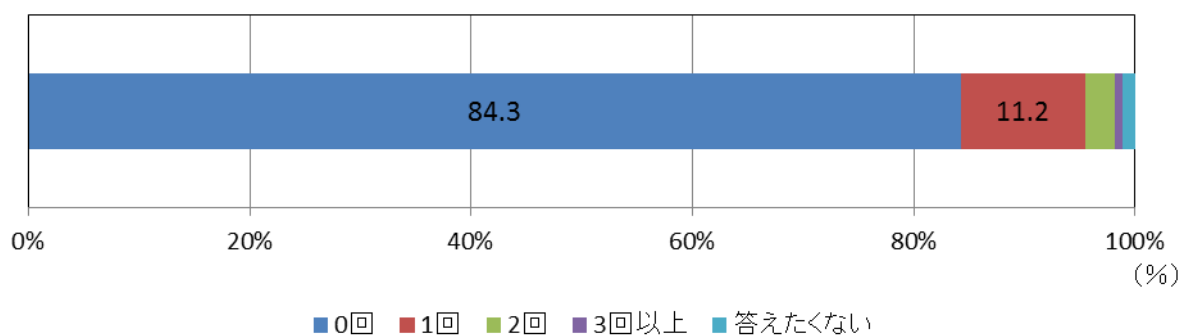


◇2-1-12 人工妊娠中絶（人工流産・人工死産）の経験回数

「これまでの妊娠経験について教えてください」として、「人工妊娠中絶（人工流産・人工死産）の経験回数」を0回、1回～4回の各回、5回以上、答えたくない、から回答してもらった。

人工妊娠中絶の経験は0回が1986(84.3%)であった。経験がある人の回数では1回264(11.2%)、2回64(2.7%)、3回14(0.6%)、4回2(0.1%)、5回以上1(0%)、答えたくない26(1.1%)であった。

(n=2357)



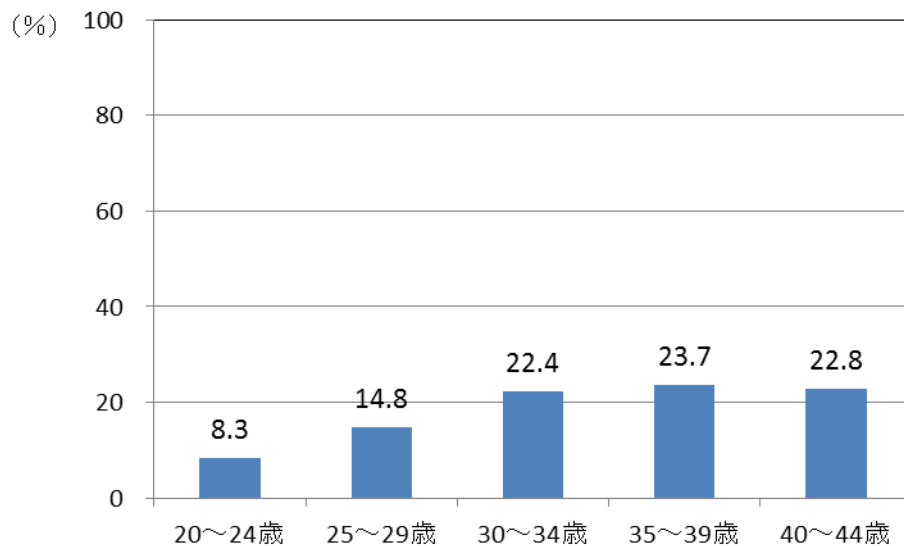
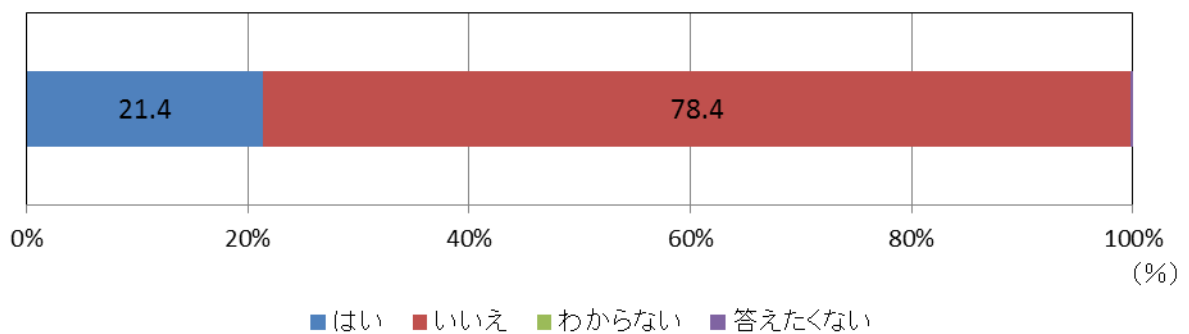
◇2-1-13 不妊治療の経験

「あなたはこれまでに妊娠を希望して不妊検査や不妊治療を受けたことがありますか」と尋ね、「はい」、「いいえ」、「わからない」、「答えたくない」から回答してもらった。

「はい」の不妊検査・治療の経験がある人は505 (21.4%)、「いいえ」の経験がない人は1847 (78.4%)、わからない1 (0%)、答えたくない4 (0.2%)であった。

年齢層別に不妊検査や不妊治療の経験率をみると、30代以降では、2割の人が不妊検査や不妊治療を経験していると回答している。

(n=2357)



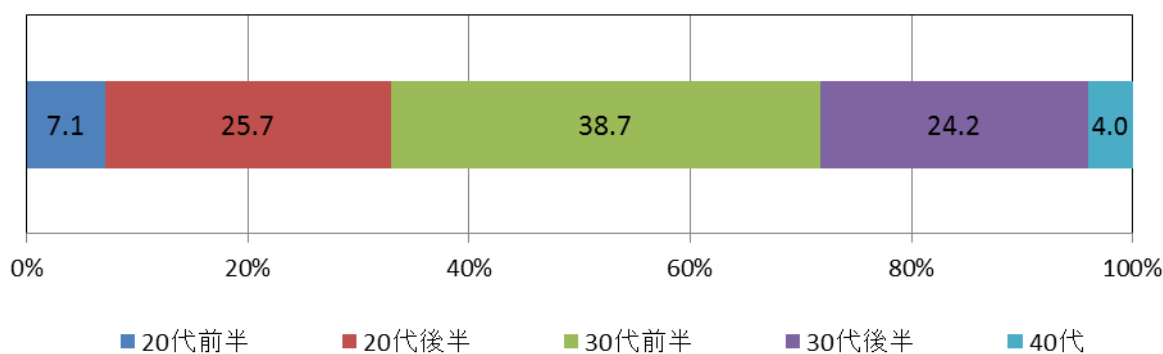
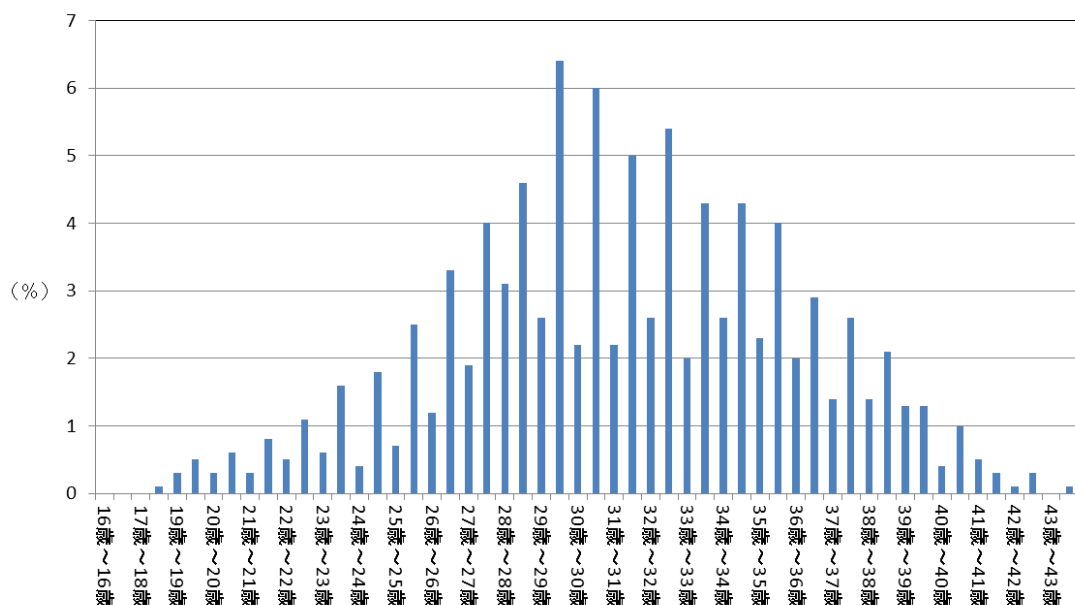
2-2 一番最近の妊娠の経験

◇2-2-1 一番最近の妊娠の時期

本調査の妊娠経験や出生前検査の経験については、一番最近の妊娠の状況に限定して質問している。そのため、「一番最近の妊娠の時期を教えてください」と尋ね、「15歳以下」、「16～16歳」、「16～17歳」という形で、「44～44歳」までの年齢の選択肢を示し、1つ回答してもらった。

分布をみると30歳前後を頂点とした正規分布のようになった。年齢層別にみると、30代前半909(38.7%)と最も多く、以下順に20代後半606(25.7%)、30代後半570(24.2%)となっている。選択肢の区間の前半で算出した平均は30.9(標準偏差4.7)であった。

(n=2347)

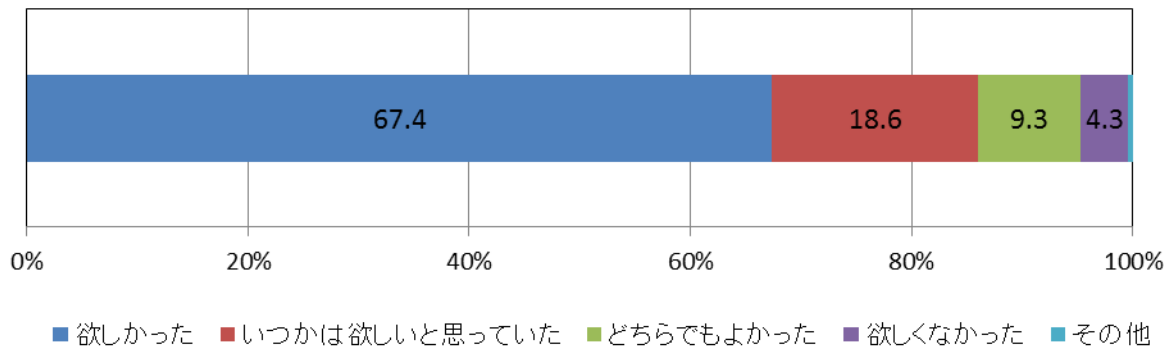


◇2-2-2 子どもの希望

一番最近の妊娠の経験について、「その妊娠がわかる前から、あなたは子どもが欲しかったですか」と尋ね、「欲しかった」、「いつかは欲しいと思っていた」、「どちらでもよかった」、「欲しくなかった」、「その他」から回答してもらった。

妊娠が分かる前から子どもが「欲しかった」が 1568 (67.4%)、「いつかは欲しいと思っていた」433 (18.6%)、「どちらでもよかった」217 (9.3%)、「欲しくなかった」99 (4.3%)、「その他」10 (0.4%) である。一番最近の妊娠において、8割以上の人希望していた妊娠であった。

(n=2327)

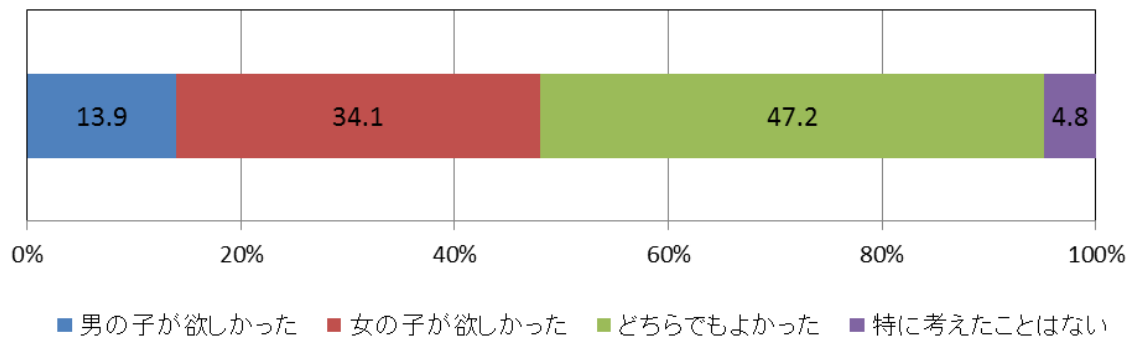


◇2-2-3 性別の希望

一番最近の妊娠の経験について、「男の子や女の子のどちらがほしいという希望はありましたか」と尋ね、「男の子が欲しかった」、「女の子が欲しかった」、「どちらでもよかった」、「特に考えたことはない」から回答してもらった。

性別に関して「どちらでもよかった」が 1099 (47.2%) と多いが、性別の希望が具体的にある人も半数近くおり、「女の子が欲しかった」793 (34.1%)、「男の子が欲しかった」324 (13.9%) と女の子を希望する人の方が多かった。「特に考えたことはない」は 111 (4.8%) であった。

(n=2327)

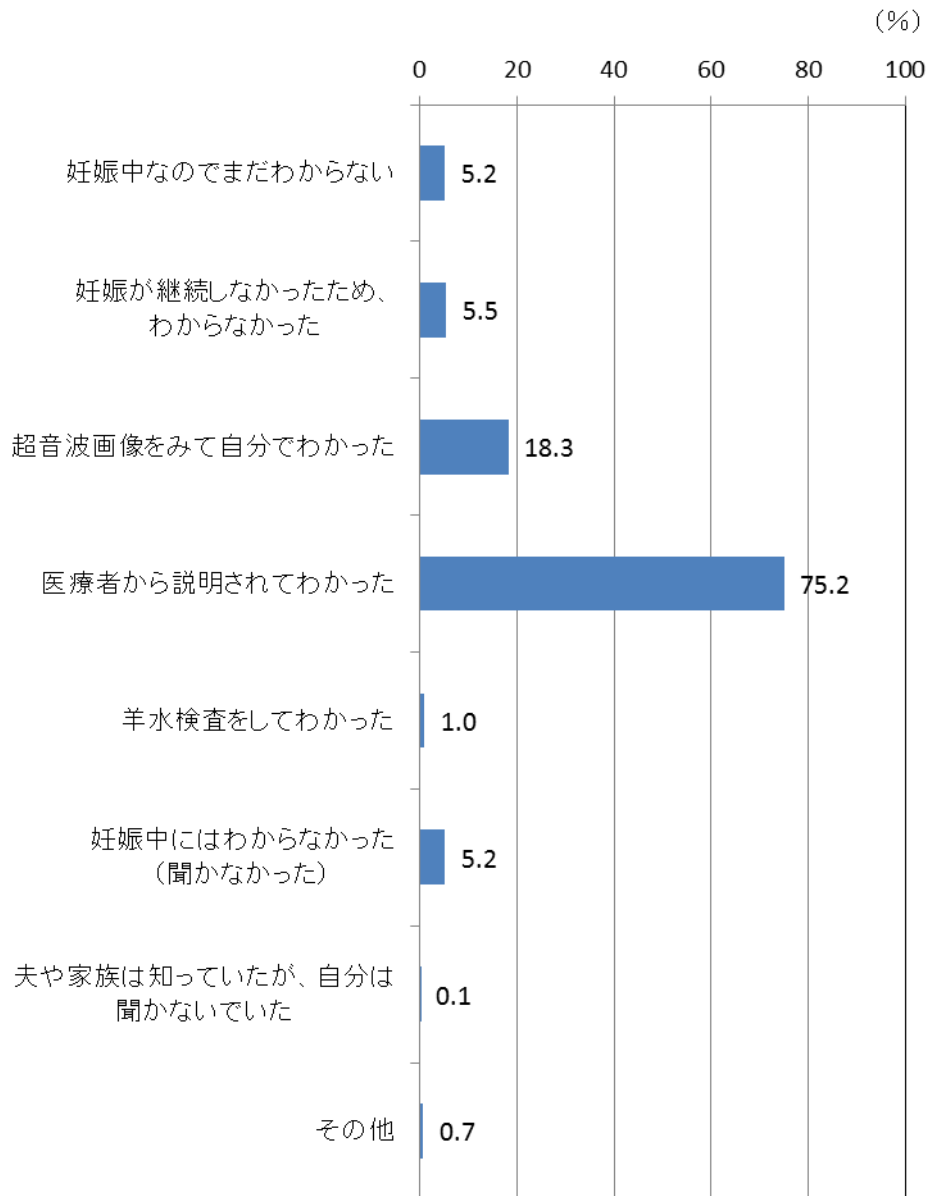


◇2-2-4 性別を知った方法

一番最近の妊娠の経験について、「妊娠中に胎児の性別を知りましたか。わかった方法も教えてください」と尋ね、「妊娠中なのでまだわからない」、「妊娠が継続しなかったため、わからなかった」、「超音波画像をみて自分でわかった」、「医療者から説明されてわかった」「羊水検査をしてわかった」、「妊娠中にはわからなかった（聞かなかった）」、「夫や家族は知っていたが、自分は聞かないでいた」「その他」からあてはまるものをすべて選んでもらった。

妊娠中に性別が「わからなかった（聞かなかった）」という人は 122 (5.2%) で、多くの人は妊娠中に性別を知っていた。性別を知った方法は、「医療者から説明されてわかった」が 1751 (75.2%) と最も多い。「超音波画像をみて自分でわかった」という人も 426 (18.3%) いた。

(n=2327)

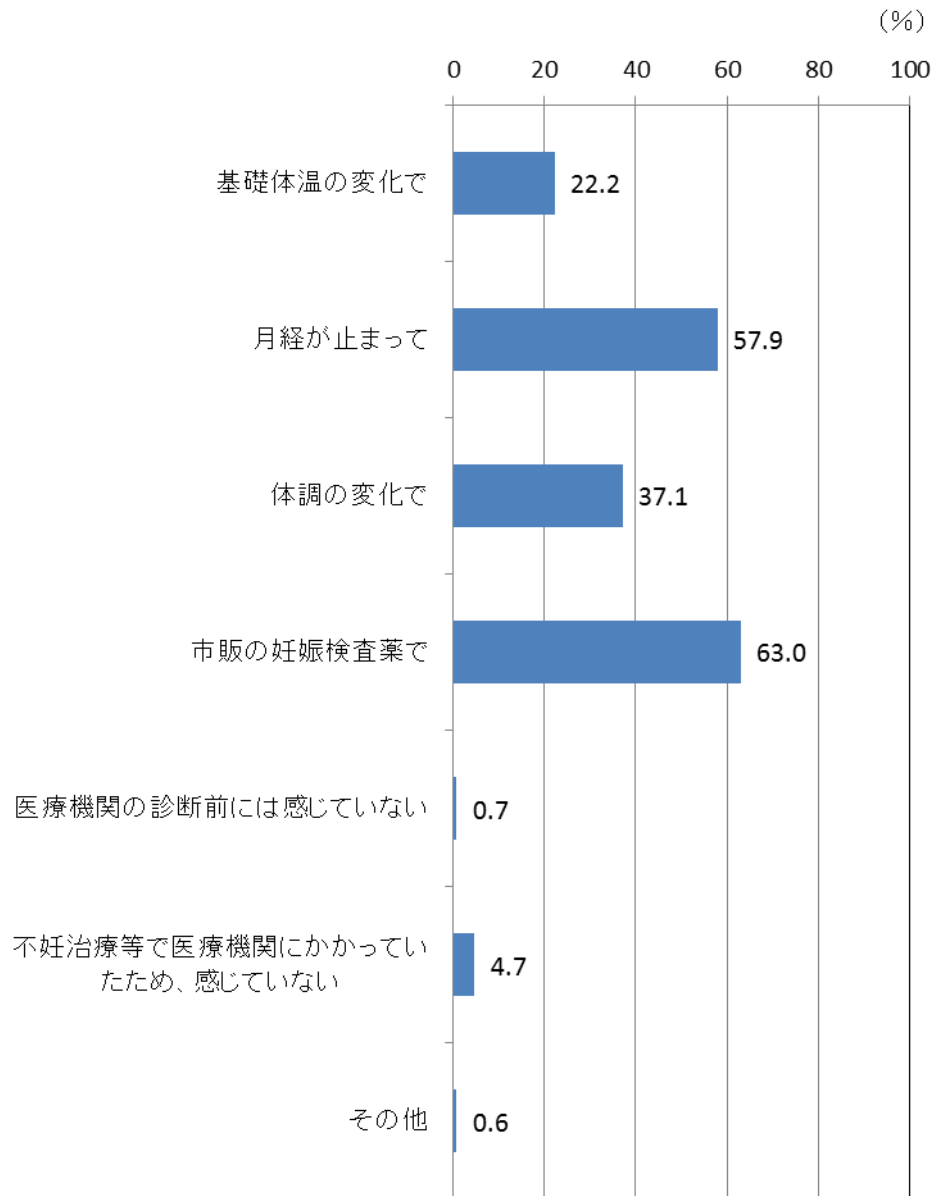


◇2-2-5 妊娠したと感じたとき

一番最近の妊娠の経験について、「医療機関でその妊娠が診断される前に、最初にご自身で妊娠しているかなと感じましたか。それはどのような時でしたか」と尋ね、「基礎体温の変化で」、「月経が止まって」、「体調の変化で」、「市販の妊娠検査薬で」、「医療機関の診断前には感じていない」、「不妊治療等で医療機関にかかっていたため」、「感じていない」、「その他」からあてはまるものを回答してもらった。

妊娠しているかなと感じた人ではそのきっかけは、「市販の妊娠検査薬で」1466 (63.0%)、「月経が止まって」1348 (57.9%)、「体調の変化で」863 (37.1%)、「基礎体温の変化で」517 (22.2%)であった。一方、「不妊治療等で医療機関にかかっていたため」110 (4.7%)や「医療機関の診断前には感じていない」17 (0.7%)という、妊娠しているかなと感じなかった人も5%強いた。

(n=2327)

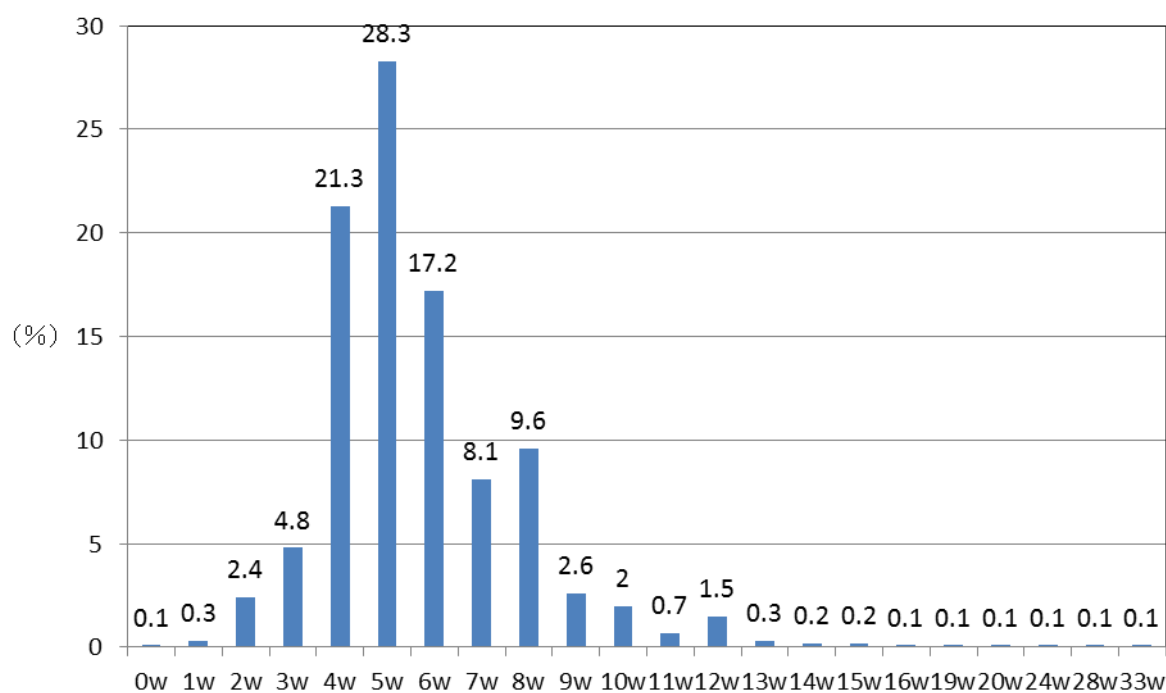


◇2-2-6 妊娠がわかった週数

「一番最近の妊娠がわかったときは、妊娠何週目でしたか」と尋ね、週数を数字で回答してもらった（「覚えていない」、「答えたくない」という選択肢も用意した）。

週数の回答があった人のうち、最も多かったのは5週 28.3%、4週 21.3%、6週 17.2%の順で、この期間で全体の3分の2を占めている。週数の回答の平均は5.7（標準偏差2.3）であった。

(n=1788)

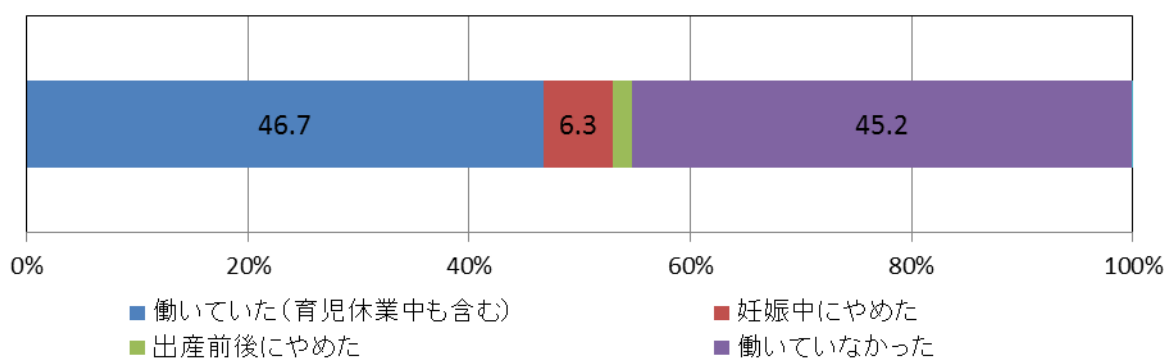


◇2-2-7 就業状況

「一番最近の妊娠がわかったとき、働いていましたか」と尋ね、「働いていた（育児休業中も含む）」、「妊娠中にやめた」、「出産前後にやめた」、「働いていなかった」、「覚えていない」から回答してもらった。

働いていた（育児休業中も含む）という人が 1087（46.7%）、働いていなかった人が 1052（45.2%）であった。「妊娠中にやめた」146（6.3%）、「出産前後にやめた」39（1.7%）、「覚えていない」3（0.1%）であった。

(n=2327)

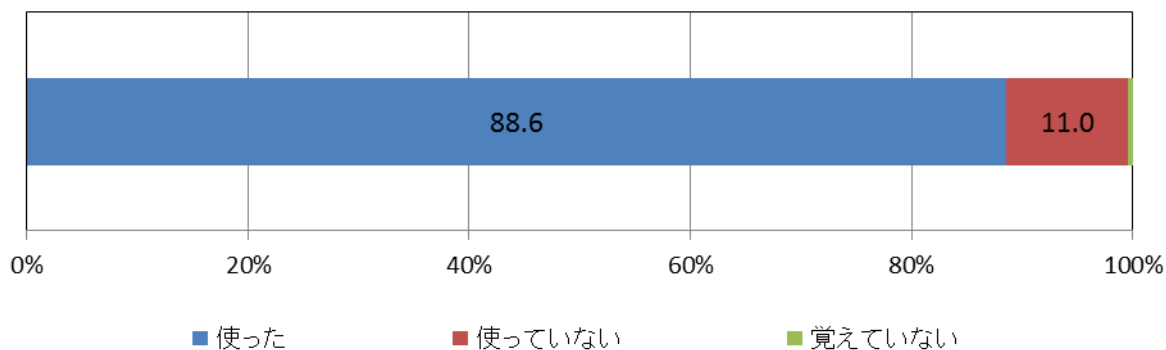


◇2-2-8 妊娠検査薬の利用

「一番最近の妊娠時に、市販の妊娠検査薬は使いましたか」と尋ね、「使った」、「使っていない」、「覚えていない」から回答してもらった。

市販の妊娠検査薬を「使った」が 2062（88.6%）と多数であった。「使っていない」人は、256（11.0%）、「覚えていない」は 9（0.4%）であった。

(n=2327)

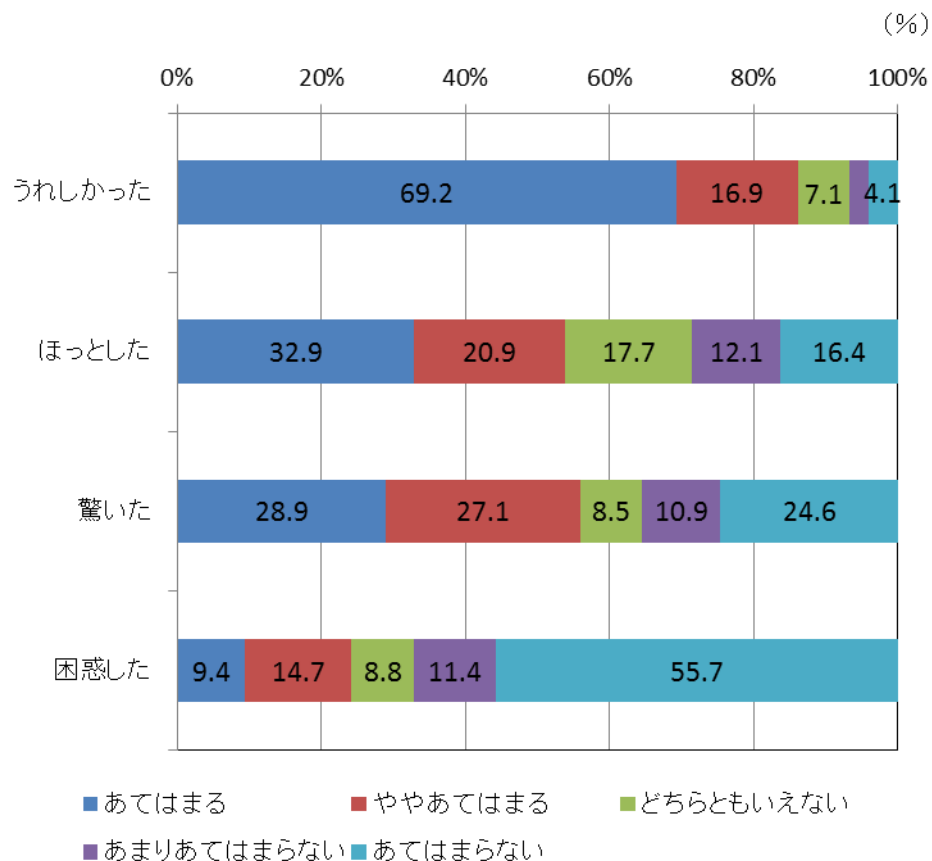


◇2-2-9 妊娠に気づいたときの気持ち

「一番最近の妊娠に気づいた時のお気持ちを教えてください」と尋ね、「うれしかった」、「ほっとした」、「驚いた」、「困惑した」の4つについて、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」から、それぞれ1つずつ回答してもらった。

「うれしかった」は8割以上があてはまると答え、「困惑した」では7割近くがあてはまらないと回答している。「ほっとした」「驚いた」は半数近くが「あてはまる」が、「あてはまらない」という回答も一定数いる。

(n=2316)

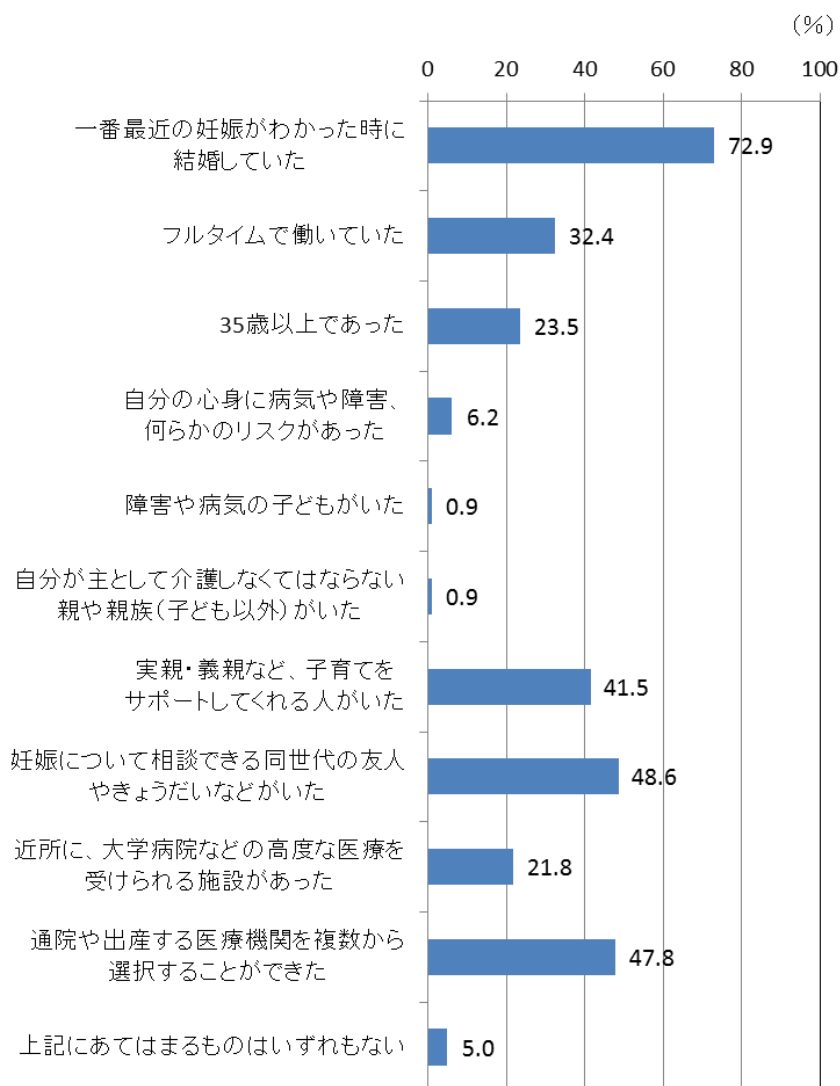


◇2-2-10 妊娠がわかった時の状況

「一番最近の妊娠時のあなたの状況について、あてはまるものをすべてお選びください」と尋ね、下記の10の状況について、あてはまるものを回答してもらった。

一番最近の妊娠時の回答者の状況では、「結婚していた」1697（72.9%）、フルタイムで働いていた754（32.4%）、35歳以上であった548（23.5%）である。妊娠中のサポートについては、相談できる友人・きょうだいがいた1131（48.6%）、親などのサポートしてくれる人がいた966（41.5%）である。医療機関の状況では、複数から選択できた人は1113（47.8%）、近所に高度な医療を受けられる施設があった人は508（21.8%）であった。

(n=2327)

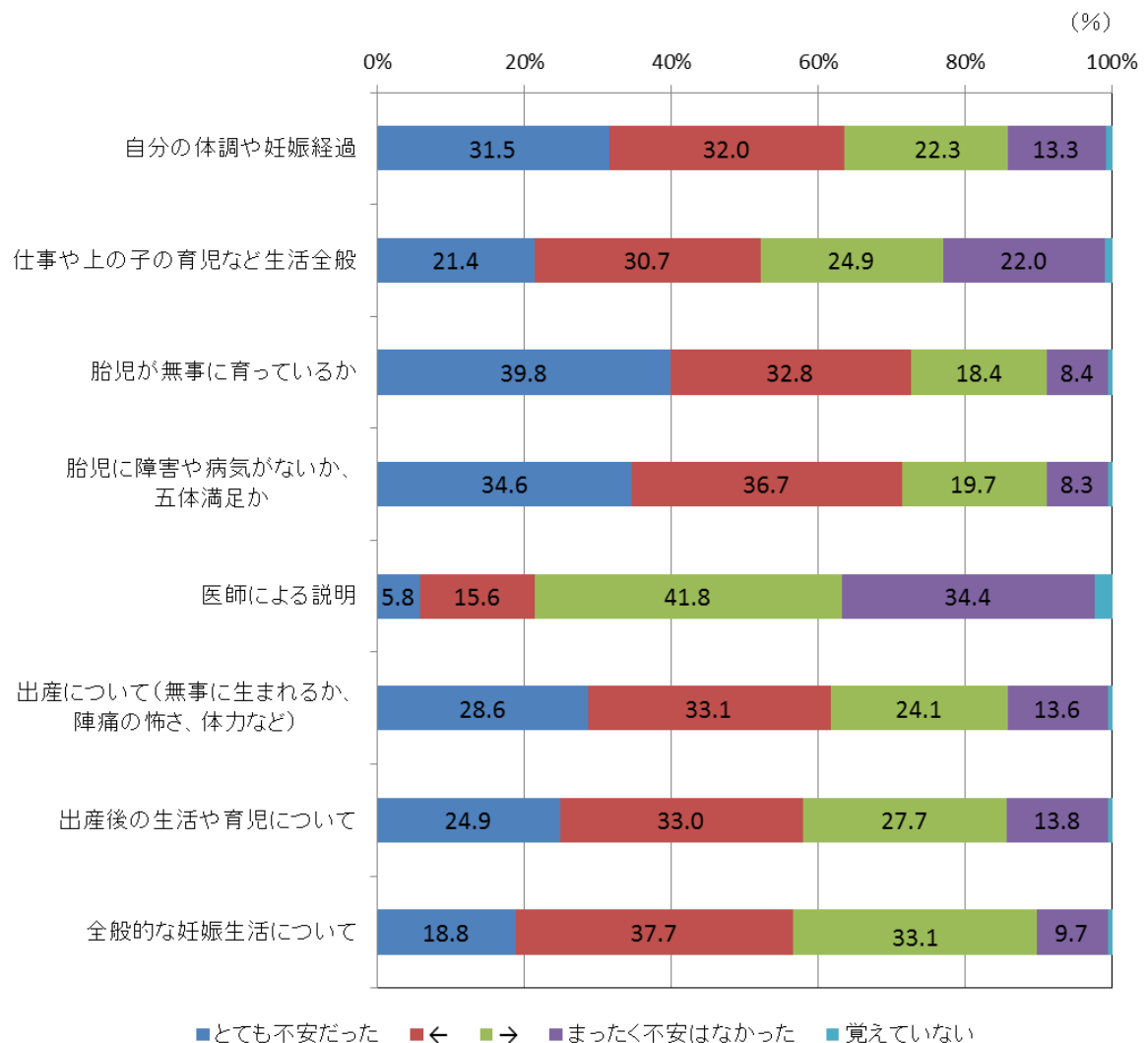


◇2-2-11 妊娠初期の不安

「一番最近の妊娠がわかった頃（妊娠初期・12週頃まで）の不安についておたずねします」として、以下の8つの内容について、「とても不安だった」～「まったく不安はなかった」までの4段階でそれぞれ回答してもらった。選択肢には「覚えていない」、「答えたくない」も用意した。

「胎児が無事に育っているか」、「胎児に障害や病気がないか、五体満足か」で7割の人が不安を感じていた。反対に、「医師による説明」には不安がなかったという人が7割であった。8項目の中では、胎児に関する項目で不安があったという人が多く、妊娠中や出産後の生活や育児については不安があったという人の割合はやや少ない。

(n=2309)

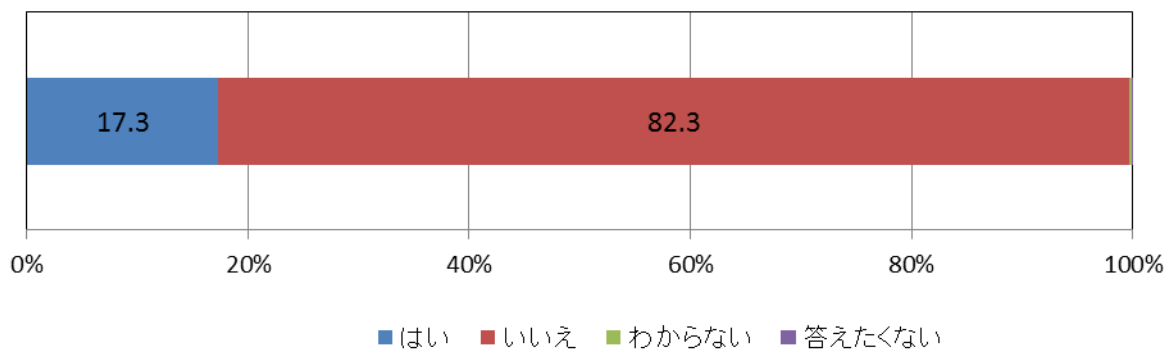


◇2-2-12 不妊検査・治療

「一番最近の妊娠のために、医療機関で不妊の検査や治療を受けたことがありますか」と尋ね、「はい」、「いいえ」、「わからない」、「答えたくない」から回答してもらった。

医療機関で不妊の検査や治療を受けたことがある（「はい」の回答の）人は403（17.3%）、「いいえ」が1916（82.3%）、「わからない」5（0.2%）、「答えたくない」3（0.1%）であった。

(n=2327)

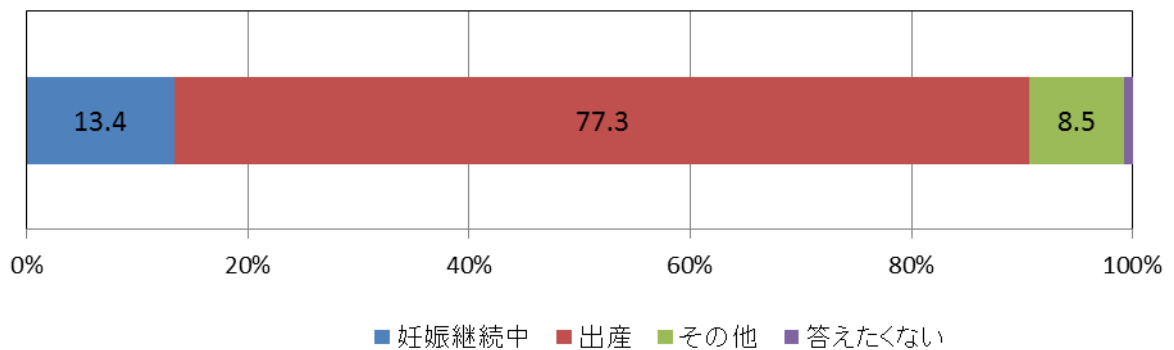


◇2-2-13 妊娠の結果

「一番最近の妊娠の結果について教えてください」と尋ね、「妊娠継続中」、「出産」、「その他」、「答えたくない」から回答してもらった。

「出産」が1799（77.3%）、「妊娠継続中」312（13.4%）、「その他」195（8.5%）、「答えたくない」19（0.8%）であった。

(n=2327)

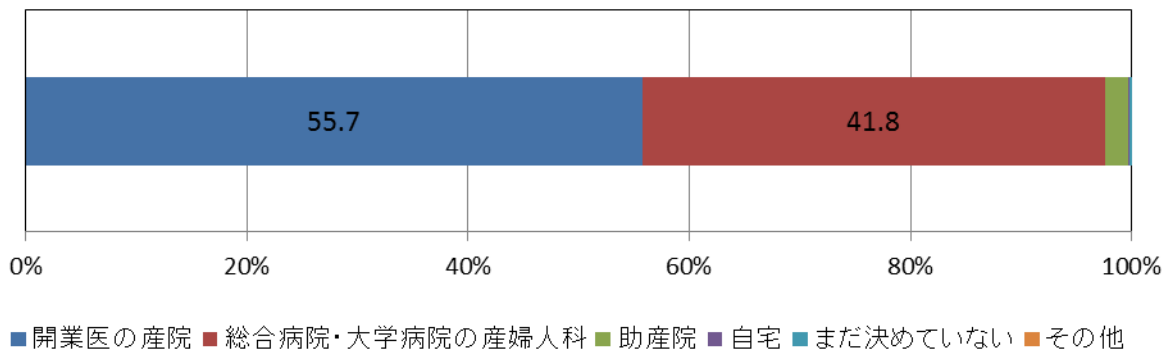


◇2-2-14 出産した場所

妊娠継続中もしくは出産した人に、「一番最近の妊娠時に出産した場所はどちらですか。妊娠中の方は、出産予定の場所をお選びください」と尋ね、「開業医の産院」、「総合病院・大学病院の産婦人科」、「助産院」、「自宅」、「まだ決めていない」、「その他」から回答してもらった。

「開業医の産院」が 1187 (55.7%)、「総合病院・大学病院の産婦人科」891 (41.8%)、助産院 45 (2.1%)、自宅 3 (0.1%)、まだ決めていない 3 (0.1%)、その他 3 (0.1%) と、産院、病院での出産が 9 割以上であった。

(n=2132)



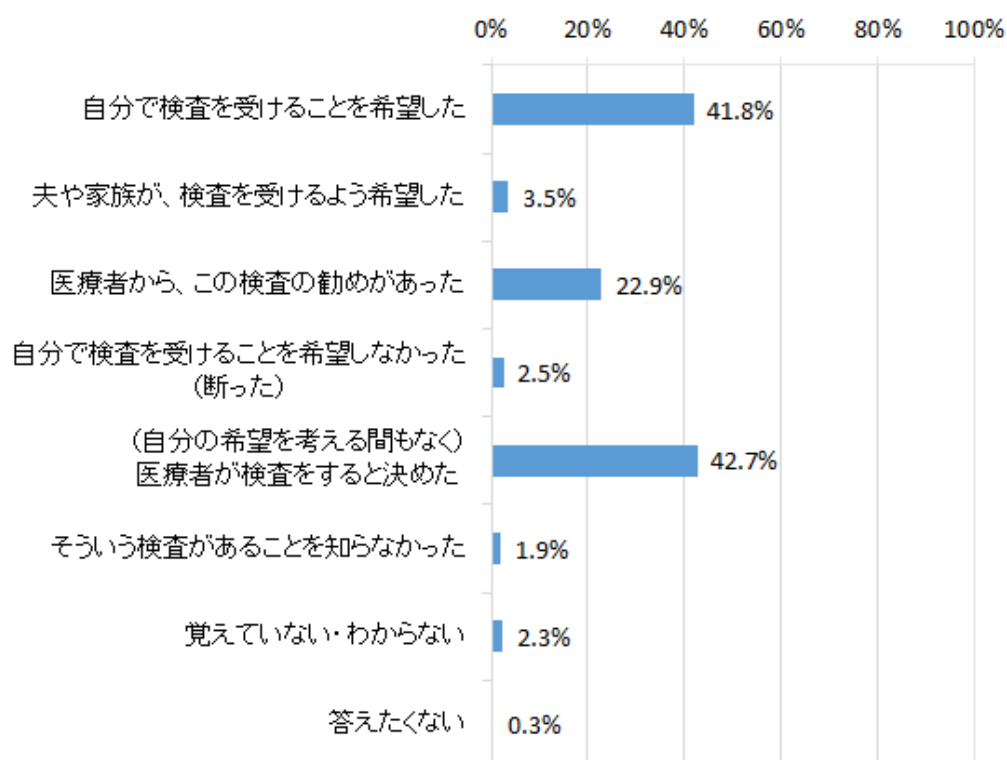
2-3 超音波検査の経験

◇2-3-1 誰が超音波検査を希望したか

「一番最近の妊娠時に、超音波検査についてあなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分で検査を受けることを希望した」、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」、「医療者から、この検査の勧めがあった」、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」、「そういう検査があることを知らなかった」、「覚えていない・わからない」、「答えたくない」から回答してもらった。

「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」は 948 (42.7%)、「自分で検査を受けることを希望した」は 929 (41.8%)、「医療者から、この検査の勧めがあった」は 509 (22.9%)、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」は 77 (3.5%)、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」は 56 (2.5%)、「覚えていない・わからない」は 52 (2.3%)、「そういう検査があることを知らなかった」は 42 (1.9%)、「答えたくない」は 6 (0.3%) だった。「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」や「自分で検査を受けることを希望した」が各々4割程度と最も多かった。

(n = 2221)

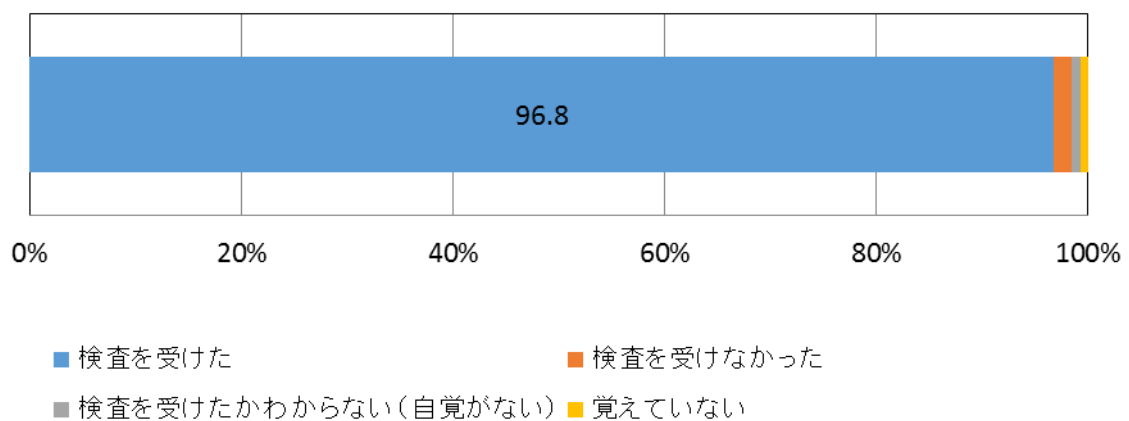


◇2-3-2 超音波検査を受けたか

「一番最近の妊娠時に、あなたは超音波検査（エコー）を受けましたか」という質問に、「検査を受けた」、「検査を受けなかった」、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「覚えていない」から回答してもらった。

本質問に回答のあった 2221 名のうち 85 名は、別の質問（※超音波検査の頻度を尋ねる質問）の内容と矛盾が認められたため、集計対象から除外し、対象数は 2136 名とした。2136 のうち、「検査を受けた」が 2068（96.8%）と大多数であった。「検査を受けなかった」が 36 名（1.7%）、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」が 17（0.8%）、「覚えていない」が 15（0.7%）だった。

(n = 2136)

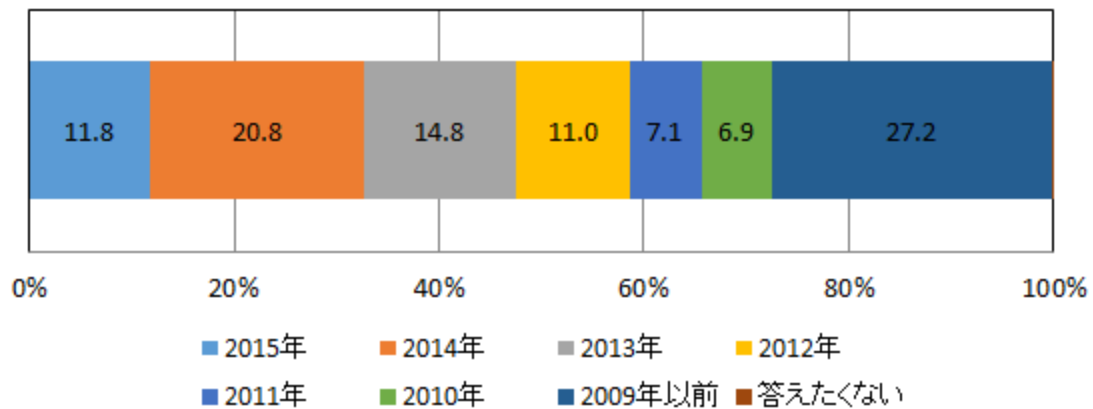


◇2-3-3 超音波検査を受けた時期

前問で超音波検査を受けたと回答した 2068 名に、「前の質問で答えた検査を受けた時期を教えてください。2 回以上受けた方は、直近の時期をお答えください」と尋ね、2009 年以前、2010 年から 2015 年までの年、「答えたくない」で回答してもらった。

2009 年以前が 437 (27.2%) と最も多く、続いて、2014 年が 431 (20.8%)、2013 年が 307 (14.8%)、2015 年が 245 (11.8%)、2012 年が 228 (11.0%)、2011 年が 147 (7.1%)、2010 年が 143 (6.9%)、「答えたくない」が 4 (0.2%) だった。

(n = 2068)

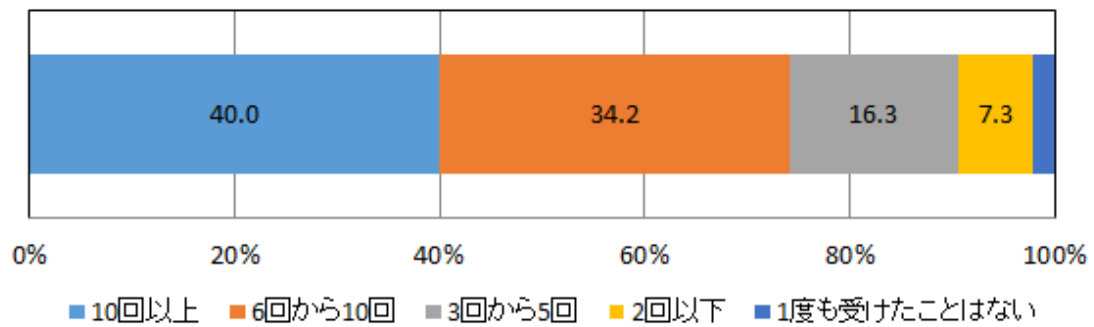


◇2-3-4 超音波検査を受けた頻度

「一番最近の妊娠時に超音波検査を受けましたか」という質問に、「10回以上」、「6回から10回」、「3回から5回」、「2回以下」、「1度も受けたことはない」で回答してもらった。

「10回以上」が850（40.0%）、「6回から10回」が727（34.2%）、「3回から5回」が346（16.3%）、「2回以下」が156（7.3%）、「1度も受けたことはない」が46（2.2%）だった。10回以上が4割を占め、超音波検査を受ける頻度は比較的高いことが確認できた。

(n = 2125)



◇2-3-5 医療者からの説明

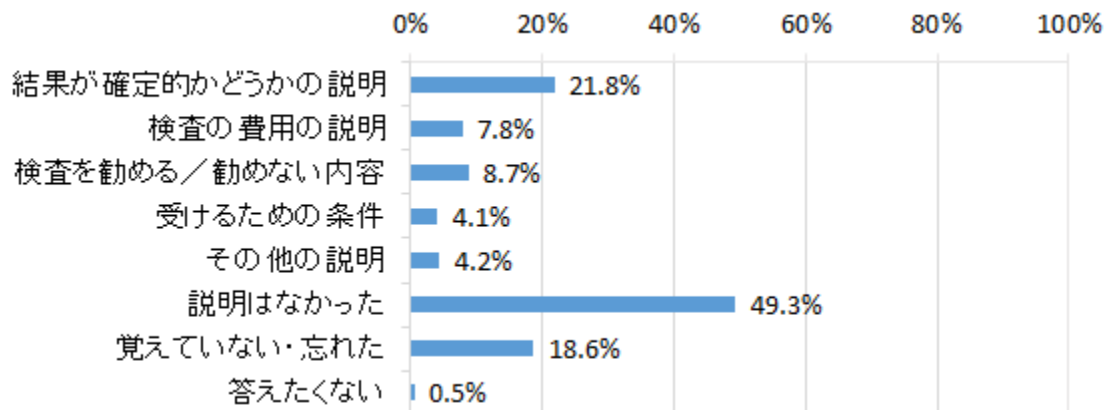
下記の検査に関する解説文をつけた上で、「医療者から以下の検査について、検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか。それぞれの検査について、あてはまるものをすべてお選びください。」という質問に、「結果が確定的かどうかの説明」、「検査の費用の説明」、「検査を勧める／勧めない内容」、「受けるための条件」、「その他の説明」、「説明はなかった」、「覚えていない・忘れた」、「答えたくない」で回答してもらった。

超音波検査では、「結果が確定的かどうかの説明」は 485 (21.8%)、「検査の費用の説明」は 173 (7.8%)、「検査を勧める／勧めない内容」は 194 (8.7%)、「受けるための条件」は 90 (4.1%)、「その他の説明」は 94 (4.2%)、「説明はなかった」は 1094 (49.3%)、「覚えていない・忘れた」は 412 (18.6%)、「答えたくない」は 10 (0.5%) だった。

(n = 2221)

【超音波検査 (エコー)】

超音波検査 (エコー) とは、妊娠中の超音波検査には、主に妊娠初期に膣から器具を挿入し胎児を確認する経膣超音波と、腹部の上から調べ、エコーといわれる経腹超音波の両方があります。

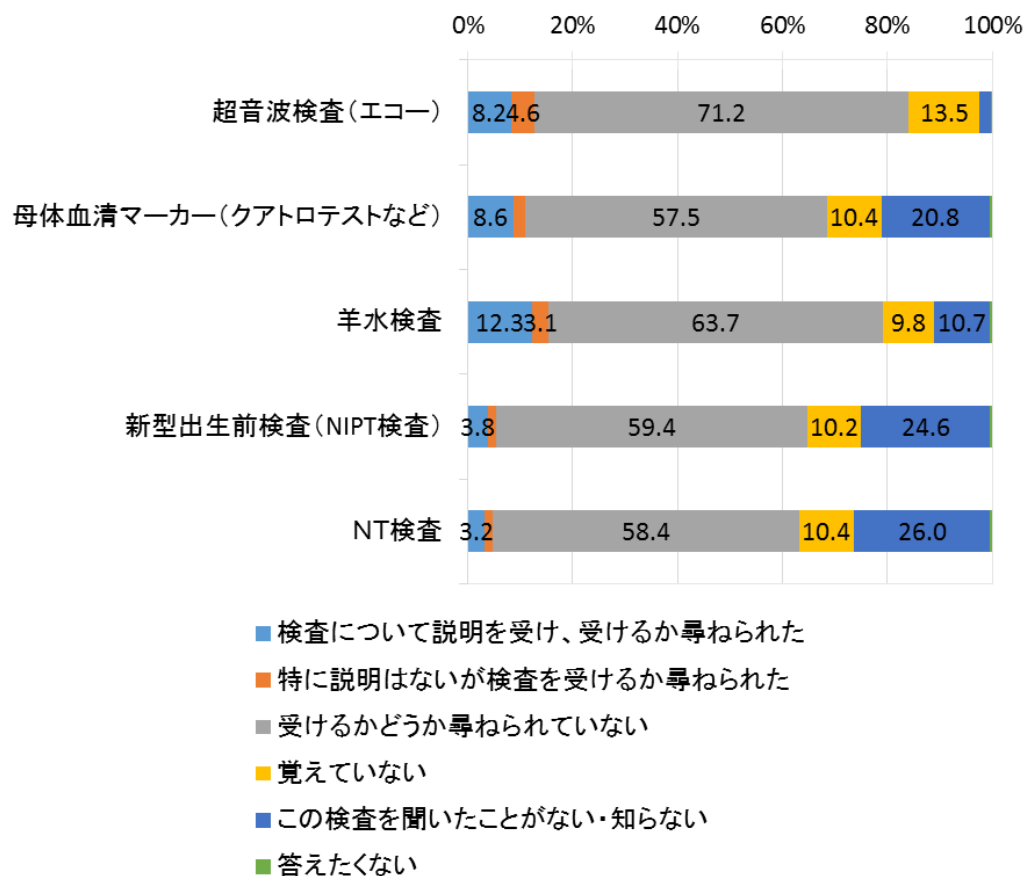


◇2-3-6 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

前述の検査に関する解説文をつけた上で、「一番最近の妊娠時に、次のような検査について医療者からの質問はありましたか」という質問に、「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」、「受けるかどうか尋ねられていない」、「覚えていない」、「この検査を聞いたことがない・知らない」、「答えたくない」で回答してもらった。

超音波検査では「検査について説明を受け、受けるか尋ねられた」は183 (8.2%)、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」は102 (4.6%)、「受けるかどうか尋ねられていない」は1582 (71.2%)、「覚えていない」は299 (13.5%)、「この検査を聞いたことがない・知らない」は48 (2.2%)、「答えたくない」は7 (0.3%) だった。

(n = 2221)



◇2-3-7 超音波検査を受けた理由または受けなかった理由

前述の検査に関する解説文をつけた上で、超音波検査を受けたか・受けなかったかで以下の質問に回答してもらった。まず「検査を受けた理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「胎児の異常がわかるから」、「受けるのものだと思っていたから」、「医師から勧められたから」、「自分の病気などリスクが高いから」、「自分の身体の状況を知るために必要だから」、「リスクがないと思っていたから」、「妊娠の経過がわかるから」、「安心したいから」、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」、「前の妊娠が流産・死産だったから」、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。また、「検査を受けなかった理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「何の検査かよくわからなかったから」、「医師から言われなかった・勧められなかったから」、「受ける必要を感じなかった」、「産むと決めていた」、「検査をすると不安になるから」、「経済的な理由から」、「必要と思わなかったから」、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」、「その他」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。

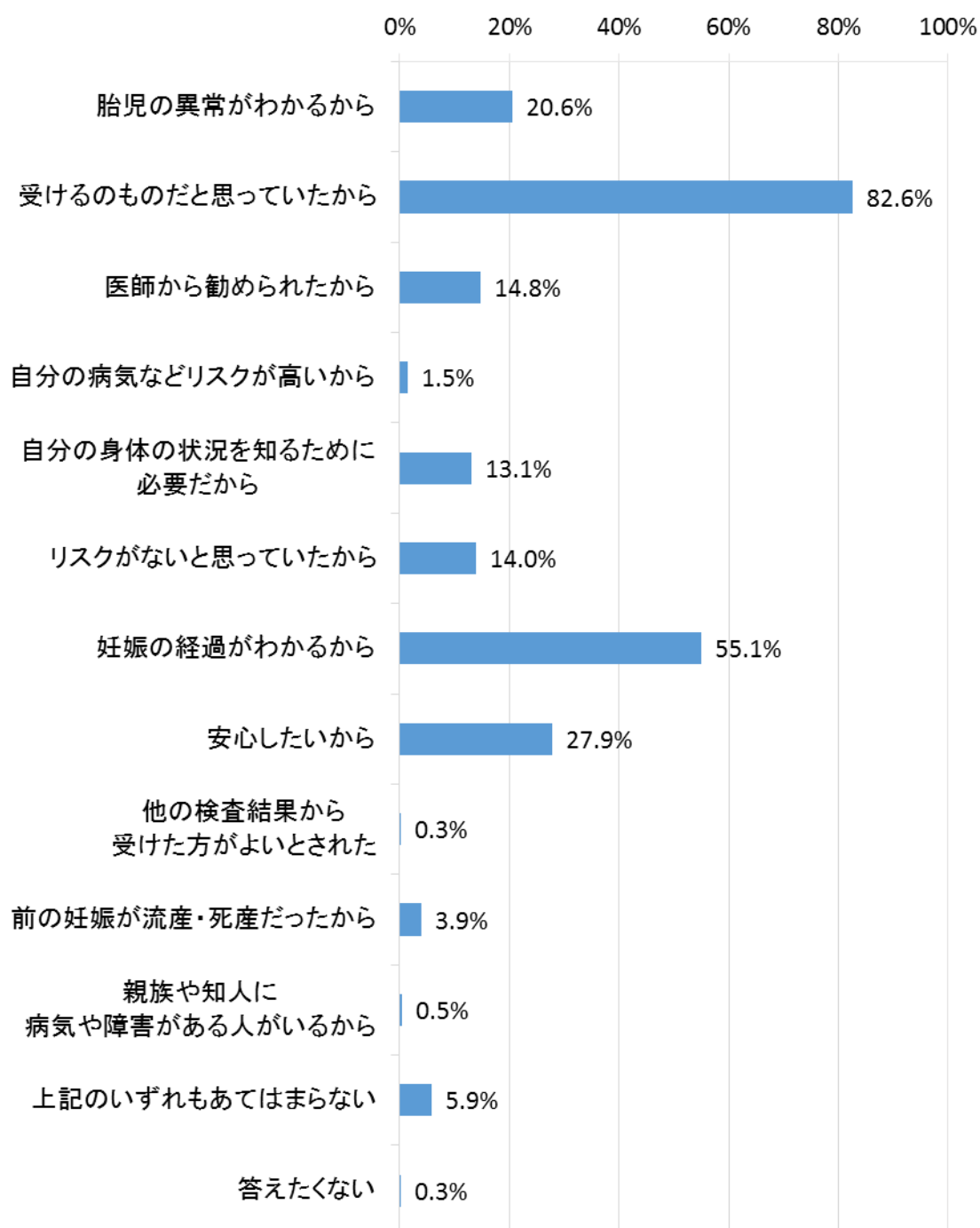
受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」は 425 (20.6%)、「受けるのものだと思っていたから」は 1708 (82.6%)、「医師から勧められたから」は 306 (14.8%)、「自分の病気などリスクが高いから」は 30 (1.5%)、「自分の身体の状況を知るために必要だから」は 271 (13.1%)、「リスクがないと思っていたから」は 289 (14.0%)、「妊娠の経過がわかるから」は 1140 (55.1%)、「安心したいから」は 577 (27.9%)、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」は 7 (0.3%)、「前の妊娠が流産・死産だったから」は 80 (3.9%)、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」は 10 (0.5%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 122 (5.9%)、「答えたくない」は 7 (0.3%) だった。 (n=2068)

受けなかった理由としては、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」は 4 (11.1%)、「何の検査かよくわからなかったから」は 2 (5.6%)、「医師から言われなかった・勧められなかったから」は 6 (16.7%)、「受ける必要を感じなかった」は 9 (25.0%)、「産むと決めていた」は 7 (19.4%)、「検査をすると不安になるから」は 2 (5.6%)、「経済的な理由から」は 3 (8.3%)、「必要と思わなかったから」は 7 (19.4%)、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」は 0 (0.0%)、「その他」は 5 (13.9%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 8 (22.2%)、「答えたくない」は 0 (0.0%) だった。 (n=36)

受けた理由としては、「受けるものだと思っていたから」が最も多く、続いて「妊娠の経過がわかるから」が半数以上、「安心したいから」が 3 割弱だった。また、受けなかった理由としては、「受ける必要を感じなかった」、「上記のいずれもあてはまらない」が各々 2 割以上と最も多かった。

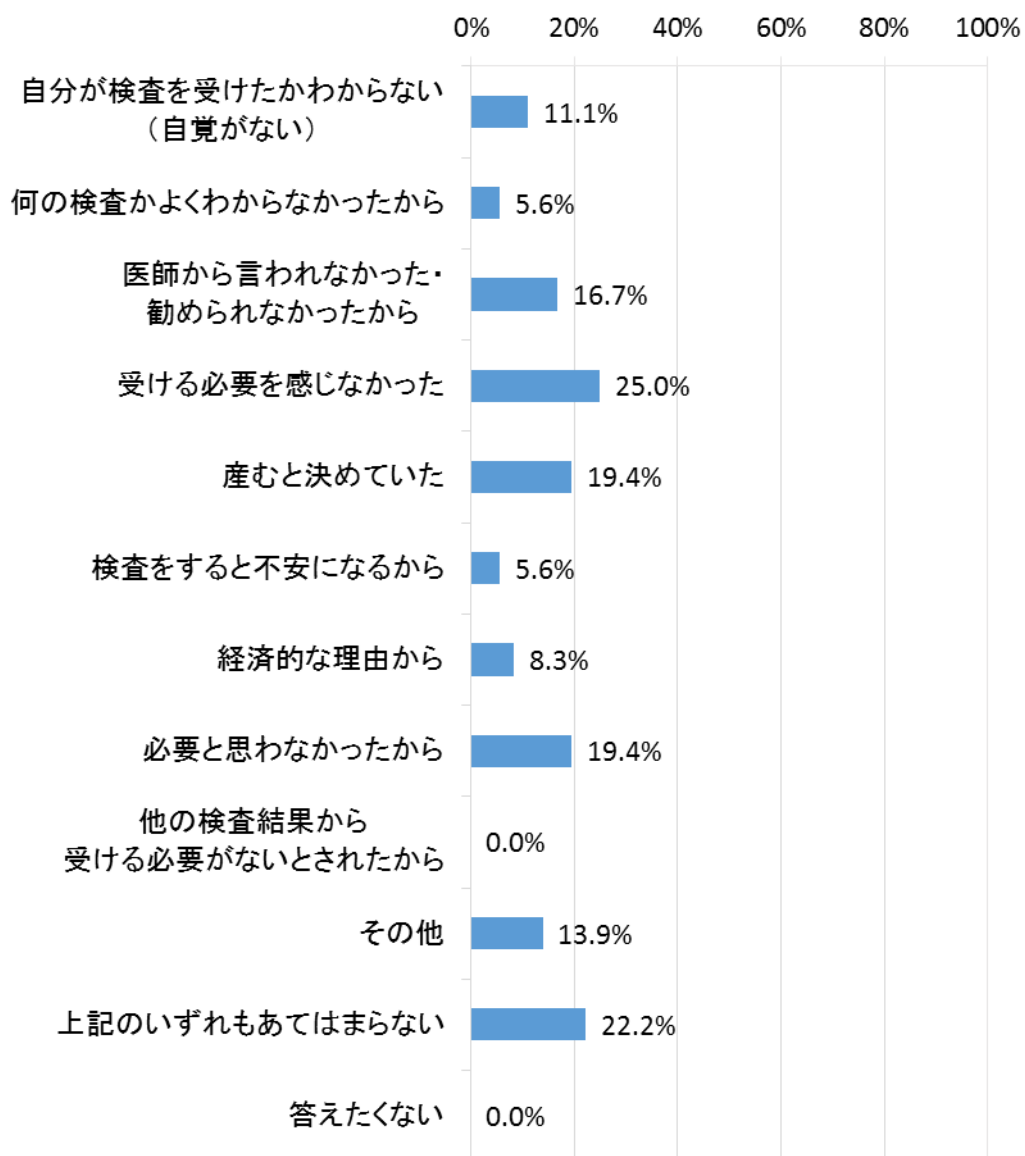
受けた理由

(n=2068)



受けなかった理由

(n=36)

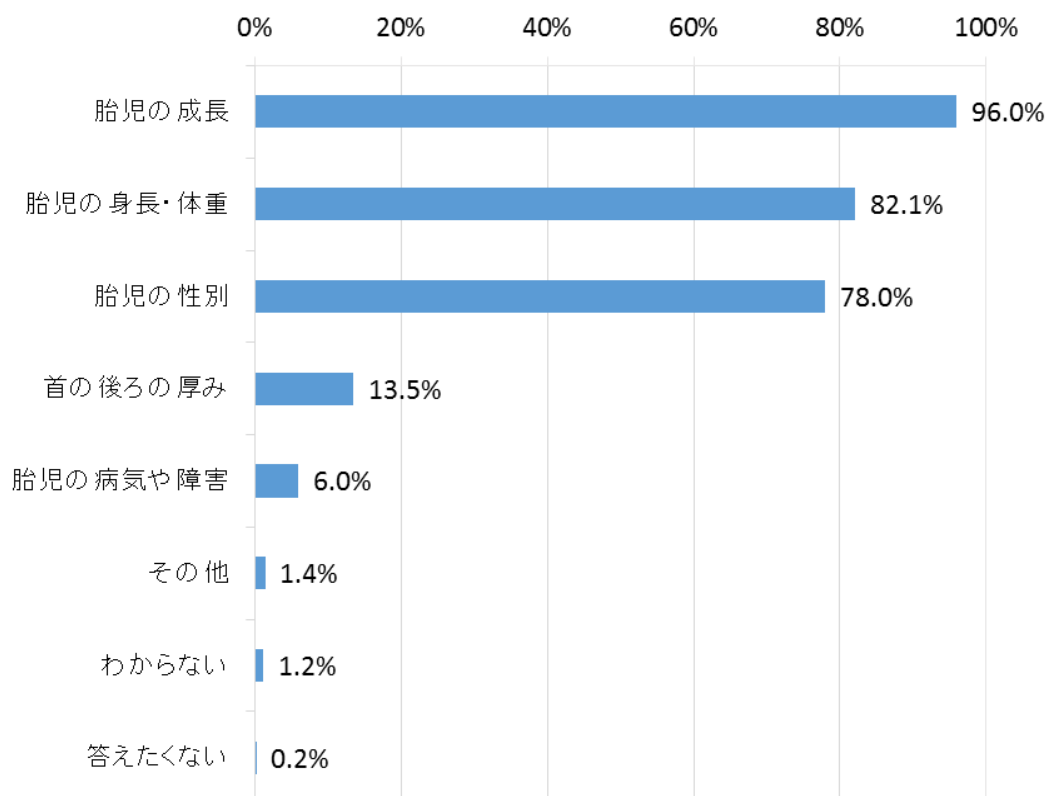


◇2-3-8 超音波検査の結果

超音波検査を受けた人を対象として、「超音波検査によって何がわかりましたか」という質問に、「胎児の成長」、「胎児の身長・体重」、「胎児の性別」、「首の後ろの厚み」、「胎児の病気や障がい」、「その他」、「わからない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「胎児の成長」は 1986 (96.0%)、「胎児の身長・体重」は 1697 (82.1%)、「胎児の性別」は 1613 (78.0%)、「首の後ろの厚み」は 280 (13.5%)、「胎児の病気や障がい」は 124 (6.0%)、「その他」は 28 (1.4%)、「わからない」は 24 (1.2%)、「答えたくない」は 4 (0.2%) だった。その他の具体的な内容としては、「双子の体重差」、「お腹の中での様子や表情」、「顔つき」、「胎盤の位置」などの記載がみられた。超音波検査によって胎児の成長や身長・体重・性別がわかったと回答した人が約 8 割以上を占めた。

(n = 2068)



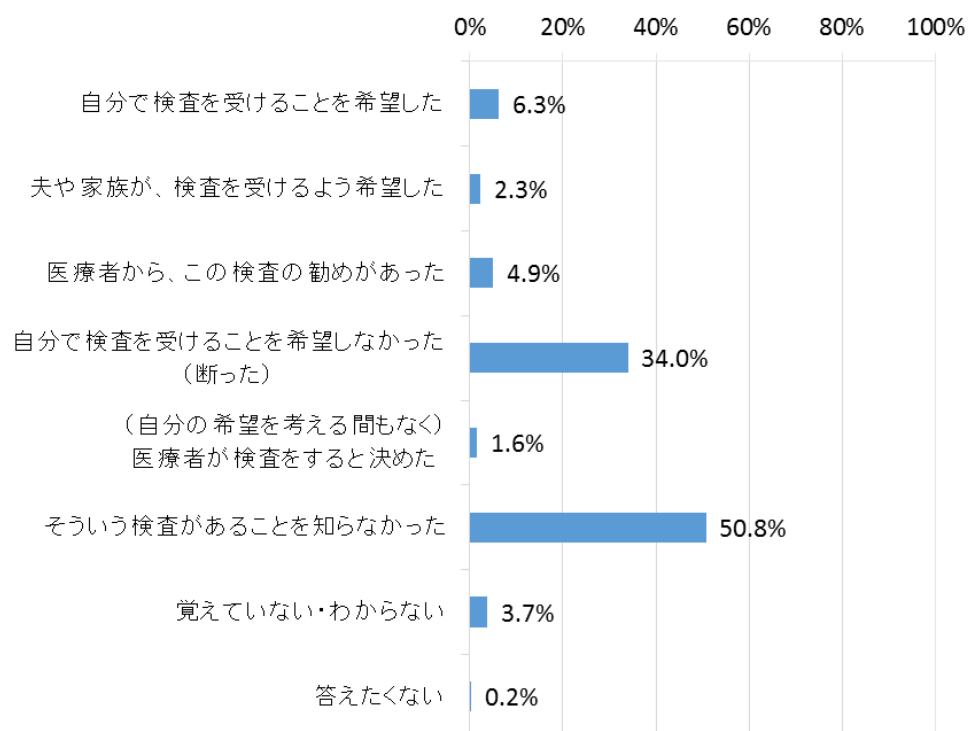
2-4 母体血清マーカー検査の経験

◇2-4-1 誰が母体血清マーカー検査を希望したか

「一番最近の妊娠時に、母体血清マーカー検査についてあなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分で検査を受けることを希望した」、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」、「医療者から、この検査の勧めがあった」、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」、「そういう検査があることを知らなかった」、「覚えていない・わからない」、「答えたくない」から回答してもらった。

「そういう検査があることを知らなかった」は 1128 (50.8%)、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」は 755 (34.0%)、「自分で検査を受けることを希望した」は 139 (6.3%)、「医療者から、この検査の勧めがあった」は 108 (4.9%)、「覚えていない・わからない」は 82 (3.7%)、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」51 (2.3%)、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」は 35 (1.6%)、「答えたくない」は 4 (0.2%) だった。「そういう検査があることを知らなかった」が最も多く半数を占め、続いて「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」が多かった。

(n = 2221)

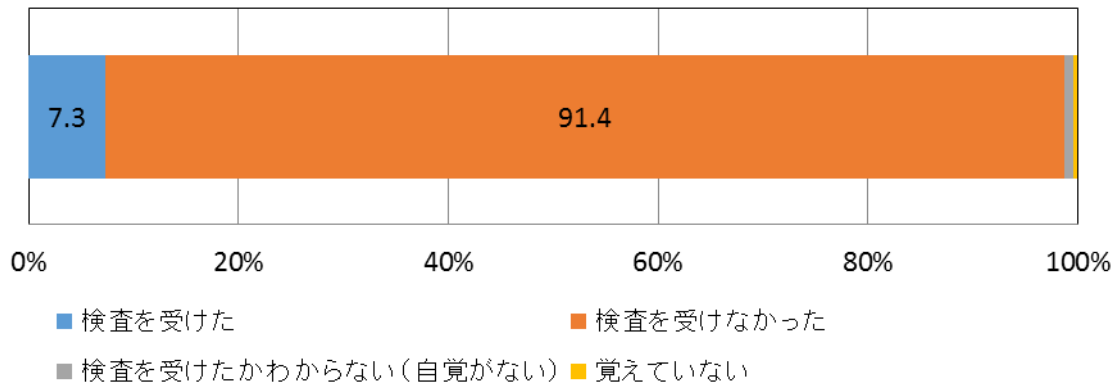


◇2-4-2 母体血清マーカー検査を受けたか

「一番最近の妊娠時に、あなたは母体血清マーカー（クアトロテストなど）を受けましたか」という質問に、「検査を受けた」、「検査を受けなかった」、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「覚えていない」で回答してもらった。

「検査を受けた」は163名（7.3%）、「検査を受けなかった」は2029名（91.4%）、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」は20（0.3%）、「覚えていない」は9（0.4%）だった。母体血清マーカー検査を受けたと回答した人の割合は、2013年調査の結果（保育園調査10.5%、医療機関調査6.0%）と同程度だった。

(n=2221)

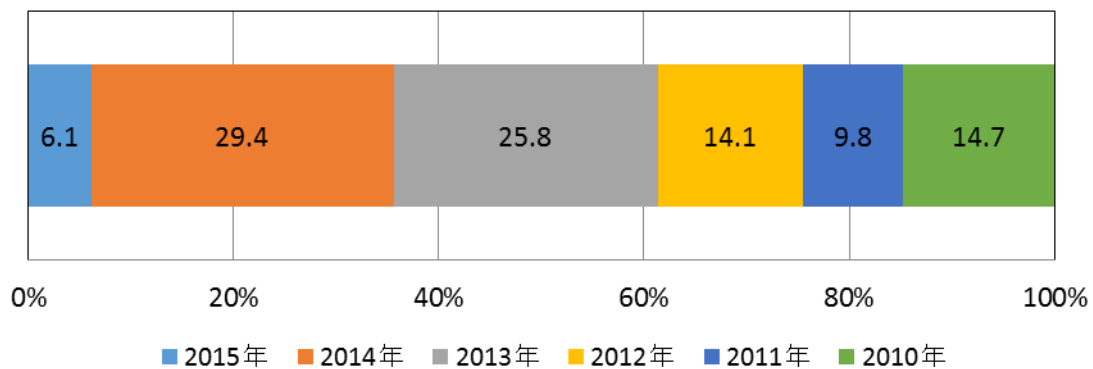


◇2-4-3 母体血清マーカー検査を受けた時期

前問で母体血清マーカー検査を受けたと回答した 163 名に、「前の質問で答えた検査を受けた時期を教えてください。2 回以上受けた方は、直近の時期をお答えください」と尋ね、2009 年以前、2010 年から 2015 年までの年、「答えたくない」で回答してもらった。

2014 年が 48 名 (29.4%)、2013 年が 42 名 (25.8%)、2010 年が 24 名 (14.7%)、2012 年が 23 名 (14.1%)、2011 年が 16 名 (9.8%)、2015 年が 10 名 (6.1%) だった。2013 年と 2014 年に受けた人が半数を占めた。

(n = 163)



◇2-4-4 医療者からの説明

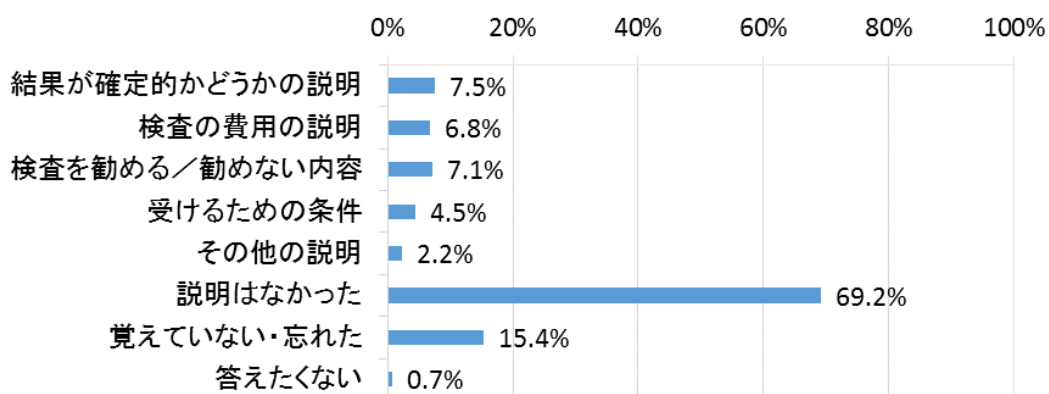
下記の検査に関する解説文をつけた上で、「医療者から以下の検査について、検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか。それぞれの検査について、あてはまるものをすべてお選びください。」という質問に、「結果が確定的かどうかの説明」、「検査の費用の説明」、「検査を勧める／勧めない内容」、「受けるための条件」、「その他の説明」、「説明はなかった」、「覚えていない・忘れた」、「答えたくない」で回答してもらった。

母体血清マーカー検査では、「結果が確定的かどうかの説明」は 167 (7.5%)、「検査の費用の説明」は 150 (6.8%)、「検査を勧める／勧めない内容」は 158 (7.1%)、「受けるための条件」は 101 (4.5%)、「その他の説明」は 49 (2.2%)、「説明はなかった」は 1538 (69.2%)、「覚えていない・忘れた」は 341 (15.4%)、「答えたくない」は 15 (0.7%) だった。

(n = 2221)

【母体血清マーカー (クアトロテストなど)】

母体血清マーカー (クアトロテストなど) とは、『トリプルマーカー』や『クアトロテスト』などとも呼ばれる特別な検査です。結果は確率で出されません。すべての病院で行っているわけではありません。妊婦の血液から胎児の状態を推定します。

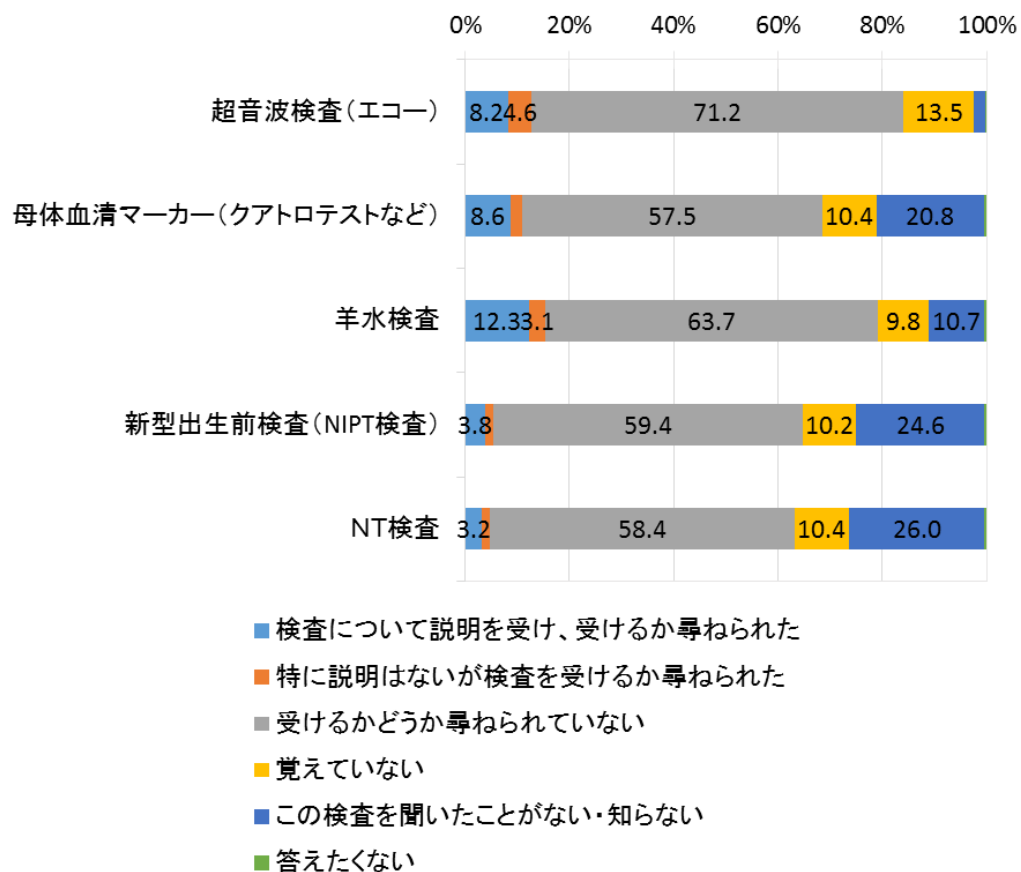


◇2-4-5 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

前述の検査に関する解説文をつけた上で、「一番最近の妊娠時に、次のような検査について医療者からの質問はありましたか」という質問に、「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」、「受けるかどうか尋ねられていない」、「覚えていない」、「この検査を聞いたことがない・知らない」、「答えたくない」で回答してもらった。

母体血清マーカー検査では「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」は 192 (8.6%)、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」は 50 (2.3%)、「受けるかどうか尋ねられていない」は 1278 (57.5%)、「覚えていない」は 231 (10.4%)、「この検査を聞いたことがない・知らない」は 461 (20.8%)、「答えたくない」は 9 (0.4%) だった。

(n = 2221)



◇2-4-6 母体血清マーカー検査を受けた理由または受けなかった理由

前述の検査に関する解説文をつけた上で、母体血清マーカー検査を受けたか、受けなかったかで以下の質問に回答してもらった。まず「検査を受けた理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「胎児の異常がわかるから」、「受けるものだと思っていたから」、「医師から勧められたから」、「自分の病気などリスクが高いから」、「自分の身体の状況を知るために必要だから」、「リスクがないと思っていたから」、「妊娠の経過がわかるから」、「安心したいから」、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」、「前の妊娠が流産・死産だったから」、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。また、「検査を受けなかった理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「何の検査かよくわからなかったから」、「医師から言われなかった・勧められなかったから」、「受ける必要を感じなかった」、「産むと決めていた」、「検査をすると不安になるから」、「経済的な理由から」、「必要と思わなかったから」、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」、「その他」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。

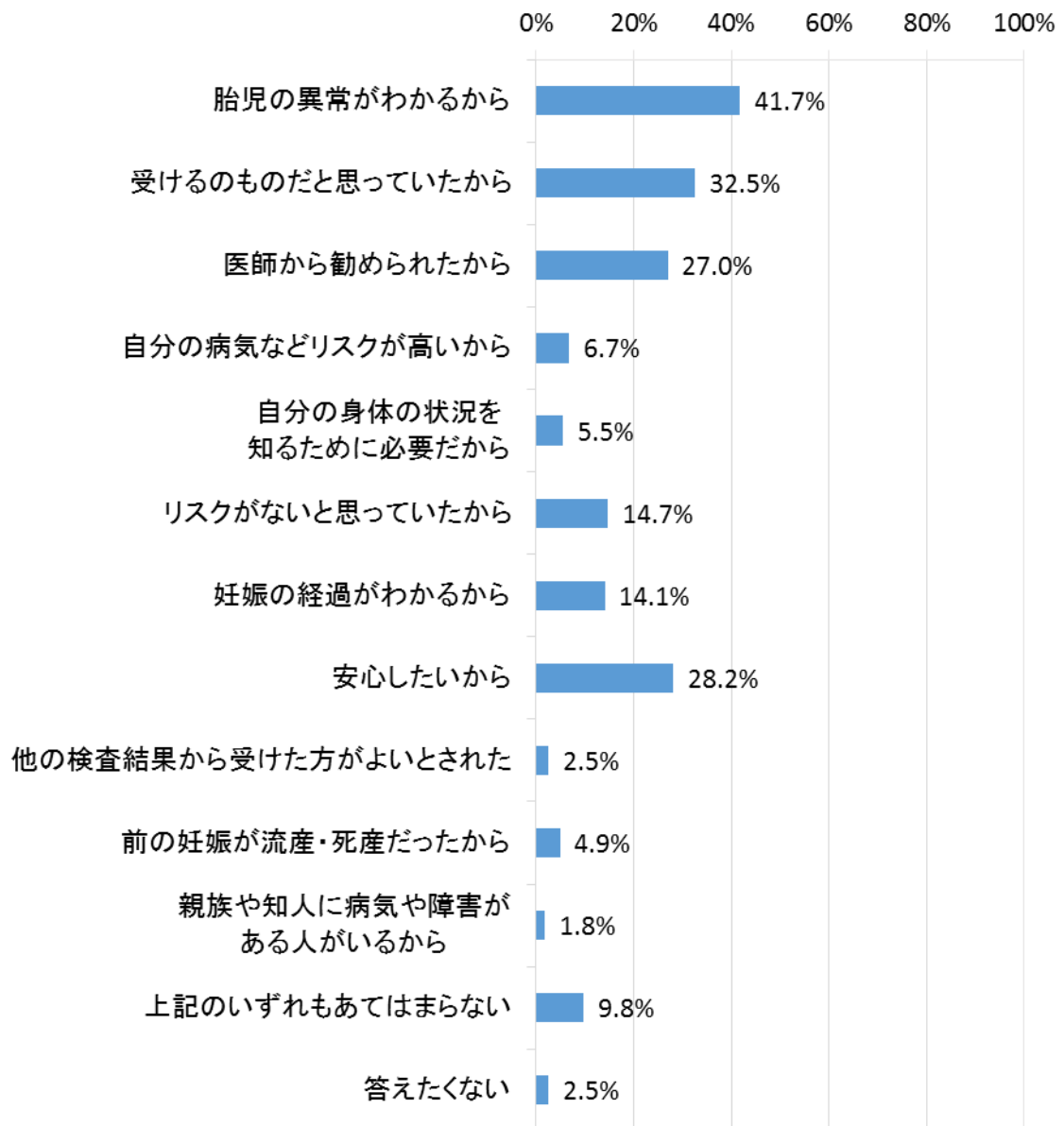
受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」は 68 (41.7%)、「受けるものだと思っていたから」は 53 (32.5%)、「医師から勧められたから」は 44 (27.0%)、「自分の病気などリスクが高いから」は 11 (6.7%)、「自分の身体の状況を知るために必要だから」は 9 (5.5%)、「リスクがないと思っていたから」は 24 (14.7%)、「妊娠の経過がわかるから」は 23 (14.1%)、「安心したいから」は 46 (28.2%)、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」は 4 (2.5%)、「前の妊娠が流産・死産だったから」は 8 (4.9%)、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」は 3 (1.8%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 16 (9.8%)、「答えたくない」は 4 (2.5%) だった。(n = 163)

受けなかった理由としては、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」は 84 (4.1%)、「何の検査かよくわからなかったから」は 80 (3.9%)、「医師から言われなかった・勧められなかったから」は 952 (46.9%)、「受ける必要を感じなかった」は 405 (20.0%)、「産むと決めていた」は 240 (11.8%)、「検査をすると不安になるから」は 104 (5.1%)、「経済的な理由から」は 49 (2.4%)、「必要と思わなかったから」は 497 (24.5%)、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」は 76 (3.7%)、「その他」は 52 (2.6%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 198 (9.8%)、「答えたくない」は 13 (0.6%) だった。(n=2029)

受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」が最も多く、続いて「受けるものだと思っていたから」、「安心したいから」だった。また、受けなかった理由としては、「医師から言われなかった・勧められなかったから」が最も多く、続いて「必要と思わなかったから」、「受ける必要を感じなかった」だった。

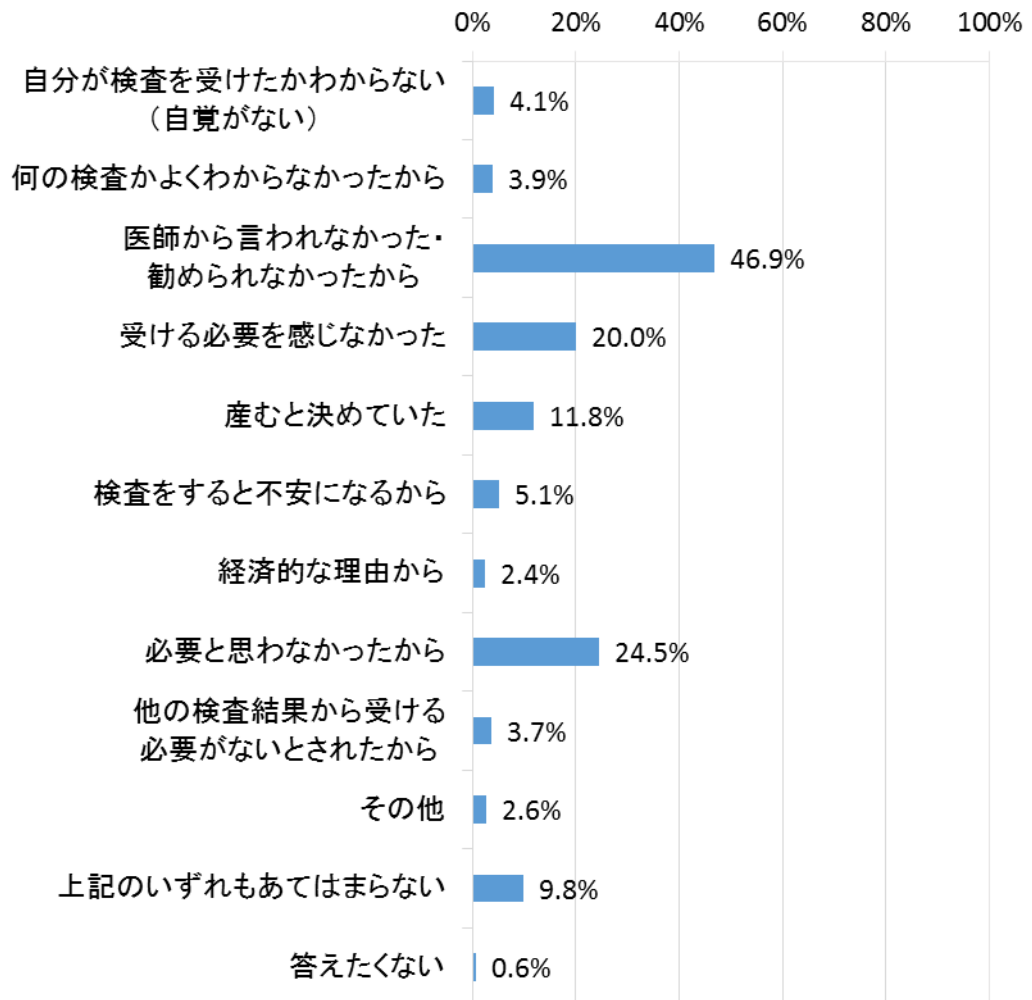
受けた理由

(n = 163)



受けなかった理由

(n=2029)

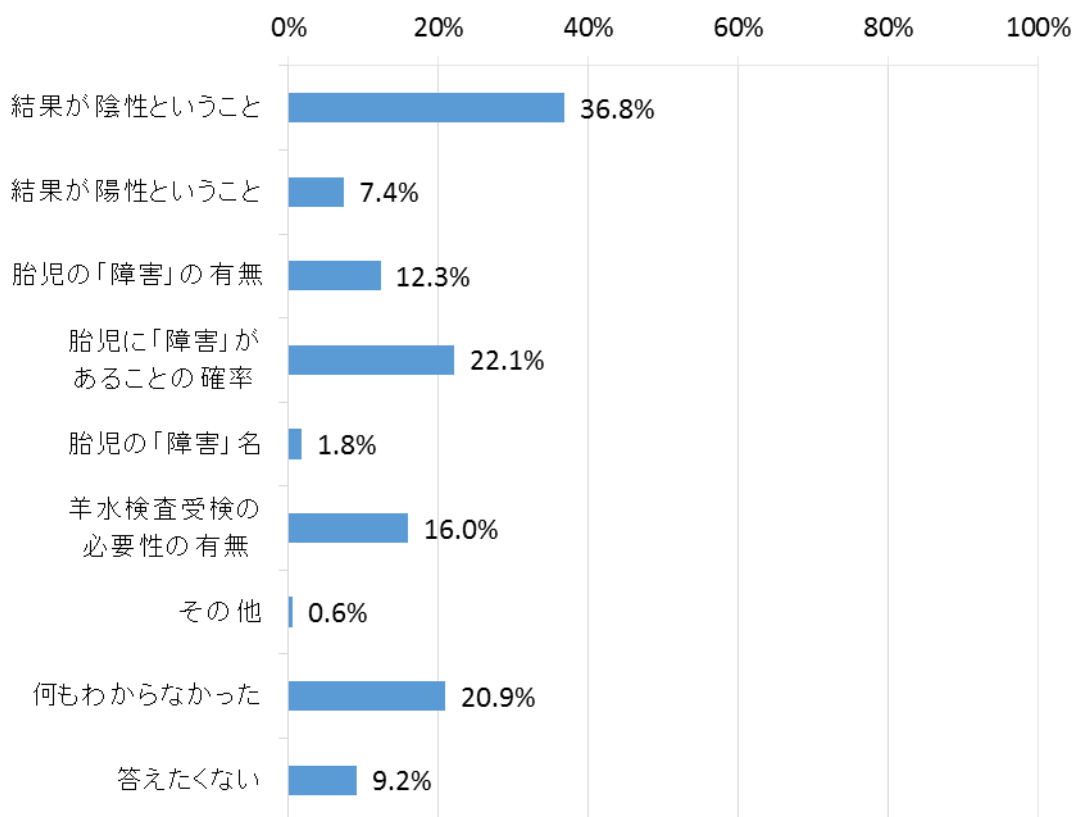


◇2-4-7 母体血清マーカー検査の結果

母体血清マーカー検査を受けた人を対象として、「母体血清マーカー検査によって何がわかりましたか」という質問に、「結果が陰性ということ」、「結果が陽性ということ」、「胎児の「障害」の有無」、「胎児に「障害」があることの確率」、「胎児の「障害」名」、「羊水検査受検の必要性の有無」、「その他」、「何もわからなかった」、「答えたくない」で回答してもらった。

「結果が陰性ということ」は 60 (36.8%)、「結果が陽性ということ」は 12 (7.4%)、「胎児の「障害」の有無」は 20 (12.3%)、「胎児に「障害」があることの確率」は 36 (22.1%)、「胎児の「障害」名」は 3 (1.8%)、「羊水検査受検の必要性の有無」は 26 (16.0%)、「その他」は 1 (0.6%)、「何もわからなかった」は 34 (20.9%)、「答えたくない」は 15 (9.2%) だった。「結果が陰性ということ」が最も多く、続いて、「胎児に障害があることの確率」、「何もわからなかった」だった。

(n = 163)

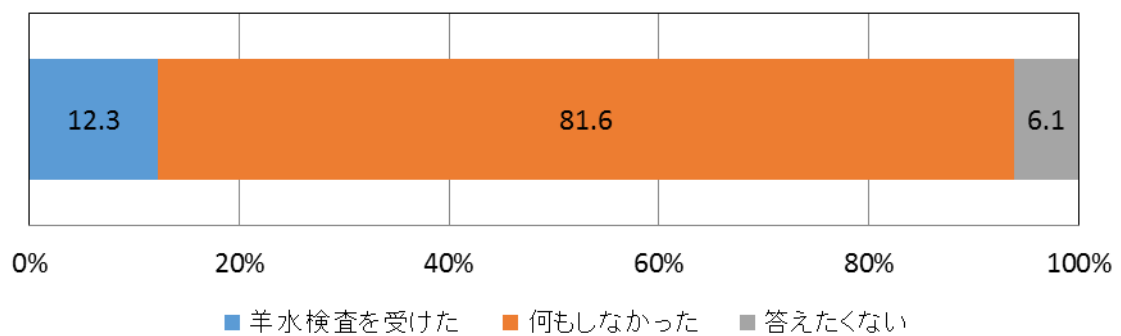


◇2-4-8 母体血清マーカー検査を受けた後の対応

「母体血清マーカー検査を受けた後、どうされましたか」という質問に、「羊水検査を受けた」、「何もしなかった」、「答えたくない」で回答してもらった。

「羊水検査を受けた」は 20 (12.3%)、「何もしなかった」は 133 (81.6%)、「答えたくない」は 10 (6.1%) だった。

(n = 163)

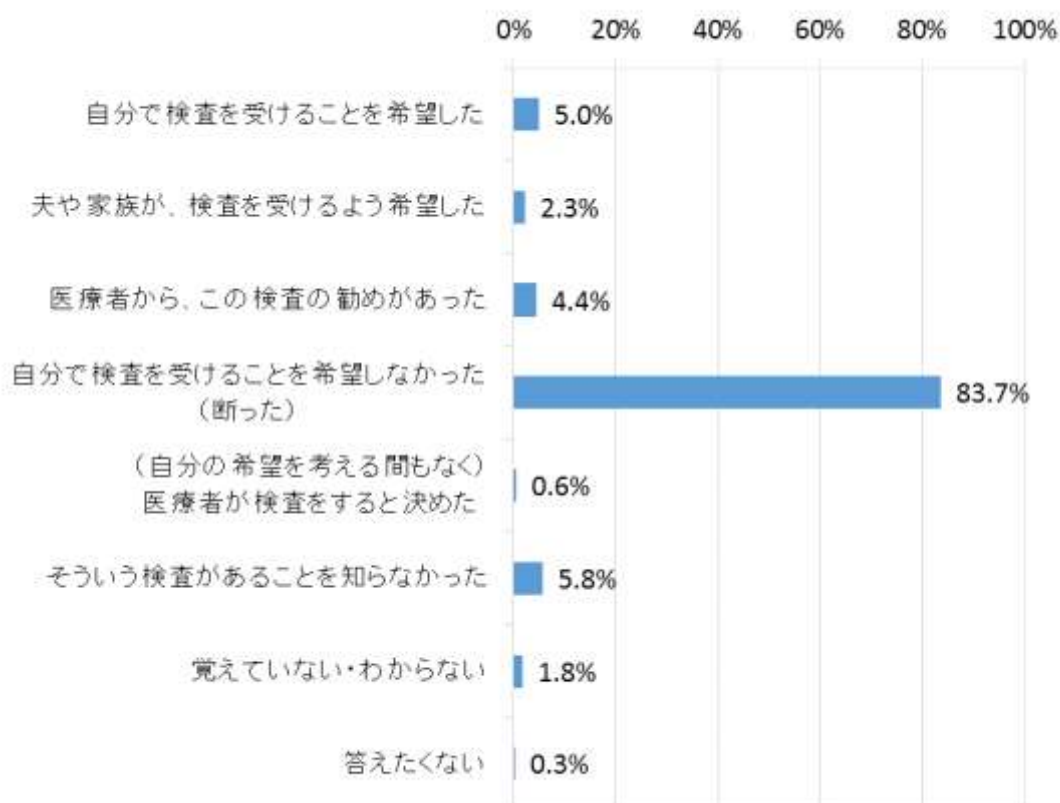


2-5 羊水検査の経験

◇2-5-1 誰が羊水検査を希望したか

「一番最近の妊娠時に、羊水検査についてあなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分で検査を受けることを希望した」、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」、「医療者から、この検査の勧めがあった」、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」、「そういう検査があることを知らなかった」、「覚えていない・わからない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」は 1858 (83.7%)、「そういう検査があることを知らなかった」は 129 (5.8%)、「自分で検査を受けることを希望した」は 111 (5.0%)、「医療者から、この検査の勧めがあった」は 97 (4.4%)、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」は 51 (2.3%)、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」は 13 (0.6%)、「覚えていない・わからない」は 40 (1.8%)、「答えたくない」は 6 (0.3%) だった。「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」が約 8 割と大多数だった。 (n = 2221)

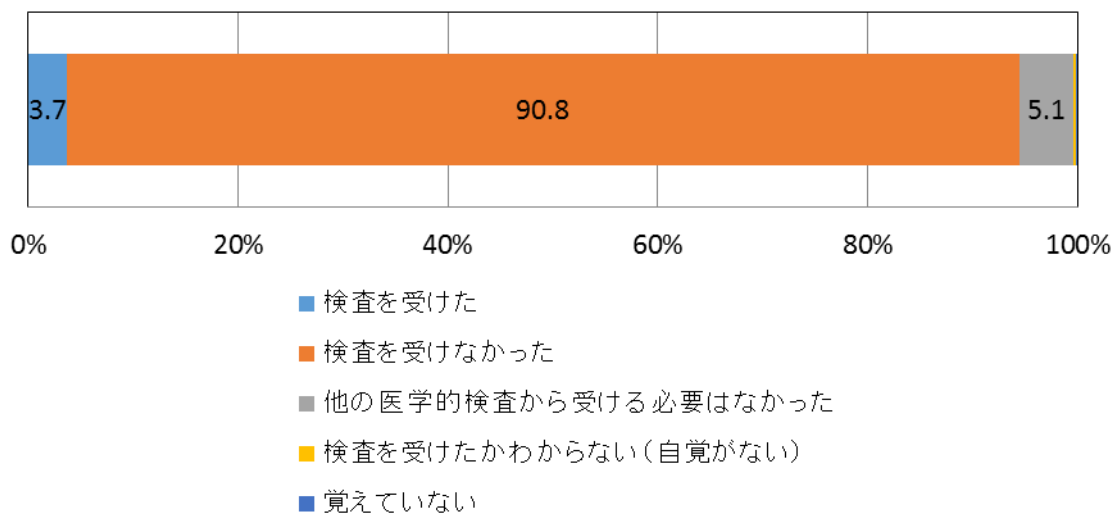


◇2-5-2 羊水検査を受けたか

「一番最近の妊娠時に、あなたは羊水検査を受けましたか」という質問に、「検査を受けた」「検査を受けなかった」、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「覚えていない」で回答してもらった。

「検査を受けなかった」は2016（90.8%）で最も多かった。「他の医学的検査から受ける必要はなかった」が114（5.1%）、「検査を受けた」が82（3.7%）、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」が6（0.3%）、「覚えていない」が3（0.1%）だった。羊水検査を受けたと回答した人の割合は、2013年調査の結果（保育園調査6.9% 医療機関調査2.8%）と同程度だった。

(n = 2221)

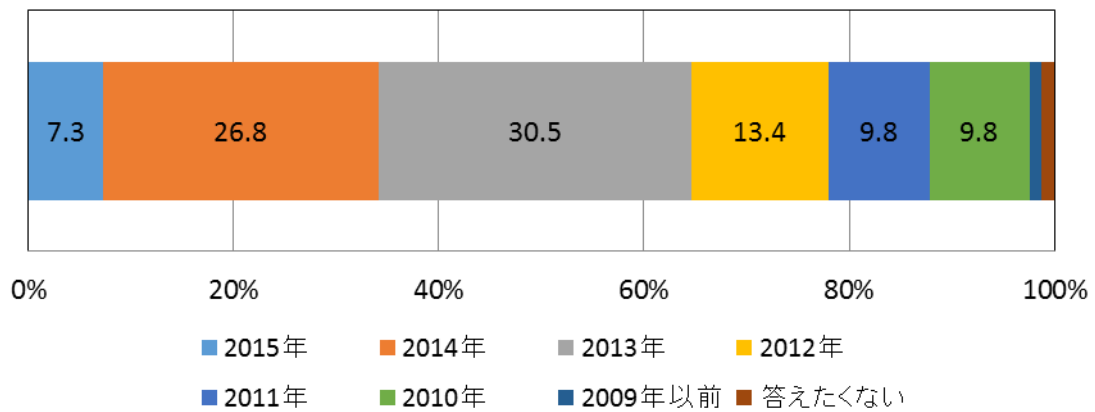


◇2-5-3 羊水検査を受けた時期

羊水検査を受けたと回答した 82 名に、「前の質問で答えた検査を受けた時期を教えてください。2 回以上受けた方は、直近の時期をお答えください」と尋ね、2009 年以前、2010 年から 2015 年までの年、「答えたくない」で回答してもらった。

2013 年が 25 名 (30.5%)、2014 年が 22 名 (26.8%)、2012 年が 11 名 (13.4%)、2011 年と 2010 年が各 8 名 (各 9.8%)、2015 年が 6 名 (7.3%)、2009 年以前が 1 名 (1.2%)、「答えたくない」が 1 名 (1.2%) だった。2012 年から 2014 年までに受けた人が 7 割以上を占めた。

(n = 82)



◇2-5-4 医療者からの説明

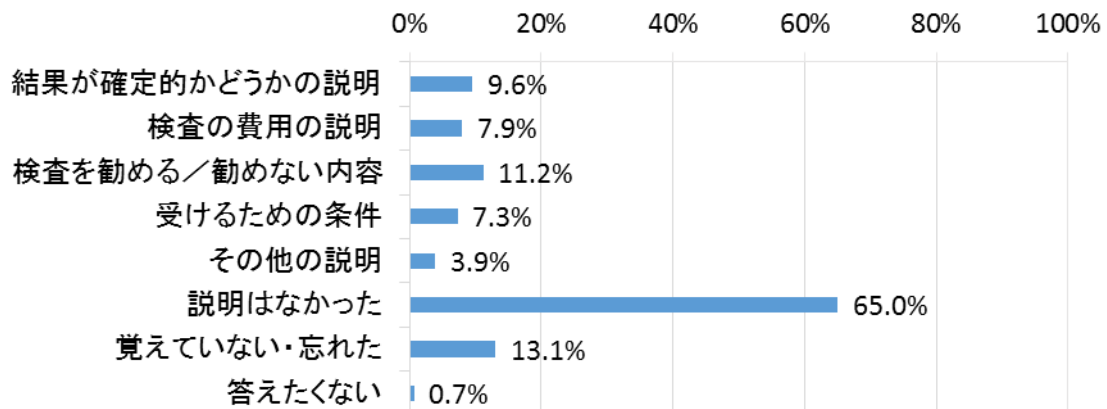
下記の検査に関する解説文をつけた上で、「医療者から以下の検査について、検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか。それぞれの検査について、あてはまるものをすべてお選びください。」という質問に、「結果が確定的かどうかの説明」、「検査の費用の説明」、「検査を勧める／勧めない内容」、「受けるための条件」、「その他の説明」、「説明はなかった」、「覚えていない・忘れた」、「答えたくない」から回答してもらった。

羊水検査では、「結果が確定的かどうかの説明」は 213 (9.6%)、「検査の費用の説明」は 176 (7.9%)、「検査を勧める／勧めない内容」は 249 (11.2%)、「受けるための条件」は 163 (7.3%)、「その他の説明」は 86 (3.9%)、「説明はなかった」は 1444 (65.0%)、「覚えていない・忘れた」は 290 (13.1%)、「答えたくない」は 15 (0.7%) だった。

(n = 2221)

【羊水検査】

羊水検査とは、妊娠中期に行われる検査で、お腹から子宮に針を刺して羊水をとり、羊水の成分や羊水中の胎児の細胞を調べるための検査です。

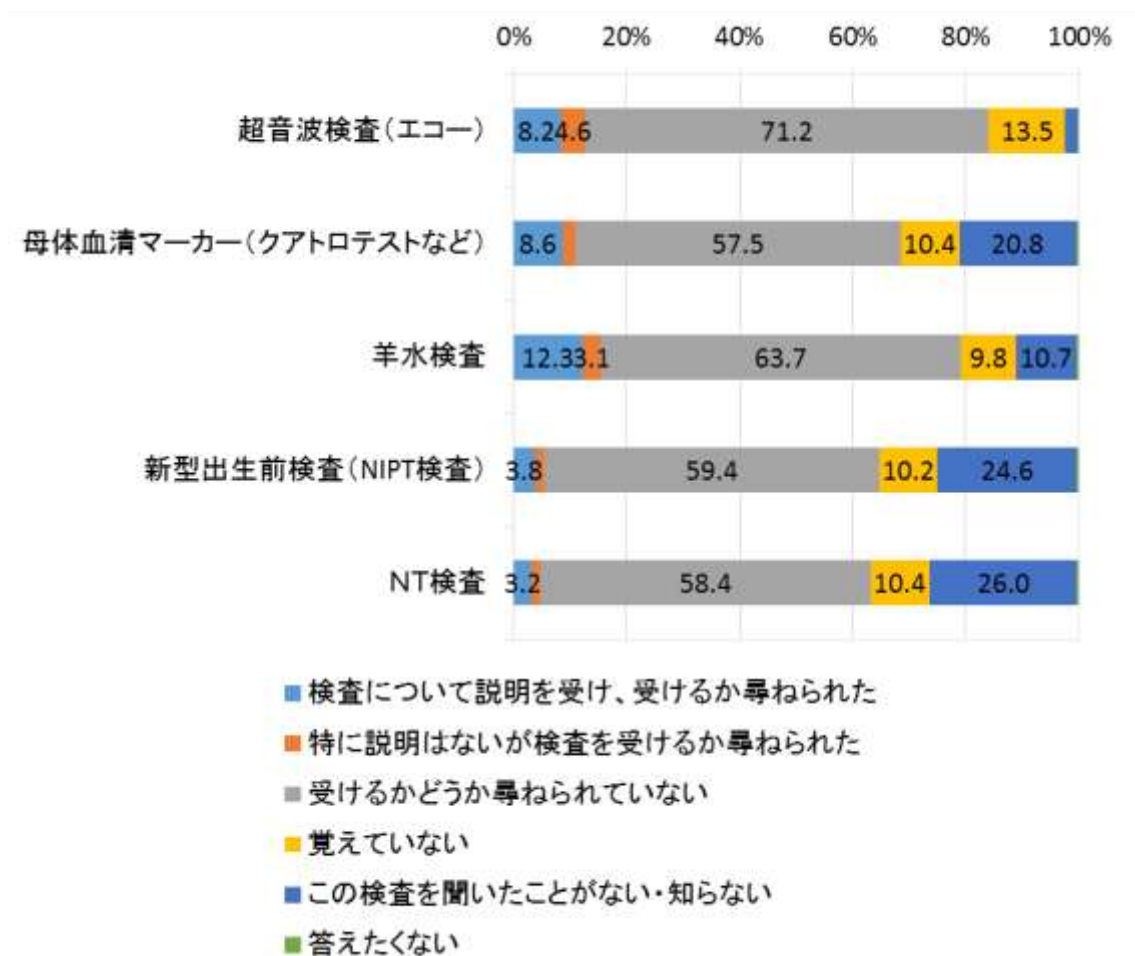


◇2-5-5 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

前述の検査に関する解説文をつけた上で、「一番最近の妊娠時に、次のような検査について医療者からの質問はありましたか」という質問に、「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」、「受けるかどうか尋ねられていない」、「覚えていない」、「この検査を聞いたことがない・知らない」、「答えたくない」で回答してもらった。

羊水検査では「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」は 274 (12.3%)、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」は 69 (3.1%)、「受けるかどうか尋ねられていない」は 1414 (63.7%)、「覚えていない」は 217 (9.8%)、「この検査を聞いたことがない・知らない」は 237 (10.7%)、「答えたくない」は 10 (0.5%) だった。

(n = 2221)



◇2-5-6 羊水検査を受けた理由または受けなかった理由

前述の検査に関する解説文をつけた上で、羊水検査を受けた、受けなかったで以下の質問に回答してもらった。まず「検査を受けた理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「胎児の異常がわかるから」、「受けるのものだと思っていたから」、「医師から勧められたから」、「自分の病気などリスクが高いから」、「自分の身体の状態を知るために必要だから」、「リスクがないと思っていたから」、「妊娠の経過がわかるから」、「安心したいから」、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」、「前の妊娠が流産・死産だったから」、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。また、「検査を受けなかった理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「何の検査かよくわからなかったから」、「医師から言われなかった・勧められなかったから」、「受ける必要を感じなかった」、「産むと決めていた」、「検査をすると不安になるから」、「経済的な理由から」、「必要と思わなかったから」、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」、「その他」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。

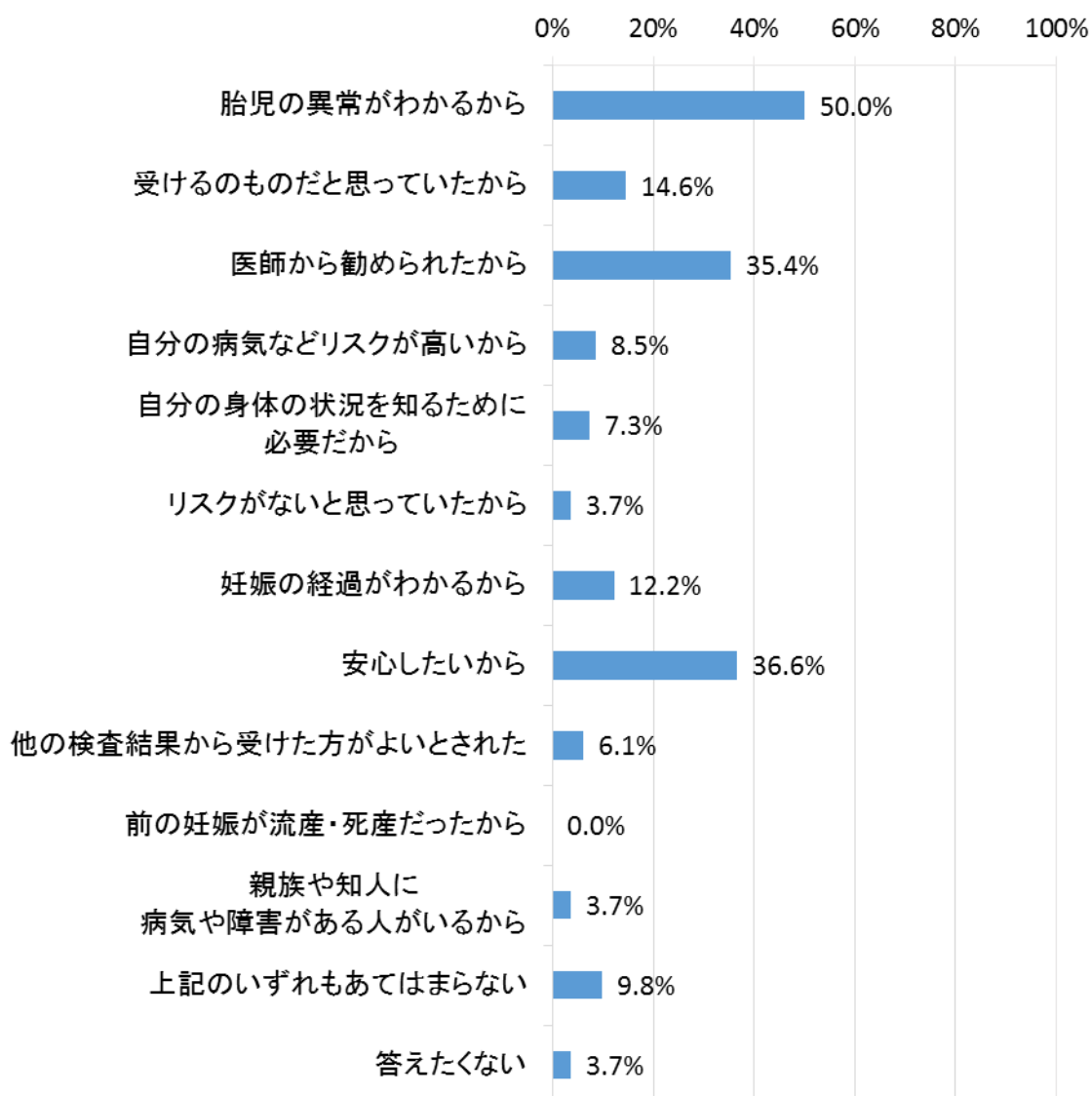
受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」は 41 (50.0%)、「受けるのものだと思っていたから」は 12 (14.6%)、「医師から勧められたから」は 29 (35.4%)、「自分の病気などリスクが高いから」は 7 (8.5%)、「自分の身体の状態を知るために必要だから」は 6 (7.3%)、「リスクがないと思っていたから」は 3 (3.7%)、「妊娠の経過がわかるから」は 10 (12.2%)、「安心したいから」は 30 (36.6%)、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」は 5 (6.1%)、「前の妊娠が流産・死産だったから」は 0 (0.0%)、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」は 3 (3.7%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 8 (9.8%)、「答えたくない」は 3 (3.7%) だった。(n = 82)

受けなかった理由としては、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」は 30 (1.5%)、「何の検査かよくわからなかったから」は 29 (1.4%)、「医師から言われなかった・勧められなかったから」は 850 (42.2%)、「受ける必要を感じなかった」は 551 (27.3%)、「産むと決めていた」は 370 (18.4%)、「検査をすると不安になるから」は 168 (8.3%)、「経済的な理由から」は 73 (3.6%)、「必要と思わなかったから」は 576 (28.6%)、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」は 80 (4.0%)、「その他」は 82 (4.1%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 124 (6.2%)、「答えたくない」は 12 (0.6%) だった。(n = 2016)

受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」が最も多く、続いて「安心したいから」、「医師から勧められたから」だった。また、受けなかった理由としては、「医師から言われなかった・勧められなかったから」が最も多く、続いて「必要と思わなかったから」、「受ける必要を感じなかった」だった。

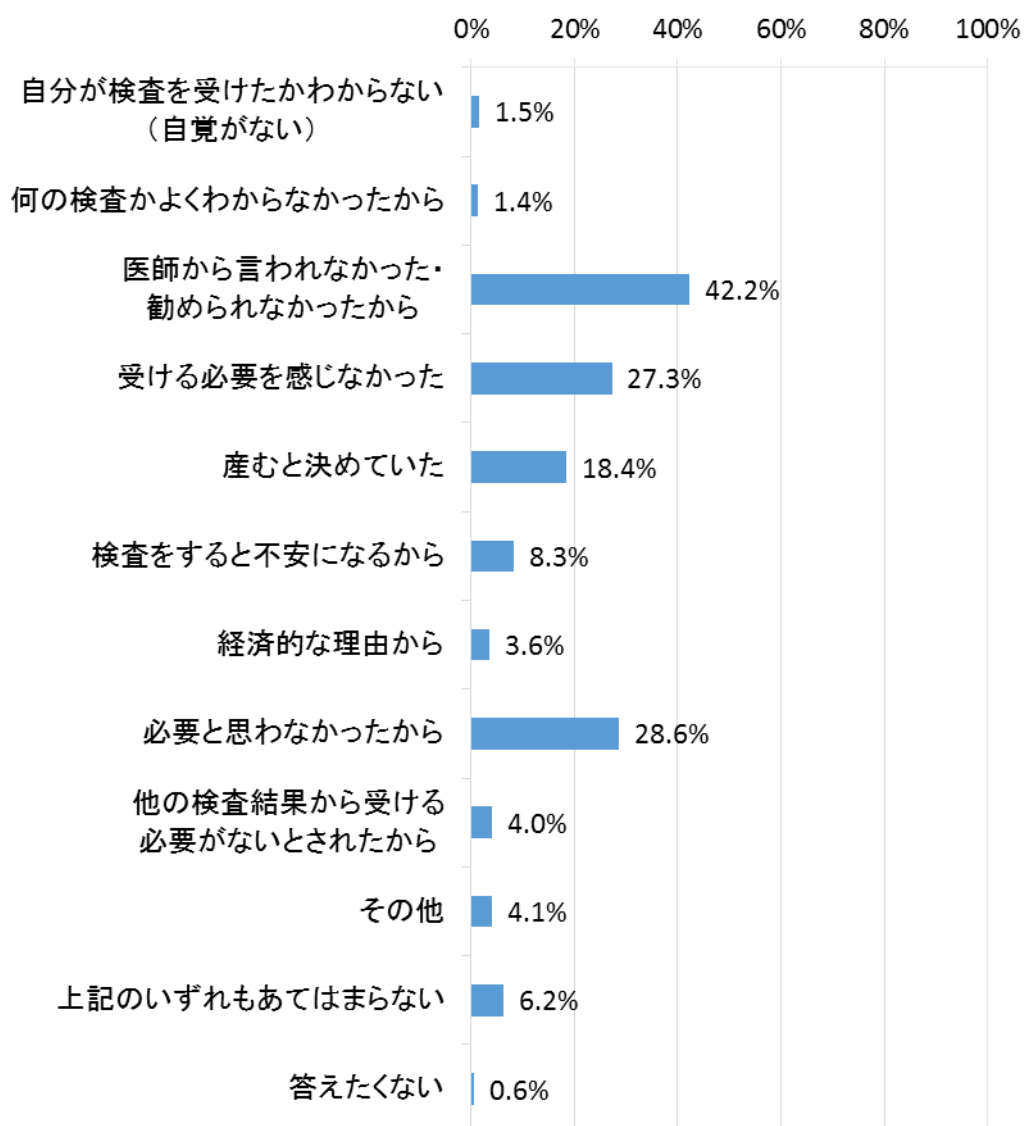
受けた理由

(n = 82)



受けなかった理由

(n = 2016)

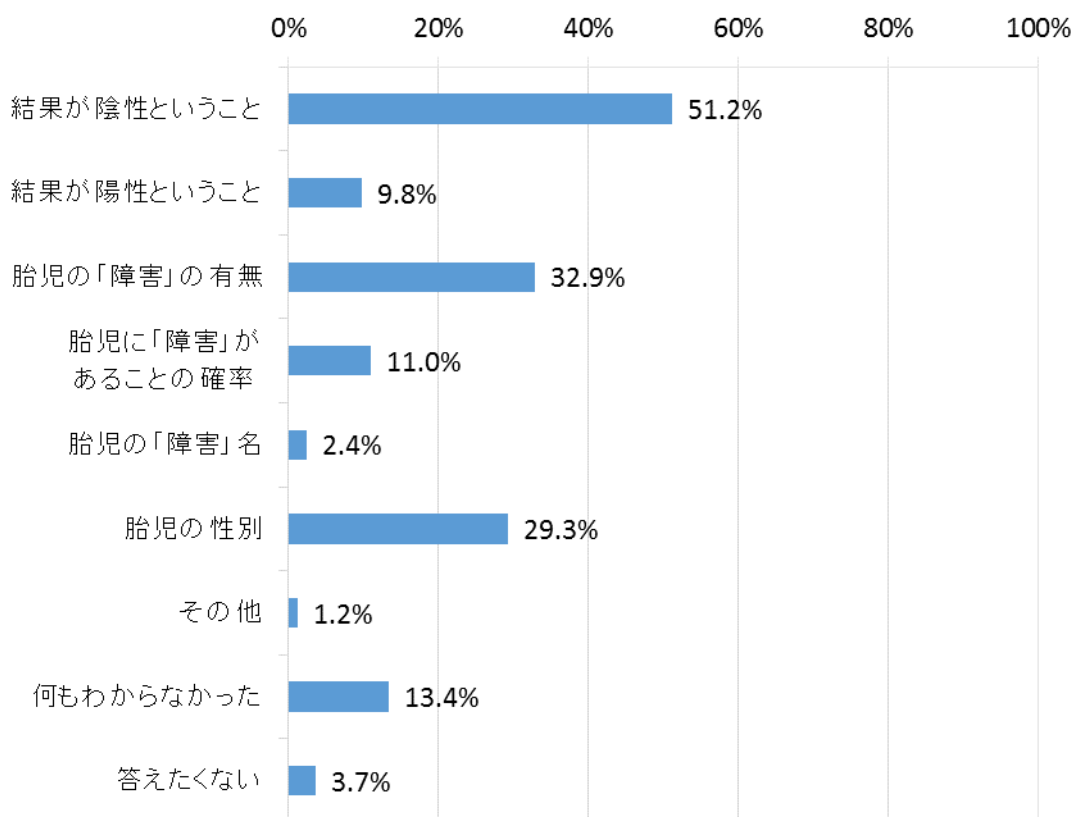


◇2-5-7 羊水検査の結果

羊水検査を受けた人を対象として、「羊水検査によって何がわかりましたか」という質問に、「結果が陰性ということ」、「結果が陽性ということ」、「胎児の「障害」の有無」、「胎児に「障害」があること確率」、「胎児の「障害」名」、「胎児の性別」、「その他」、「何もわからなかった」、「答えたくない」で回答してもらった。

「結果が陰性ということ」は 42 (51.2%)、「結果が陽性ということ」は 8 (9.8%)、「胎児の「障害」の有無」は 27 (32.9%)、「胎児に「障害」があること確率」は 9 (11.0%)、「胎児の「障害」名」は 2 (2.4%)、「胎児の性別」は 24 (29.3%)、「その他」は 1 (1.2%)、「何もわからなかった」は 11 (13.4%)、「答えたくない」は 3 (3.7%) だった。「結果が陰性ということ」が最も多く、続いて「胎児の「障害」の有無」や「胎児の性別」だった。

(n = 82)

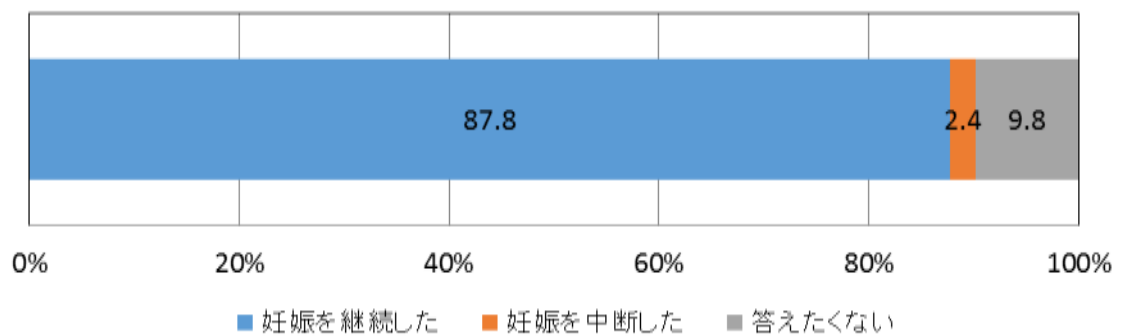


◇2-5-8 羊水検査を受けた後の対応

「羊水検査を受けた後、どうされましたか」という質問に、「妊娠を継続した」、「妊娠を中断した」、「答えたくない」で回答してもらった。

「妊娠を継続した」は72 (87.8%)、「妊娠を中断した」は2 (2.4%)、「答えたくない」は8 (9.8%) だった。大多数の人は、羊水検査を受けた後、妊娠継続していた。

(n = 82)



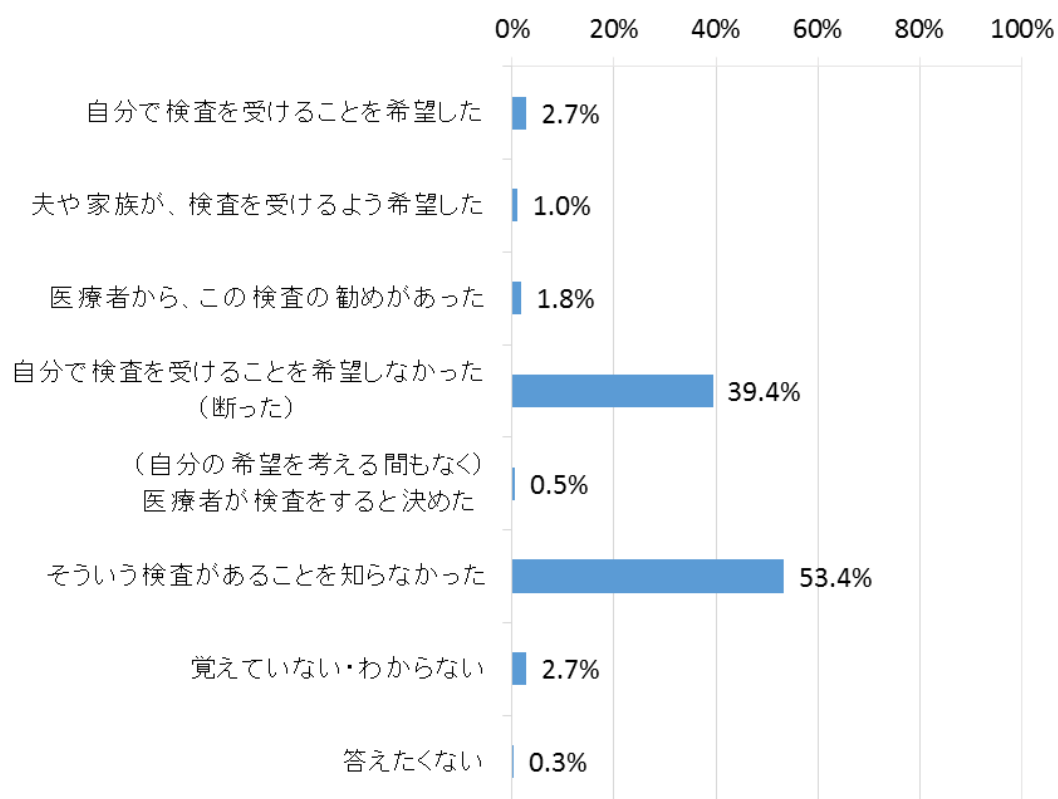
2-6 NIPTの経験

◇2-6-1 誰がNIPTを希望したか

「一番最近の妊娠時に、NIPT検査についてあなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分で検査を受けることを希望した」、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」、「医療者から、この検査の勧めがあった」、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」、「(自分の希望を考える間もなく)医療者が検査をすると決めた」、「そういう検査があることを知らなかった」、「覚えていない・わからない」、「答えたくない」から回答してもらった。

「そういう検査があることを知らなかった」は1186(53.4%)、「自分で検査を受けることを希望しなかった(断った)」は875(39.4%)、「自分で検査を受けることを希望した」は60(2.7%)、「覚えていない・わからない」は61(2.7%)、「医療者から、この検査の勧めがあった」は39(1.8%)、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」は23(1.0%)、「(自分の希望を考える間もなく)医療者が検査をすると決めた」は10(0.5%)、「答えたくない」は6(0.3%)だった。「そういう検査があることを知らなかった」が半数程度を占めた。

(n = 2221)

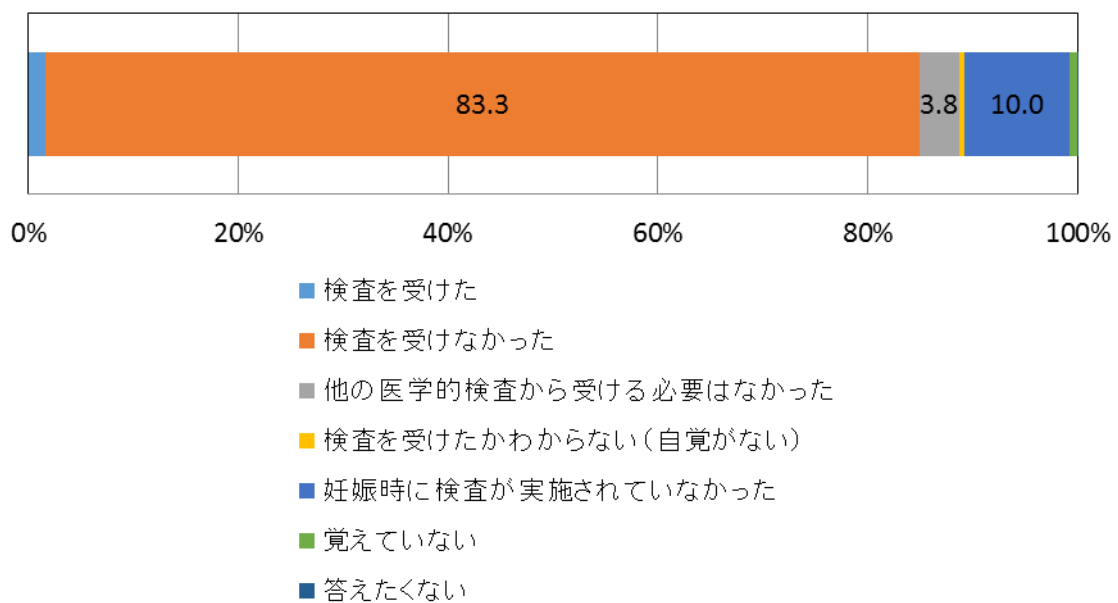


◇2-6-2 NIPT を受けたか

「一番最近の妊娠時に、あなたは新型出生前検査（NIPT 検査）を受けましたか」という質問に、「検査を受けた」、「検査を受けなかった」、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「妊娠時に検査が実施されていなかった」、「覚えていない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「検査を受けなかった」は 1849（83.3%）で最も多かった。「妊娠時に検査が実施されていなかった」が 221（10.0%）、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」が 84（3.8%）、「検査を受けた」が 37（1.7%）、「覚えていない」が 16（0.7%）、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」が 13（0.6%）、「答えたくない」が 1（0.0%）だった。

(n = 2221)

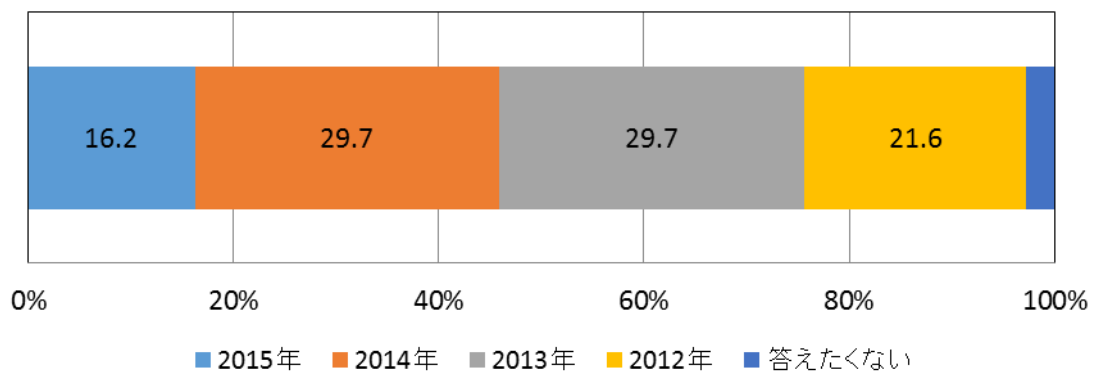


◇2-6-3 NIPT を受けた時期

NIPT 検査を受けたと回答した 37 名に、「前の質問で答えた検査を受けた時期を教えてください。2 回以上受けた方は、直近の時期をお答えください」と尋ね、2009 年以前、2010 年から 2015 年までの年、「答えたくない」で回答してもらった。

2014 年と 2013 年が最も多く、各 11 名（各 29.7%）だった。2012 年が 8 名（21.6%）、2015 年が 6 名（16.2%）、「答えたくない」が 1 名（2.7%）だった。2012 年から 2014 年までに受けた人が 8 割以上を占めた。

(n=37)



◇2-6-4 医療者からの説明

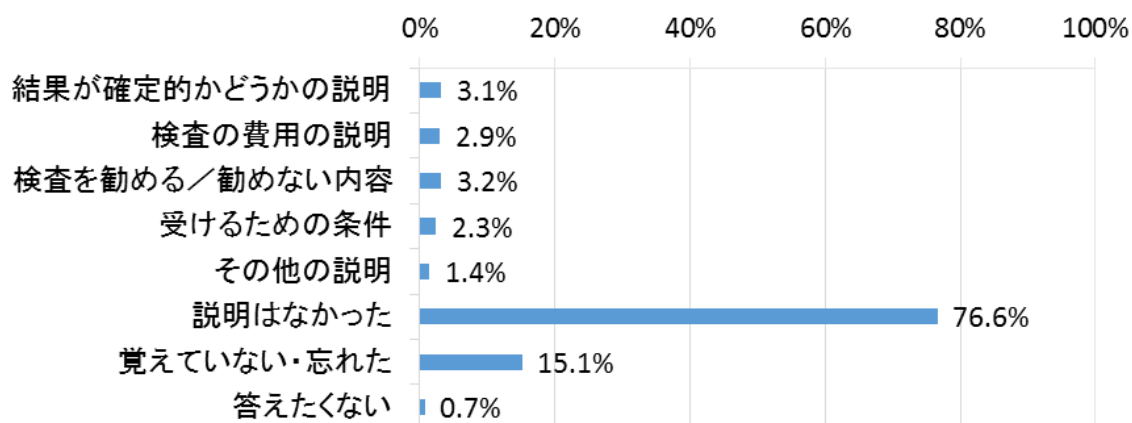
下記の検査に関する解説文をつけた上で、「医療者から以下の検査について、検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか。それぞれの検査について、あてはまるものをすべてお選びください。」という質問に、「結果が確定的かどうかの説明」、「検査の費用の説明」、「検査を勧める／勧めない内容」、「受けるための条件」、「その他の説明」、「説明はなかった」、「覚えていない・忘れた」、「答えたくない」で回答してもらった。

NIPT 検査では、「結果が確定的かどうかの説明」は 68 (3.1%)、「検査の費用の説明」は 65 (2.9%)、「検査を勧める／勧めない内容」は 70 (3.2%)、「受けるための条件」は 50 (2.3%)、「その他の説明」は 31 (1.4%)、「説明はなかった」は 1702 (76.6%)、「覚えていない・忘れた」は 335 (15.1%)、「答えたくない」は 16 (0.7%) だった。

(n = 2221)

【新型出生前検査 (NIPT 検査)】

新型出生前検査 (NIPT 検査) とは、NIPT は無侵襲的出生前遺伝学的検査 (Noninvasive prenatal genetic testing) とも言われ、母体血清マーカーと同じように妊婦の血液から胎児の状態を推定します。現在、臨床試験として、限られた医療機関でのみ実施されています。

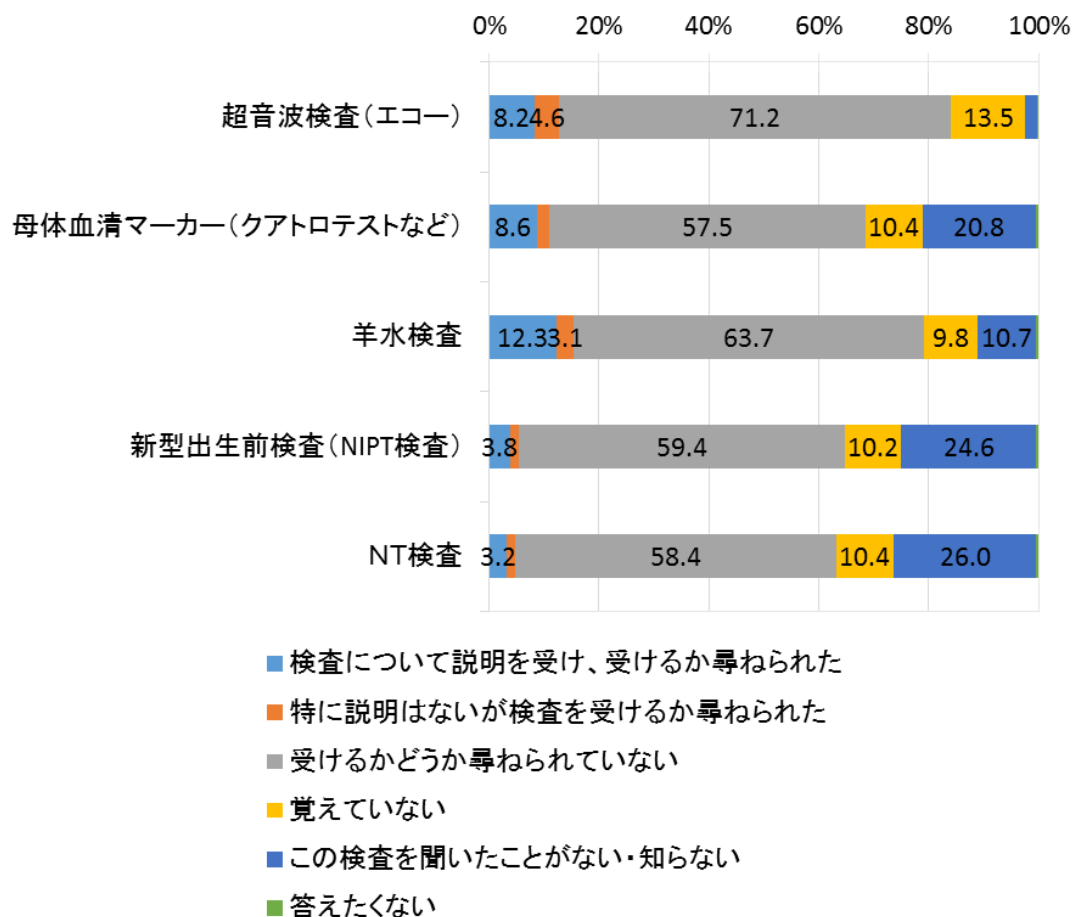


◇2-6-5 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

前述の検査に関する解説文をつけた上で、「一番最近の妊娠時に、次のような検査について医療者からの質問はありましたか」という質問に、「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」、「受けるかどうか尋ねられていない」、「覚えていない」、「この検査を聞いたことがない・知らない」、「答えたくない」で回答してもらった。

NIPT 検査では「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」は 85 (3.8%)、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」は 34 (1.5%)、「受けるかどうか尋ねられていない」は 1320 (59.4%)、「覚えていない」は 226 (10.2%)、「この検査を聞いたことがない・知らない」は 547 (24.6%)、「答えたくない」は 9 (0.4%) だった。

(n = 2221)



◇2-6-6 NIPT 検査を受けた理由または受けなかった理由

前述の検査に関する解説文をつけた上で、NIPT 検査を受けたか、受けなかったかで以下の質問に回答してもらった。まず「検査を受けた理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「胎児の異常がわかるから」、「受けるのものだと思っていたから」、「医師から勧められたから」、「自分の病気などリスクが高いから」、「自分の身体の状況を知るために必要だから」、「リスクがないと思っていたから」、「妊娠の経過がわかるから」、「安心したいから」、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」、「前の妊娠が流産・死産だったから」、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。また、「検査を受けなかった理由についてあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「何の検査かよくわからなかったから」、「医師から言われなかった・勧められなかったから」、「受ける必要を感じなかった」、「産むと決めていた」、「検査をすると不安になるから」、「経済的な理由から」、「必要と思わなかったから」、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」、「その他」、「上記のいずれもあてはまらない」、「答えたくない」で回答してもらった。

受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」は 11 (29.7%)、「受けるのものだと思っていたから」は 9 (24.3%)、「医師から勧められたから」は 10 (27.0%)、「自分の病気などリスクが高いから」は 2 (5.4%)、「自分の身体の状況を知るために必要だから」は 3 (8.1%)、「リスクがないと思っていたから」は 3 (8.1%)、「妊娠の経過がわかるから」は 3 (8.1%)、「安心したいから」は 5 (13.5%)、「他の検査結果から受けた方がよいとされた」は 0 (0.0%)、「前の妊娠が流産・死産だったから」は 1 (2.7%)、「親族や知人に病気や障害がある人がいるから」は 2 (5.4%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 8 (21.6%)、「答えたくない」は 1 (2.7%) だった。(n = 37)

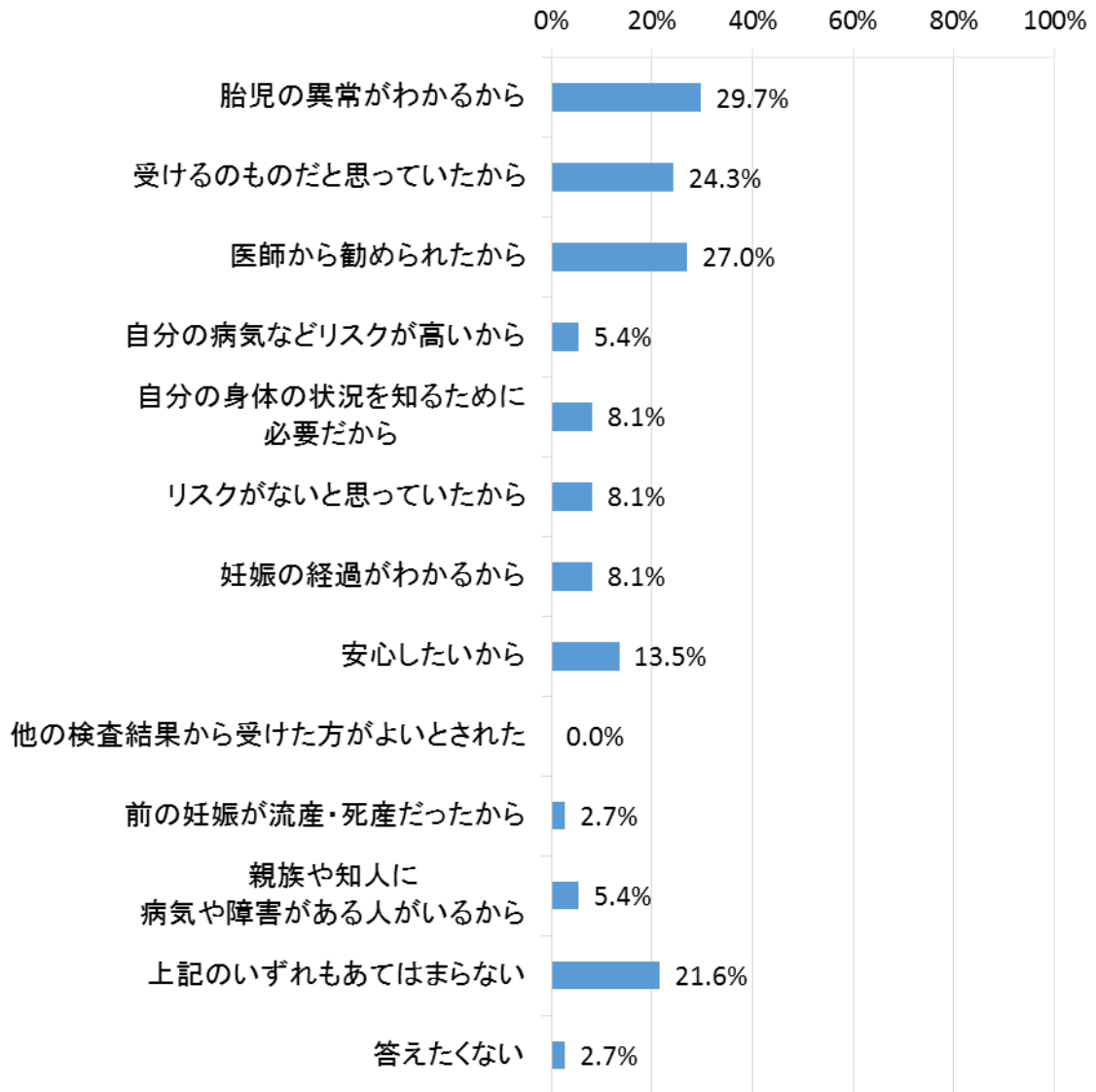
受けなかった理由としては、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」は 45 (2.4%)、「何の検査かよくわからなかったから」は 97 (5.2%)、「医師から言われなかった・勧められなかったから」は 865 (46.8%)、「受ける必要を感じなかった」は 362 (19.6%)、「産むと決めていた」は 220 (11.9%)、「検査をすると不安になるから」は 65 (3.5%)、「経済的な理由から」は 50 (2.7%)、「必要と思わなかったから」は 425 (23.0%)、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」は 55 (3.0%)、「その他」は 57 (3.1%)、「上記のいずれもあてはまらない」は 198 (10.7%)、「答えたくない」は 10 (0.5%) だった。

(n = 1849)

受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」が最も多く、受けなかった理由としては、「医師から言われなかった・勧められなかったから」が最も多かった。

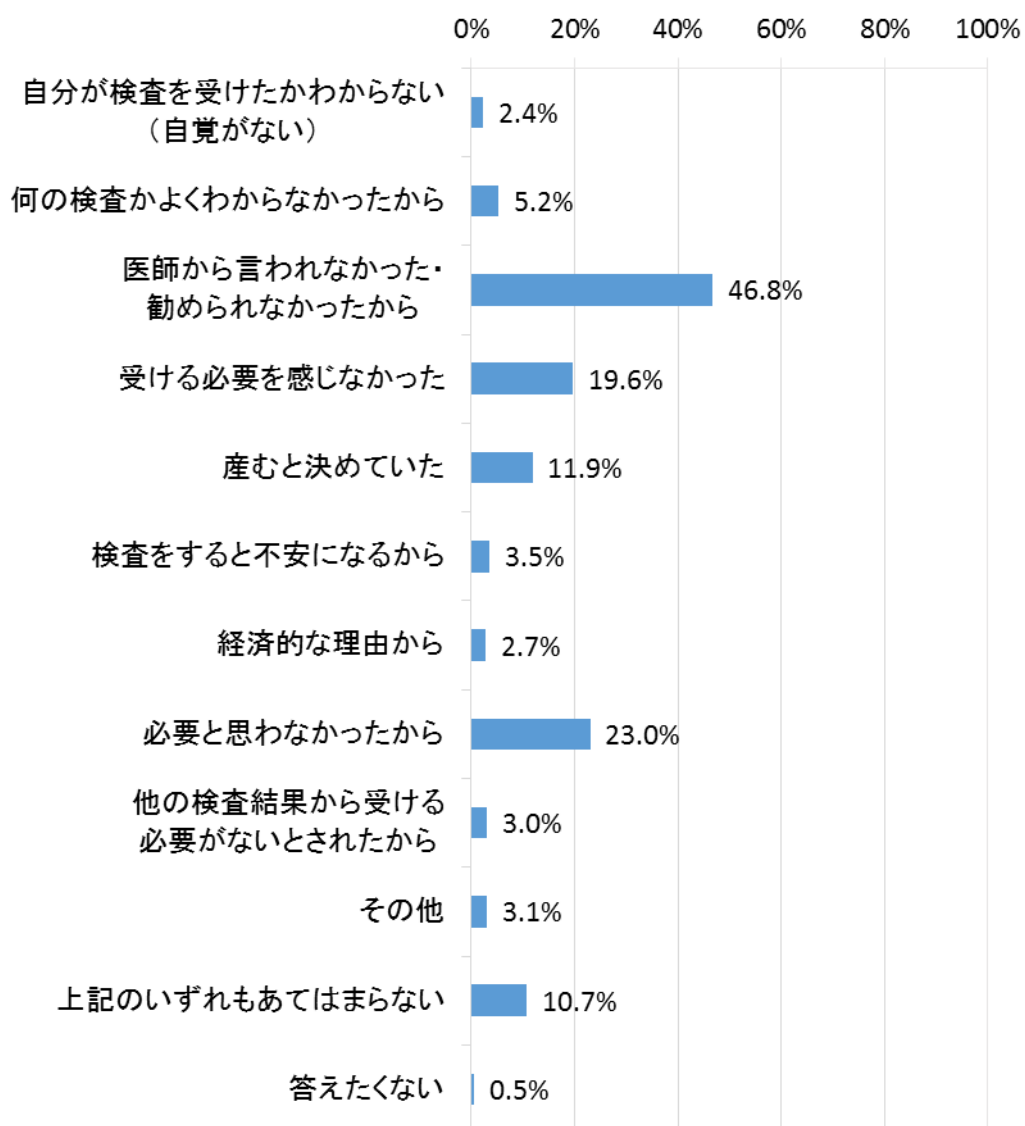
受けた理由

(n = 37)



受けなかった理由

(n = 1849)

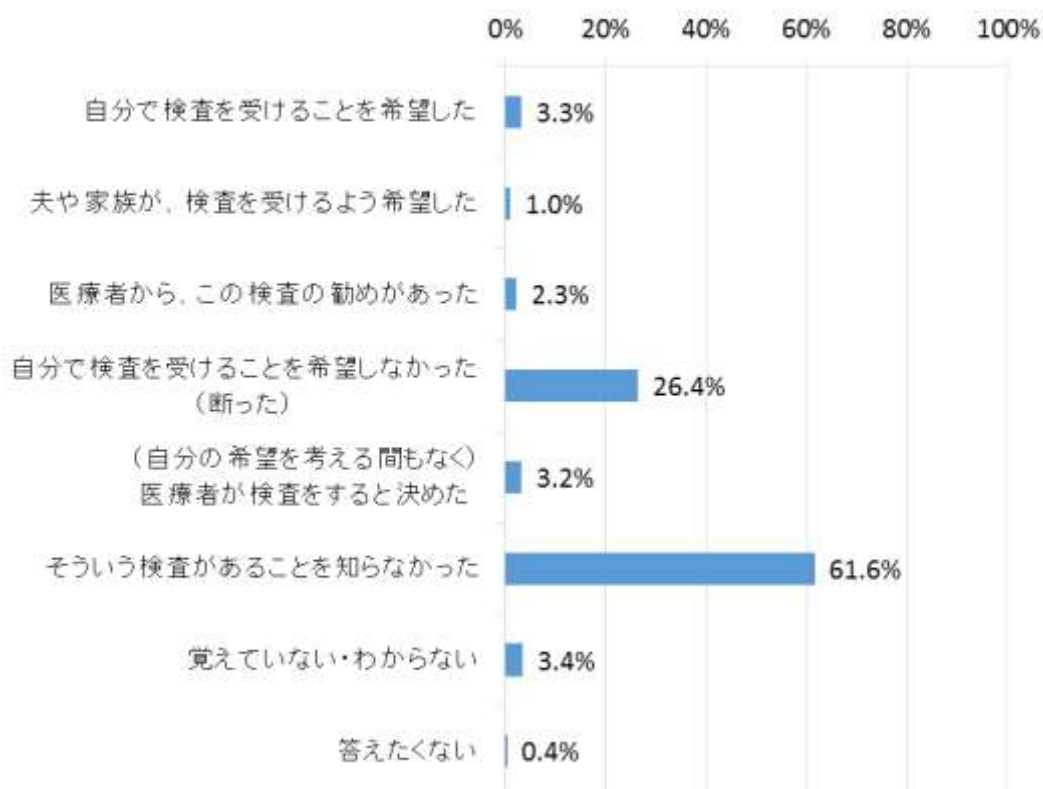


2-7 NT 検査の経験

◇2-7-1 誰がNT 検査を希望したか

「一番最近の妊娠時に、NT 検査についてあなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分で検査を受けることを希望した」、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」、「医療者から、この検査の勧めがあった」、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」、「そういう検査があることを知らなかった」、「覚えていない・わからない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「そういう検査があることを知らなかった」は 1369 (61.6%)、「自分で検査を受けることを希望しなかった(断った)」は 586 (26.4%)、「覚えていない・わからない」は 75 (3.4%)、「自分で検査を受けることを希望した」は 73 (3.3%)、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」は 70 (3.2%)、「医療者から、この検査の勧めがあった」は 50 (2.3%)、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」は 22 (1.0%)、「答えたくない」は 8 (0.4%) だった。「そういう検査があることを知らなかった」が最も多く、続いて「自分で検査を受ける事を希望しなかった(断った)」だった。 (n = 2221)



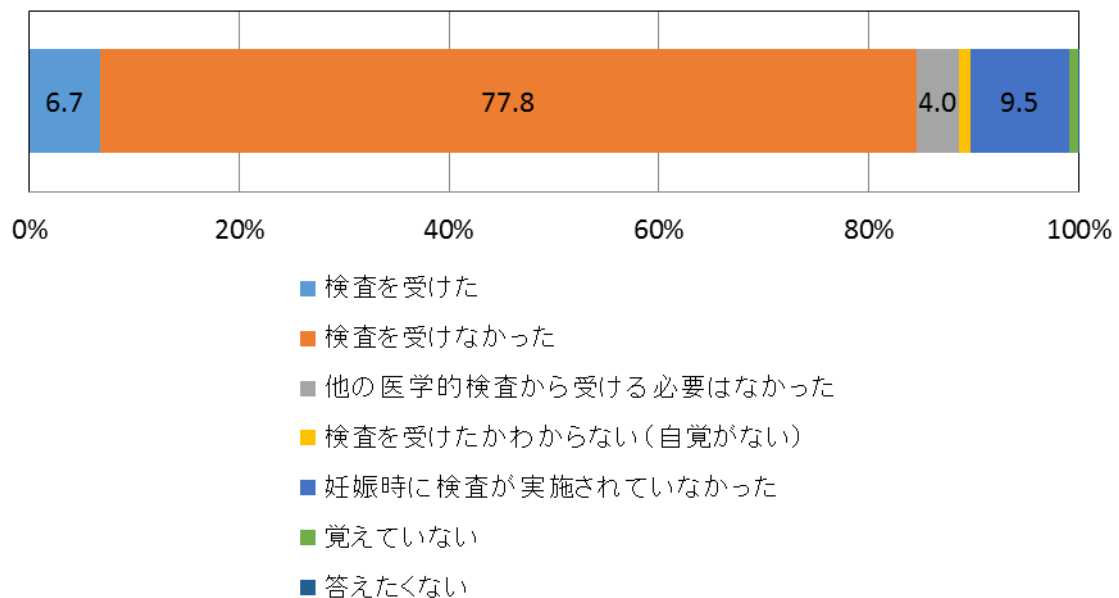
◇2-7-2 NT 検査を受けたか

「一番最近の妊娠時に、あなたはNT検査を受けましたか」という質問に、「検査を受けた」、「検査を受けなかった」、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「妊娠時に検査が実施されていなかった」、「覚えていない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「検査を受けなかった」が1729名（77.8%）が最も多かった。「妊娠時に検査が実施されていなかった」が210名（9.5%）、「検査を受けた」が149名（6.7%）、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」が89名（4.0%）、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」が25名（1.1%）、「覚えていない」が18名（0.8%）、「答えたくない」が1名（0.0%）だった。

なお、検査を受けたと回答した人の中には、妊婦健診中のエコーで偶然NTの厚みを指摘されたこと等も含むと考えられる。NT検査の受検率については正確な数字は報告されていないため比較の参照基準はないが、結果の解釈には注意を要する。

(n = 2221)

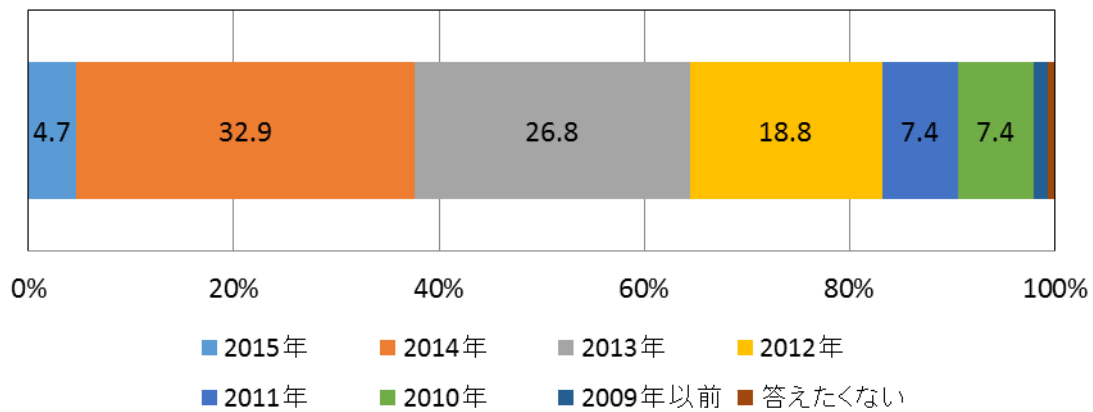


◇2-7-3 NT 検査を受けた時期

NT 検査を受けたと回答した 149 名に、「前の質問で答えた検査を受けた時期を教えてください。2 回以上受けた方は、直近の時期をお答えください」と尋ね、2009 年以前、2010 年から 2015 年までの年、「答えたくない」で回答してもらった。

2014 年が 49 名 (32.9%)、2013 年が 40 名 (26.8%)、2012 年が 28 名 (18.8%)、2011 年と 2010 年が各 11 名 (各 7.4%)、2015 年が 7 名 (4.7%)、2009 年以前が 2 名 (1.3%)、「答えたくない」が 1 名 (0.7%) だった。2012 年から 2014 年までに受けた人が 8 割弱を占めた。

(n = 149)



◇2-7-4 医療者からの説明

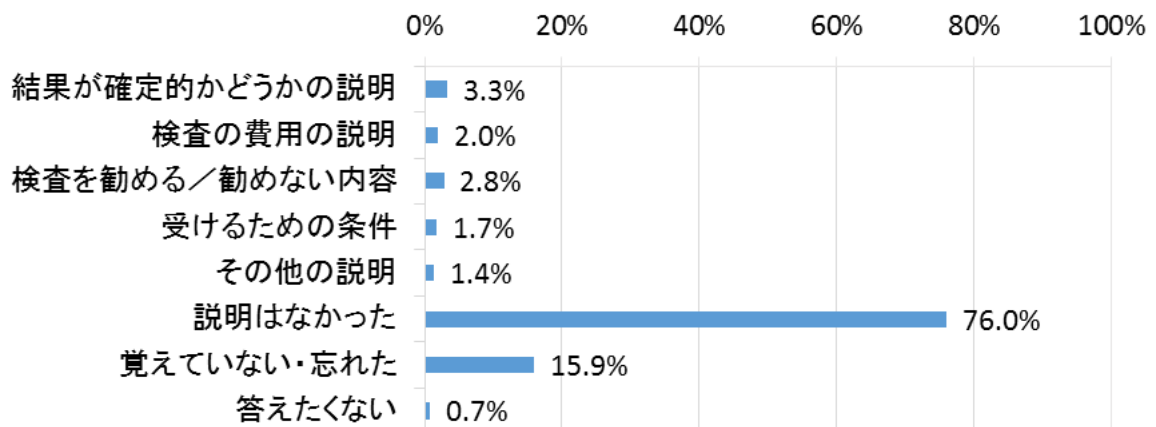
下記の検査に関する解説文をつけた上で、「医療者から以下の検査について、検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか。それぞれの検査について、あてはまるものをすべてお選びください。」という質問に、「結果が確定的かどうかの説明」、「検査の費用の説明」、「検査を勧める／勧めない内容」、「受けるための条件」、「その他の説明」、「説明はなかった」、「覚えていない・忘れた」、「答えたくない」で回答してもらった。いずれの検査も「説明はなかった」が半数以上を占めた。

NT検査では、「結果が確定的かどうかの説明」は73(3.3%)、「検査の費用の説明」は45(2.0%)、「検査を勧める／勧めない内容」は63(2.8%)、「受けるための条件」は38(1.7%)、「その他の説明」は31(1.4%)、「説明はなかった」は1687(76.0%)、「覚えていない・忘れた」は353(15.9%)、「答えたくない」は15(0.7%)だった。

(n = 2221)

【NT検査】

NT検査とは、NT(nuchal translucency)は胎児後頸部の浮腫のことです。特別な超音波検査でこの厚み(肥厚)を正確に測定することにより、胎児の状態を推定します。

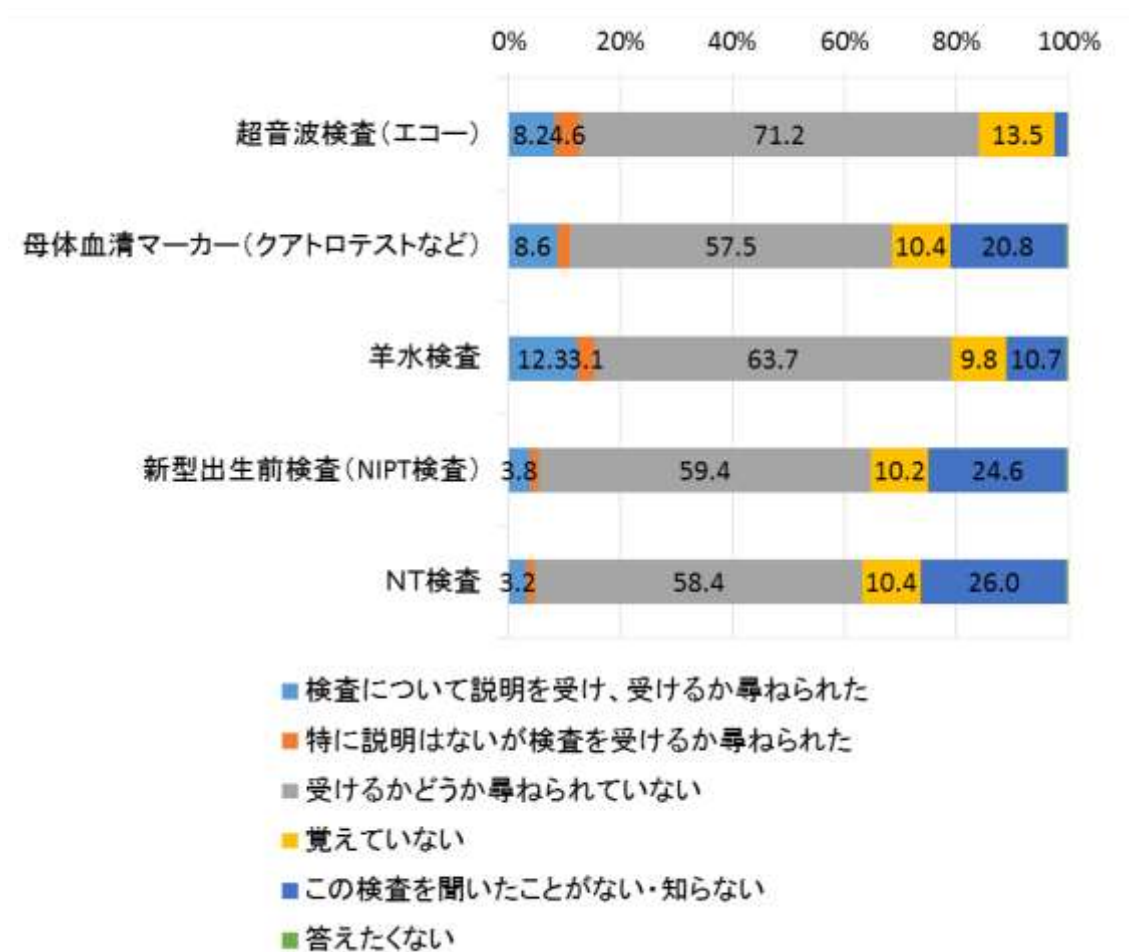


◇2-7-5 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

前述の検査に関する解説文をつけた上で、「一番最近の妊娠時に、次のような検査について医療者からの質問はありましたか」という質問に、「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」、「受けるかどうか尋ねられていない」、「覚えていない」、「この検査を聞いたことがない・知らない」、「答えたくない」で回答してもらった。

NT検査では「検査について説明を受け受けるか尋ねられた」は72 (3.2%)、「特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた」は35 (1.6%)、「受けるかどうか尋ねられていない」は1296 (58.4%)、「覚えていない」は232 (10.4%)、「この検査を聞いたことがない・知らない」は577 (26.0%)、「答えたくない」は9 (0.4%)だった。

(n = 2221)

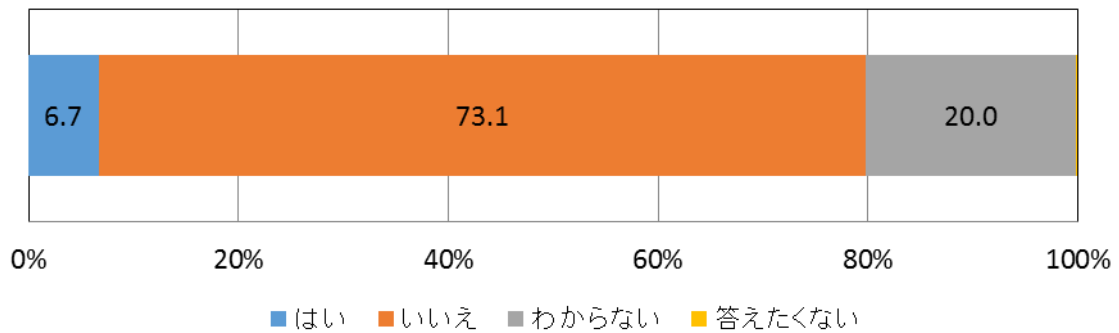


◇2-7-6 NT 検査の経験

「超音波検査で胎児のくびの後ろの厚みを測る、胎児の頸部浮腫（NT）検査を受けたことがありますか」という質問に「はい」、「いいえ」、「わからない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「はい」は 148（6.7%）、「いいえ」は 1623（73.1%）、「わからない」は 445（20.0%）、「答えたくない」は 5（0.2%）だった。NT 検査を受けたことがない人が最も多く、受けたことがあるか分からない人も 2 割だった。

(n = 2221)

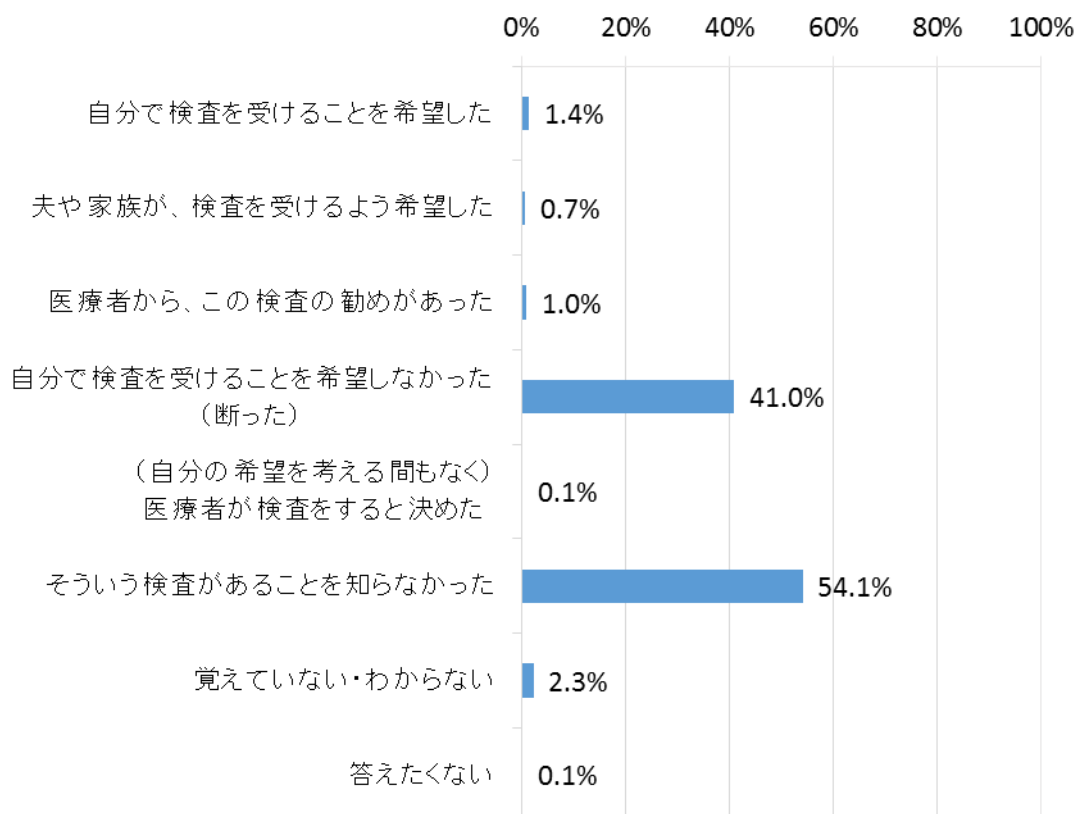


2-8 着床前診断・その他の検査の経験

◇2-8-1 誰が着床前診断（受精卵診断）を希望したか

「一番最近の妊娠時に、着床前診断についてあなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分で検査を受けることを希望した」、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」、「医療者から、この検査の勧めがあった」、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」、「（自分の希望を考える間もなく）医療者が検査をすると決めた」、「そういう検査があることを知らなかった」、「覚えていない・わからない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「そういう検査があることを知らなかった」は 1202（54.1%）、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」は 910（41.0%）、「覚えていない・わからない」は 52（2.3%）、「自分で検査を受けることを希望した」は 30（1.4%）、「医療者から、この検査の勧めがあった」は 23（1.0%）、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」は 15（0.7%）、「（自分の希望を考える間もなく）医療者が検査をすると決めた」は 3（0.1%）、「答えたくない」は 2（0.1%）だった。「そういう検査があることを知らなかった」が最も多く、続いて「自分で検査を受ける事を希望しなかった（断った）」だった。（n = 2221）

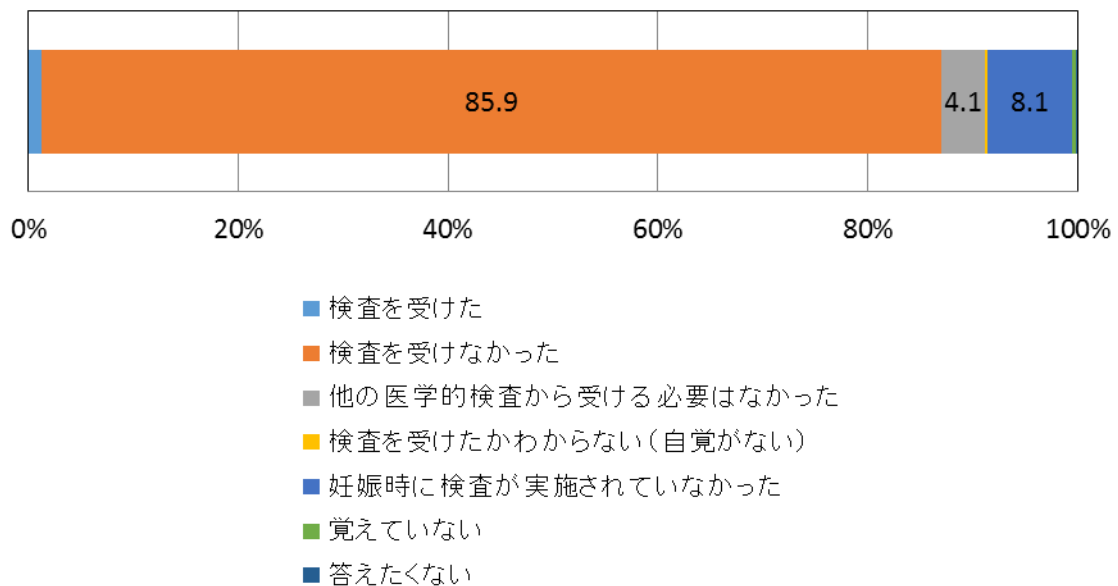


◇2-8-2 着床前診断を受けたか

「一番最近の妊娠時に、あなたは着床前診断（受精卵診断）を受けましたか」という質問に、「検査を受けた」、「検査を受けなかった」、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」、「妊娠時に検査が実施されていなかった」、「覚えていない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「検査を受けなかった」が 1907 名（85.9%）と最も多かった。「妊娠時に検査が実施されていなかった」が 179 名（8.1%）、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」が 90 名（4.1%）、「検査を受けた」が 27 名（1.2%）、「覚えていない」が 9 名（0.4%）、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」が 6 名（0.3%）、「答えたくない」が 3 名（0.1%）だった。

(n = 2221)

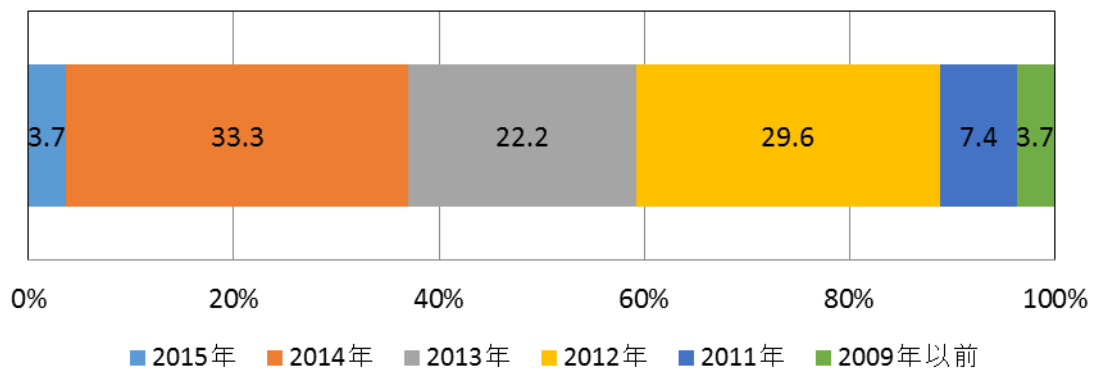


◇2-8-3 着床前診断を受けた時期

着床前診断を受けたと回答した 27 名に、「前の質問で答えた検査を受けた時期を教えてください。2 回以上受けた方は、直近の時期をお答えください」と尋ね、2009 年以前、2010 年から 2015 年までの年、「答えたくない」で回答してもらった。

2014 年が 9 名 (33.3%)、2012 年が 8 名 (29.6%)、2013 年が 6 名 (22.2%)、2011 年が 2 名 (7.4%)、2015 年と 2009 年以前が各 1 名 (各 3.7%) だった。2012 年から 2014 年までに受けた人が 8 割以上を占めた。

(n = 27)

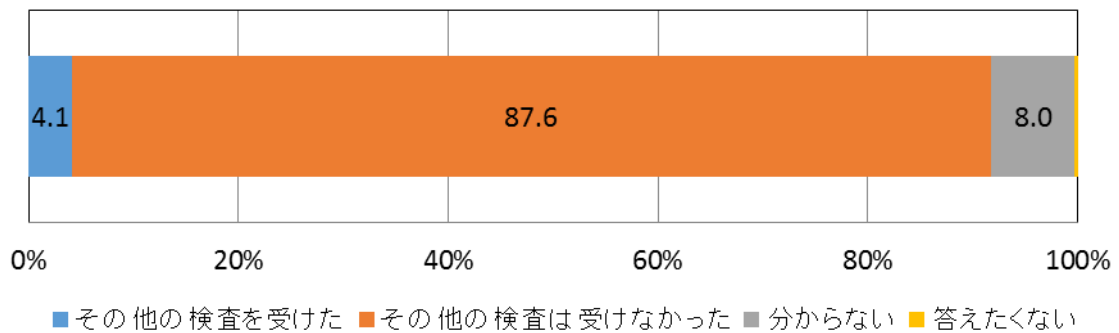


◇2-8-4 その他の検査を受けましたか

「一番最近の妊娠で、下記の*欄にある検査以外の検査を受けましたか *超音波検査、母体血清マーカー（クアトロテスト）、羊水検査、新型出生前検査（NIPT 検査）、NT 検査、着床前診断以外の検査」という質問に、「その他の検査を受けた」、「その他の検査は受けなかった」、「分からない」、「答えたくない」で回答してもらった。

「その他の検査を受けた」が 91 (4.1%)、「その他の検査は受けなかった」が 1946 (87.6%)、「分からない」が 178 (8.0%)、「答えたくない」が 6 (0.3%) だった。大多数の人は、その他の出生前検査を受けていなかった。

(n = 2221)



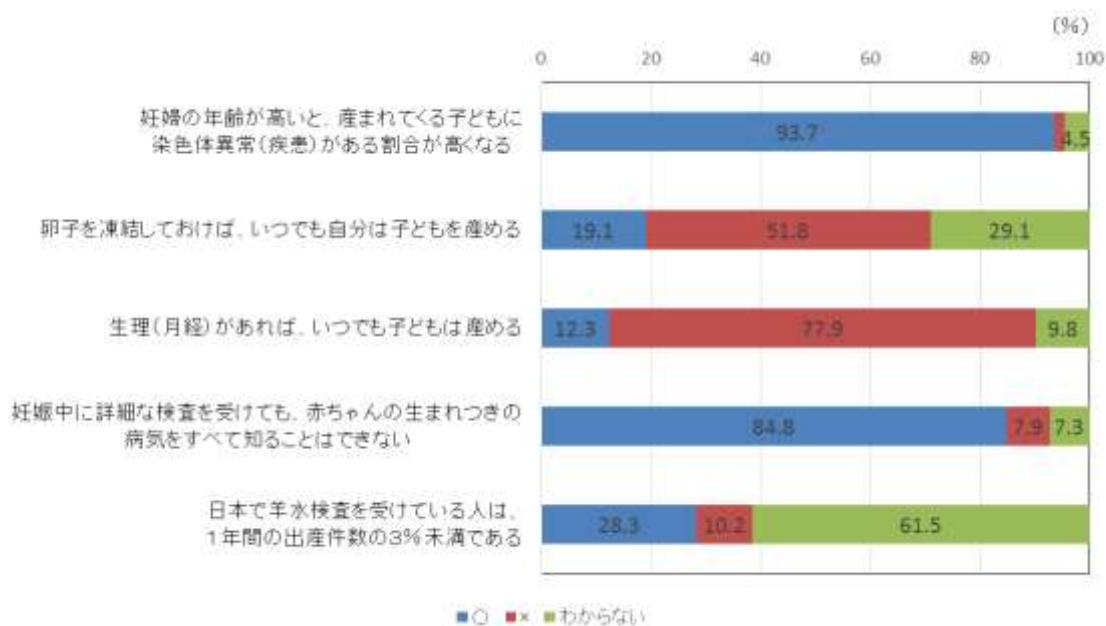
2-9 妊娠・出産に対する意識

◇2-9-1 妊娠・出産に対する理解

「以下の記述について、正しいと思う場合は○を、間違っていると思う場合は×をお選びください。」として妊娠や出産に関する5項目を提示し、「○」、「×」、「わからない」、「答えたくない」から回答してもらった。5問とも答えたくないは集計から除外した。

正解の回答を選択している割合は、1問目の「妊婦の年齢が高いと、産まれてくる子どもに染色体異常(疾患)がある割合が高くなる」は1991(93.7%)、3問目の「生理(月経)があれば、いつでも子どもは産める」で1656(77.9%)、4問目の「妊娠中に詳細な検査を受けても、赤ちゃんの生まれつきの病気をすべて知ることはできない」は1802(84.8%)と正答率が高い。一方、2問目の「卵子を凍結しておけば、いつでも自分は子どもを産める」は1100(51.8%)、5問目の「日本で羊水検査を受けている人は、1年間の出産件数の3%未満である」では602(28.3%)であった。正答率が低い質問では「わからない」が多いことも特徴的である。

(n=2125)



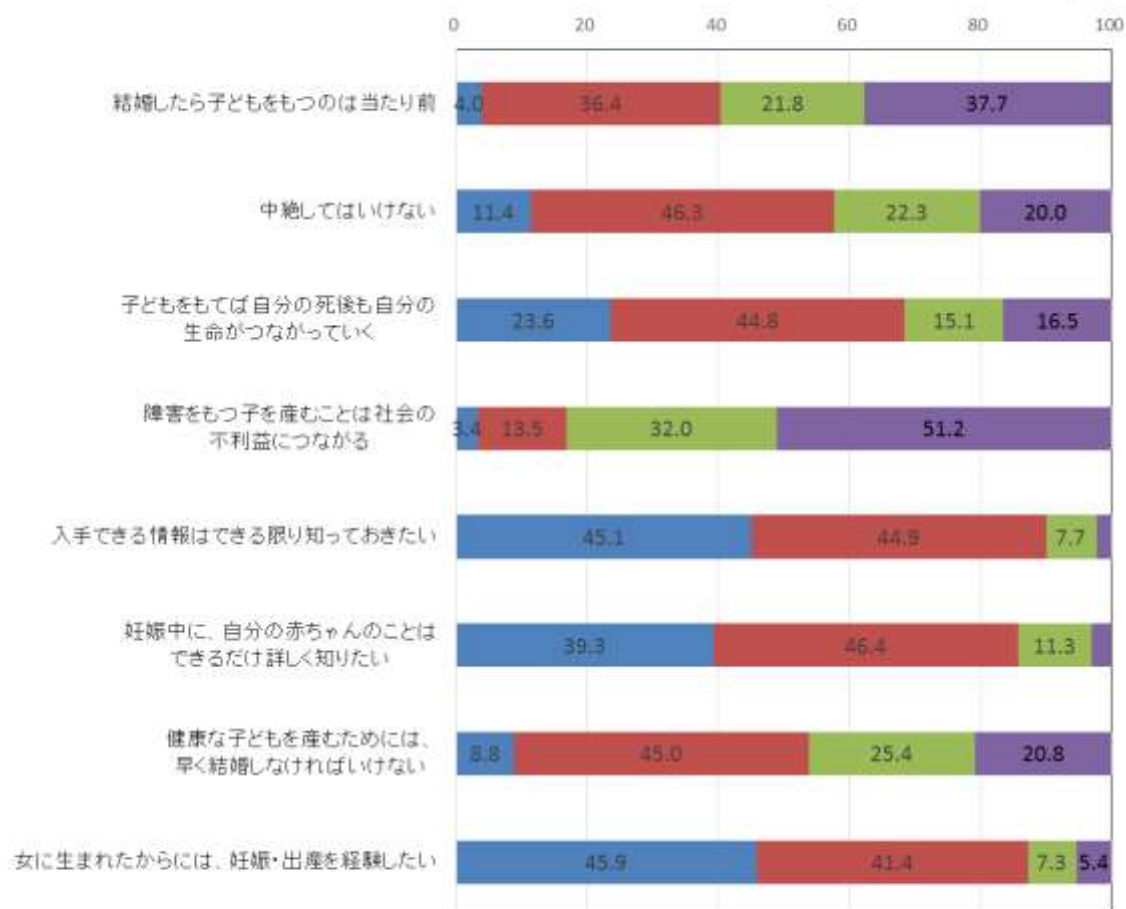
◇2-9-2 妊娠・出産に対する考え

「妊娠・出産についてあなたの意見をお聞かせください」と尋ね、以下の8つの妊娠・出産に関する意見に対して、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」、「答えたくない」からそれぞれ回答してもらった。

「そう思う」という意見が多かったのは、5問目の「入手できる情報はできる限り知っておきたい」、6問目の「妊娠中に、自分の赤ちゃんのことはできるだけ詳しく知りたい」、8問目の「女に生まれたからには、妊娠・出産を経験したい」で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせると8割以上となる。一方、4問目の「障害をもつ子を産むことは社会の不利益につながる」では「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」が8割である。1問目の「結婚したら子どもをもつのは当たり前」、2問目の「中絶してはいけない」、3問目の「子どもをもてば自分の死後も自分の生命がつながっていく」、7問目の「健康な子どもを産むためには、早く結婚しなければいけない」では「どちらかと言えば」という中間の回答が多い傾向がみられる。

(n=2125)

(96)



■そう思う ■どちらかと言えばそう思う ■どちらかと言えばそう思わない ■そう思わない

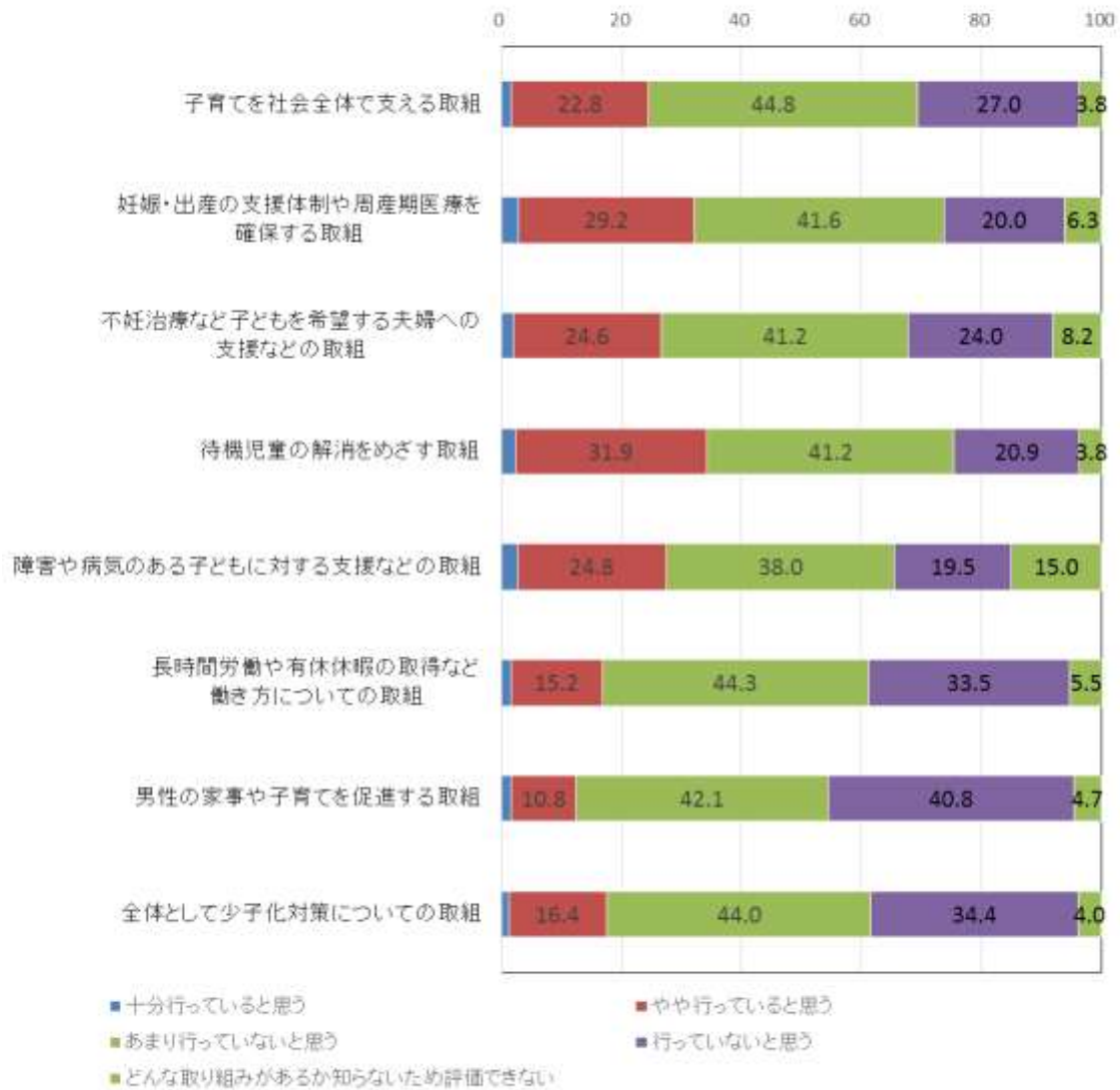
◇2-9-3 少子化政策について

「行政がおこなっている少子化対策の取組についておたずねします。次の内容について、それぞれあてはまるものをお答えください」と尋ね、「子育てを社会全体で支える取組」、「妊娠・出産の支援体制や周産期医療を確保する取組」、「不妊治療など子どもを希望する夫婦への支援などの取組」、「待機児童の解消をめざす取組」、「障害や病気のある子どもに対する支援などの取組」、「長時間労働や有休休暇の取得など働き方についての取組」、「男性の家事や子育てを促進する取組」、「全体として少子化対策についての取組」の8つについて、「十分に行っていると思う」、「やや行っていると思う」、「あまり行っていないと思う」、「行っていないと思う」、「どんな取り組みがあるか知らないため評価できない」、「答えたくない」から1つずつ回答してもらった。

いずれの内容も「あまり行っていないと思う」が4割前後と多い。待機児童の解消や周産期医療の確保については「やや行っていると思う」が3割前後いるが、働き方や男性の家事・育児を促進する取組については2割を下回っている。

(n=2125)

(%)

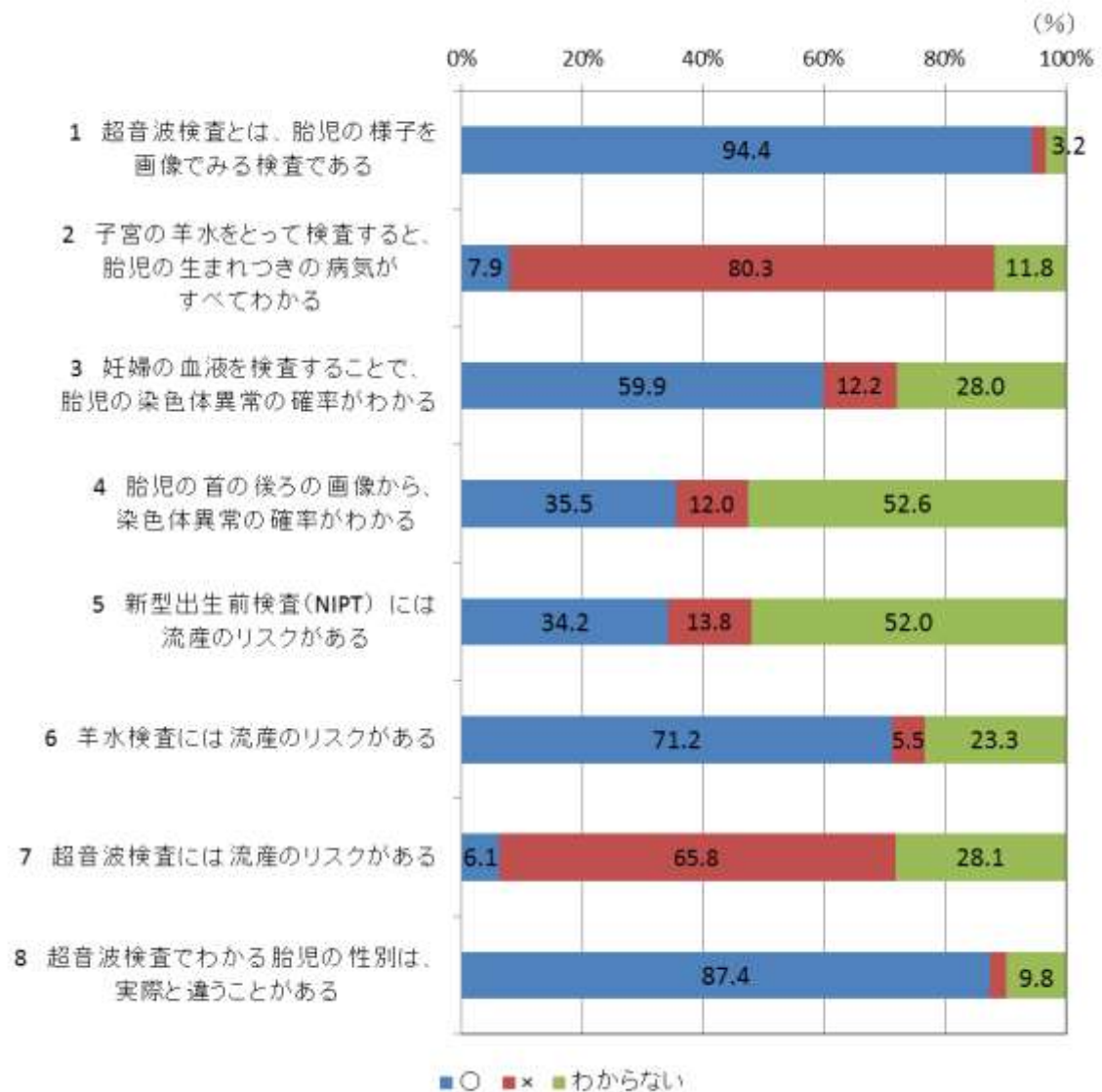


◇2-9-4 妊娠・出産に対する理解

「以下の記述について、正しいと思う場合は○を、間違っていると思う場合は×をお選びください」と尋ね、「1 超音波検査とは、胎児の様子を画像でみる検査である」、「2 子宮の羊水をとって検査すると、胎児の生まれつきの病気がすべてわかる」、「3 妊婦の血液を検査することで、胎児の染色体異常の確率がわかる」、「4 胎児の首の後ろの画像から、染色体異常の確率がわかる」、「5 新型出生前検査（NIPT）には流産のリスクがある」、「6 羊水検査には流産のリスクがある」、「7 超音波検査には流産のリスクがある」、「8 超音波検査でわかる胎児の性別は、実際と違うことがある」という 8 つの妊娠・出産に関する知識を「○」か「×」、「わからない」で回答してもらった。

1 問目の超音波検査や 8 問目の胎児の性別、2 問目の羊水検査に関しては、正解する者が 8 割以上の多数だったが、4 問目の NT や 5 問目の NIPT に関する質問では「わからない」という回答が約半数と多くなっている。「わからない」という回答の選択は、回答を慎重にする、保留している側面を示していると思われる。

(n=2350)



3. まとめ

最後に、本調査で得られた結果をまとめ、今後の課題について整理する。

(1) 回答者のプロフィール

調査協力者は、全体で 2357 名、平均年齢は 35.5 歳、本調査で回答の中心となる直近の妊娠の年齢の平均は、30.9 歳であった。サンプルの特徴として国勢調査の当該年齢の女性と比べて、中部・近畿地方居住者が多く、やや偏りがあること、4 大卒以上の高学歴者が多く、留意が必要である。

(2) 一番最近の妊娠の経験

一番最近の妊娠の経験で、希望した妊娠であった人が 8 割以上で、性別については「どちらでもよい」という人が約半数であった。妊娠中に胎児の性別を知ったという人が大多数で、全体の 4 分の 3 は医療者から説明されたと認識している。医療機関で診断前に妊娠していると感じたきっかけでは、「市販の妊娠検査薬」と「月経が止まって」を選択する人がそれぞれ 6 割程度いた。妊娠が判明した週数は 4～6 週の間で 3 分の 2 を占める。市販の妊娠検査薬は 9 割近くが利用していた。妊娠に気づいたときの気持ちでは「うれしかった」が 7 割以上で、「困惑した」という人は少ない。「ほっとした」「驚いた」は回答が分散した。妊娠初期の不安では、自身の体調や生活については 6 割前後で、胎児の発達に関することでは 7 割ほどが不安だったと回答している。一番最近の妊娠の際に、不妊検査・治療を受けた人は 17.3%であった。

(3) 出生前検査の経験

6 種類の出生前検査について、検査受検時の状況（検査を受検するか、周囲の反応など）と受検の経験、受検した時期を尋ねた。出生前検査の種類によって、異なる態度がみられた。以下、検査ごとにまとめていく。

超音波検査：自分で検査を希望した人が 4 割、「(自分の希望を考える間もなく) 医療者が検査をすると決めた」と回答している人が 4 割いた。超音波検査を「受けた」という人は 9 割を超えている。超音波検査を受けた頻度は、10 回以上が 4 割、6～10 回も 3 割で比較的頻度が高い。

母体血清マーカー検査：約半数は「そういう検査があることを知らなかった」と回答しており、3 割は希望しなかった（断った）。本調査の回答者で母体血清マーカー検査を「受けた」という人は 7.3%であった（他の推計等とくらべてもやや高いことには留意する）。

羊水検査：「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」が 83.7%と多く、一方で、超音波検査を以外の他の検査とくらべて検査の存在自体を知らないという回答が少ない。本調査の回答者で羊水検査を「受けた」という人は 3.7%であった。

NIPT：「そういう検査があることを知らなかった」と半数が答えている。「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」が 39.4%であった。本調査の回答者で NIPT を「受けた」という人は 1.7%であった。

NT 検査：「そういう検査があることを知らなかった」が 61.6%と多く、次いで「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」が 26.4%であった。本調査の回答者で「受けた」という人は 6.7%であり、おそらく妊婦健診中にエコーで偶然 NT の厚みを指摘されたこと等も、「検査を受けた」と理解した回答も含む割合だと推測され、解釈には注意を要する。

着床前診断：「そういう検査があることを知らなかった」という回答が約半数である。「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」が 41.0%とやや高い。本調査の回答者で着床前診断を「受けた」という人は 1.2%であった。別質問の検査の理解の回答とあわせてみると、当該検査の内容を誤解して回答している人を含んでいると思われる。

上述の 6 種類の各検査について、医療者からの説明がどのようにあったかという質問で、「説明はなかった」という人が、NIPT と NT では 7 割以上、母体血清マーカーや羊水検査では 6 割強、超音波検査でも 5 割弱いた。検査の内容について妊婦の側からは医療者の「説明はなかった」という認識をしている人が多いことがわかる。

検査を受けるかどうかについても、超音波検査では 7 割、それ以外の検査でも 6 割前後の人が「受けるかどうか尋ねられていない」という。「覚えていない」という回答も超音波検査以外の各検査では 1 割程度いる。検査について聞いたことがないという人も含めると、医療者から妊婦に受検の希望を問われる機会は少数である様子を確認できる。

検査を受けた/受けない理由について、検査ごとにみると、超音波検査では「受けるものだと思っていた」と 8 割以上の人が答えている。「妊娠の経過がわかるから」55.1%、「安心したいから」27.9%、「胎児の異常がわかるから」20.6%という理由が続いている。一方、少数ながら受けなかった理由では、複数回答で多く選ばれているが「受ける必要を感じなかった」25.0%、「産むと決めていた」「必要と思わなかったから」がそれぞれ 19.4%と続いている。

母体血清マーカー検査、羊水検査、NIPT 検査では、受けた理由として「胎児の異常がわかるから」が最も多い。母体血清マーカー検査や NIPT では「受けるものだと思っていたから」という人が 3 割程度いるが、羊水検査では 1 割程度しかいない。また、NIPT では「医師から勧められたから」を約 3 割が挙げており、受けた理由の構成が他の検査とはやや異なっている。

検査を受けなかった理由について、母体血清マーカー検査、羊水検査、NIPT 検査では「医師から言われなかった・勧められなかったから」を挙げる人が多く 4 割ほどいた。「必要と思わなかった」も 4 分の 1 ほどの人が選択している。

超音波検査でわかることは、胎児の成長を 9 割以上、胎児の身長・体重で 8 割、胎児の性別を 7 割の人が挙げている。

各検査を受検した人に、検査の結果でわかったことを尋ねたところ、母体血清マーカー受検者が検査でわかったこととして、3分の1は「陰性であること」を挙げ、「障害があることの確率」は2割であった。「何もわからなかった」も2割ほどであった。羊水検査に進んだ人は12.3%であった。羊水検査でわかったこととして半数が「陰性であること」を挙げ、「胎児の障害の有無」と「胎児の性別」についても約3割の人が挙げている。その後、約9割が妊娠を継続していた。

(4) 妊娠・出産に対する意識

妊娠・出産に対する基礎的な理解について、染色体異常や出産年齢に関する知識は正答率が高いが、卵子凍結や羊水検査の受検率については不正解、もしくはわからないが多い。

妊娠・出産に関する様々な考え方について、「入手できる情報は出来る限り知っておきたい」、「妊娠中に赤ちゃんのことを詳しく知りたい」という意見には大多数が同意しているが、「結婚したら子どもをもつ」、「中絶」、「子どもをもつためには早く結婚」という考えに対しては意見が分かれていた。

少子化政策に関する取り組みはいずれにおいても、行われていないという評価であった。とくに WLB（ワーク・ライフ・バランス）については不十分であるという意見が多い。

出生前検査に関して、内容によって正答率に差があり、またすべてを正しく理解している人は少ない。

(5) 今後の課題

本報告では、集計結果の報告にとどまるが、10年前の調査等と比べ、市販の妊娠検査薬での妊婦の不安や、妊娠したと感じるきっかけなどの、2010年代を中心とする女性の妊娠経験の状況を捉えることができた。また出生前検査についても NIPT の経験など、新たな検査の経験について量的データを得られた。（これだけ妊娠や医療の情報化が進んでいても）女性の理解や考え方は多様であることや、検査の説明や受検の意思確認などをめぐる医療者とのやり取りについて、女性・妊婦がどのように感じたり、経験したりしているのかを記述することができた。

今後は量的データの特性を生かして多変量解析等の手法を用いて、社会経済的属性や地域、妊娠に関する経験などを考慮して分析を深めていくとともに、2013年調査との比較を行い、多角的な検討を行いたい。

4. 補 データクリーニングについて

今回の調査は、調査概要で説明したように、調査会社の保有する調査モニターを用いて回答者をリクルートし、パソコン回答を基本としてインターネットで回答してもらう方法をとっている（これらの方法を総称して、ここでは「インターネット調査」と表す）。調査会社のモニターを利用するサンプリングの方法や、インターネットでの回答を得ることの社会調査上の意義や方法的な問題点についてはすでに指摘されており（たとえば三浦・小林 2015 など）、本調査においても、データ確認作業の中で、回答項目間の論理矛盾や、マトリックス形式における盲従化回答など、疑義をもつケースの検討に時間を要した。ここでは、作業チームが行ってきたデータクリーニング作業の記録をまとめるとともに、女性の妊娠経験や出生前検査というテーマの社会調査における課題を整理しておく。

今回の調査では、妊娠経験のある女性のみが対象であるが、出生前検査という一般的とは言えない検査の理解や経験について尋ねた。一連の回答をみていると、（妊娠経験があっても）出生前検査にあまり知識がなかったり、自身が経験した検査と、調査で尋ねている検査を勘違いしている（たとえば、単純な経過観察としての採血を NIPT と誤解している）と思われるような回答者もいる。また、一番直近の妊娠から時間的経過も、現在妊娠中から十数年前まで回答者によって様々であり、回答者の記憶の状態や出生前検査の条件等も異なる。そのため、特に出生前検査の受検に対する回答については慎重にクリーニングする必要があると考えた。

クリーニング作業はインターネット調査を担当する作業班（田中・菅野・井原）が担当し、データの大幅な修正は田中が行った。最初に、一番最近の妊娠時期が不明だとその後の分析が難しくなるため、一番最近の妊娠時期について「答えたくない」という回答、21名は除外し、2357名を有効回答とした。その後、作業班のメンバーから指摘された論理矛盾のある回答箇所は、研究会メンバー全員で確認した上で、必要に応じて回答を修正し、場合によっては分析対象からの除外、もしくは無回答や非該当への変更を行った。修正箇所は表1参照。

また、出生前検査に関する質問項目（予備調査の検査受検など）において、この後に述べる3つの条件のいずれかにあてはまる回答136名（全体の5.7%）は、決定的な不良回答として有効回収から削除するまでには至らないものの、受検の有無の回答自体に疑問が生じるものとみなし、出生前検査関連の集計の対象外とした。なお、この136名は検査に関する質問項目以外の回答では論理矛盾等が認められなかったことから、検査に関する質問項目に限って集計の対象外とし、データとしては全体数からは削除しなかった。同様に、妊娠や出産に関する意識など、主にマトリックス形式で回答を得ている質問群では、いずれの質問にも「答えたくない」が出現しない者に限定して集計した。そのため、本報告では質問ごとのサンプルサイズが異なっている。以下では、出生前検査のデータクリーニングについて詳細を述べる。

まず、NIPT は世界においても 2012 年から提供された検査だが、2011 年以前に NIPT を受けたとする回答 18 件、および NIPT を受けたにも関わらず、【新型出生前検査 (NIPT) には流産のリスクがある】との正誤問題に不正解だった回答 30 件については、NIPT を受けたとする回答に疑問が生じたため集計対象外とした。

次に、超音波検査 (43 件)、羊水検査 (1 件)、母体血清マーカー検査 (1 件)、NT 検査 (1 件) および着床前診断 (1 件) について、調査項目間で受検の有無の回答に明らかな矛盾が認められた。例えば、自由記述欄に検査を“受けていない”と記載されているのに、受検の有無を尋ねる選択形式の質問では“受けた”と回答があるというようなケースである。これらの回答についても同様に集計対象外とした。

最後に、6 種類 (超音波検査、羊水検査、母体血清マーカー検査、NIPT、NT 検査および着床前診断) の検査の受検の有無を尋ねた 6 つの質問全てにおいて、2357 件中 2079 件 (88.2%) の回答は、「検査を受けた」、「検査を受けなかった」、「他の医学的検査から受ける必要はなかった」、「妊娠時に検査が実施されていなかった」のいずれかだったのに対し、「わからない」、「覚えていない」、「答えたくない」、もしくは非該当処理した回答 (超音波検査の受検の有無で予備調査と本調査で回答に齟齬があったもの 表 1 参照) が 1 つ以上ある回答は 278 件、2 つ以上は 95 件、3 つ以上は 57 件だった。278 件については検査経験の記憶が不確かな可能性や、検査名を知らなかったり誤解している可能性が懸念された一方で、検査名を知らなかったり覚えていない可能性もありえることから、わからない等とする回答が 2 つ以下の場合を残し、半数にあたる 3 つ以上該当する場合 (57 件) のみ分析対象外とすることとした。したがって、出生前検査に関する項目の集計結果は、全回答者のうち検査の記憶が相対的にあいまいな集団が除外されたサブサンプルの数値であることに留意する必要がある。

なお、6 種類全ての検査を「受けた」という回答は全体で 28 件あり、上記の条件で検査の集計対象から除外しても 9 件残ったことから、この 9 件の回答の信憑性をはかる基準を議論した。その結果、検査の受検基準が厳格である着床前診断に関する情報を参照することにした。日本産科婦人科学会の倫理審査を受けて実施されている着床前診断をこれだけ多くの人 (本調査全体で「受けた」という回答があったのは 54 名、「受けた」/ [「受けた」+「受けていない」] で算出した受検率は 2.7%) が、「受けた」と回答しているとは考え難いため、着床前診断受検者 54 名について、日本産科婦人科学会の当該倫理審査の基準にあたる、自然流産・自然死産の経験回数、自分もしくは近親者 (親、子、親族) に障害のある人がいるかどうか、および配偶者の有無の観点から、調査内の回答をさらに精査した。しかし、着床前診断を受けたことが疑われるような十分な条件が見いだされなかったため、この 9 件については集計対象に残した。

表 1 出生前検査に関する内容とクリーニングの対応

項目	クリーニング内容 ※右の件数は、修正箇所数。該当する ID の件数ではない。	件数
超音波検査受検	<p>・「その他の検査」の受検の「具体的に」の欄に”エコー”など振り替え可能な検査名の記載あり →その他の検査を「受けた」を「受けていない」へ振替、具体的な記入を非該当へ。</p> <p>・「その他の検査」に「胎児ドックとじゅうもう」と記載あり →胎児ドックは超音波検査に振り返られるため、削除。じゅうもう検査のみ残す。</p>	93
	<p>・「その他の検査」の受検の「具体的に」の欄に「エコー」と記載あり →【①超音波検査の受検回数、「超音波検査を受けていない」(1件)、②超音波検査を受けたか「超音波検査を受けたかわからない」(1件)、③超音波検査を受けたか「超音波検査を受けていない」(4件)】を「受けた」へ。「その他の検査の受検」を「受けた」を「受けていない」へ振替。</p>	6
	<p>「不妊検査や治療の経験」で「はい」(不妊治療を受けた)ことから超音波検査も受けたと考える→超音波検査を受けたか「超音波検査を受けていない」を「新コード」へ(9件)、「超音波検査を受けたかわからない」(5件)と②「超音波検査を受けていない」(9件)を「受けた」へ振替。</p>	23
	<p>「妊娠中に胎児の性別がわかったか」で「超音波画像で胎児の性別がわかった」ことから超音波検査も受けたと考える→超音波検査を受けたか「超音波検査を受けていない」を「受けた」へ振替。</p>	34
	<p>「羊水検査を受けたか」で「羊水検査を受けた」ことから超音波検査も受けたと考える→超音波検査を受けたかで「超音波検査を受けたか覚えていない」を「受けた」へ振替。</p>	17
超音波検査わかったこと	<p>「超音波検査でわかったこと」で「超音波検査でわかったこと「その他」の具体的記述欄に「受けていない」と記載あり→当該質問の回答を無回答に振替。</p>	6
超音波検査希望	<p>「誰が超音波検査を希望したか」の複数回答で、「自分で超音波検査を希望した」と「超音波検査を希望しなかった(断った)」を共に選択し回答に齟齬がある。ともに「誰が超音波検査を希望したか」と「超音波検査を受けた回数」は受けたと回答。→「誰が超音波検査を希望したか」の「希望した」の回答は残し、「断った」は無回答へ振替。</p>	4
超音波検査理由	<p>「超音波検査を受けたか」と「超音波検査の回数」で共に「受けた」とあるのに、「超音波検査を受けなかった理由」に回答あり。【※「超音波検査を受けた理由」は無回答。「超音波検査でわかったこと」にも回答あり】</p>	41

	→「超音波検査を受けなかった理由」の複数回答の回答を無回答へ振替。	
	「超音波検査を受けたか」と「超音波検査の回数」で共に「受けていない」とあるのに、「超音波検査でわかったこと」に回答あり。【※「超音波検査を受けなかった理由」に回答あり】→「超音波検査でわかったこと」を無回答へ振替。	28
	「超音波検査を受けたか」で「わからない」「覚えていない」、また、「超音波検査を受けた回数」で「受けていない」の場合、受けていないと考える。→「超音波検査を受けた理由」と「超音波検査でわかったこと」はいずれも無回答へ。【※「超音波検査を受けた理由」と「超音波検査を受けなかった理由」への回答はなかったため修正不要】	6
超音波検査受検：非該当	「超音波検査を受けたか」で「受けていない」か「答えたくない」、「超音波検査を受けた回数」で受けた回数を回答している場合、齟齬があるので非該当→両質問を非該当へ。「超音波検査を受けた／受けない理由」と「超音波検査でわかったこと」も非該当へ振替。	190
	「超音波検査を受けたか」で「受けた」、「超音波検査を受けた回数」で「受けていない」の場合、齟齬があるので非該当→「超音波検査を受けたか」と「超音波検査を受けた回数」を非該当へ。「超音波検査を受けた理由」と「超音波検査でわかったこと」も非該当へ振替。	156
	「超音波検査を受けた回数」で「答えたくない」なのに、「超音波検査を受けたか」で「答えたくない」以外の回答で、齟齬がある→「超音波検査を受けたか」と「超音波検査を受けた回数」を非該当へ。「超音波検査を受けた／受けない理由」と「超音波検査でわかったこと」も非該当へ振替。	155
NT 受検	自由記述の「妊娠経験のお気持ち」に「NT 検査」と記載されていた。→「NT 検査を受けたか」を「受けていない」から「受けた」へ振替。	1
NIPT 希望	「NIPT を受けたか」で「受けていない」だが、「NIPT の受検経緯」は、NIPT を「希望しなかった」と「希望した」の両方が選択されていた。→「受けていない」と判断することとし、NIPT を「希望しなかった」を残し、「希望した」を非該当へ振替。	1
マーカー受検希望	「母体血清マーカー検査を受けたか」で「受けた」だが、「マーカーの受検経緯」はマーカーを「希望した」と「希望しなかった」の両方が選択されていた。→マーカーを「希望した」を残し、「希望しなかった」を非該当へ振替。	2

	「母体血清マーカー検査を受けたか」で「受けていない」だが、「マーカーの受検経緯」はマーカーを「希望した」と「希望しなかった」の両方が選択されていた。→マーカーを「希望しなかった」を残し、「希望した」を非該当へ振替。	2
マーカー受検	「マーカー検査の結果」の「その他：具体的に」と「マーカー検査結果後の行動」の「その他：具体的に」で「受けていない」と記載があった。→前者の記載を非該当、後者の記載を「回答なし」へ修正。加えて、「マーカー検査受検有無」を「受けた」から「受けていない」へ修正。「マーカー検査結果後の行動」は、「その他」を非該当とし、「マーカー受検理由」は、「上記のいずれもあてはまらない」を非該当へ振替。	6
羊水検査受検	「羊水検査を受けたか」で「受けた」と回答あるが、「羊水検査を受けた後の対応」の「その他：自由記述」で、「受けていない」と回答があった。→「羊水検査を受けたか」を「受けていない」へ振替。「羊水検査を受けた後の対応」で「その他」は非該当へ。「羊水検査を受けた後の対応」のその他「受けていない」と自由記述を記述なしへ修正。「羊水検査でわかったこと」の選択肢「何もわからなかった」は、受けなかった人が選択できる回答なので、そのまま残す。「羊水検査を受けた理由」の選択肢「上記のいずれもあてはまらない」を非該当へ。「羊水検査を希望したか」を「自分で希望した」を非該当へ振替。	5
羊水検査希望	「羊水検査を受けたか」で「受けた」だが、「羊水検査の受検経緯」は羊水検査を「希望した」と「希望しなかった」の両方が選択されていた。→羊水検査を「希望した」を残し、「希望しなかった」を非該当へ振替	1
着床前診断受検	「その他の検査の受検」で「超音波検査、着床前診断」と記載されているのに、「着床前診断を受けたか」は「受けていない」と齟齬がある→「着床前診断を受けたか」を「受けた」へ振替。	1
年齢	「現在妊娠されていますか」で「はい」で、現在の年齢が1番最近の妊娠年齢より2歳以上低い→1番最近の妊娠年齢を非該当へ振替。	4
	「現在妊娠されていますか」で「いいえ」で、現在の年齢が1番最近の妊娠年齢より1歳以上低い→1番最近の妊娠年齢を非該当へ振替。	3
胎児の性別	「性別を知った方法」で「その他：具体的に」で、中絶や流産で妊娠が継続しなかったと記載あり→選択肢「妊娠が継続しなかったためわからなかった」に振替。	18
	「性別を知った方法」について選択肢「その他」で、超音波検査以上の検査で分かった、という内容は新変数として設定。	8

	「性別を知った方法」について選択肢「その他」で、「医師から説明された」という記載がある→選択肢「医療者から説明されてわかった」に振替。	4
	「性別を知った方法」について選択肢「その他」で、医師に聞かなかったと記載がある→選択肢「妊娠中にはわからなかった（聞かなかった）」に振替。	12
妊娠感覚	「妊娠したと感じた時」で「その他」の自由記述を選択肢内の回答に振替。	10
検査薬	「妊娠したと感じた時」で選択肢「市販の妊娠検査薬で」と「妊娠検査薬の利用」の齟齬→非該当に。	14
35歳	「一番最近の妊娠の時期」と「妊娠がわかった時の状況」の選択肢「35歳以上であった」が一致しない→「妊娠がわかった時の状況」を無回答に修正。	14
不妊治療	「不妊治療の経験」では「なし」なのに、「一番最近の妊娠での不妊治療」では「あり」となっている→妊娠中のため、経験に入っていないことを考慮し、「不妊治療の経験」を「あり」に変更。	3
流産	流産経験があり、「超音波検査を受けたか」で「受けなかった」と回答→「受けた」に振替。	1
	「超音波検査を受けた理由」で「前の妊娠が流産・死産だったから」に回答があり、流産・死産をしたと思われる→何回したかはわからないため、「自然流産・自然死産の経験回数」を「x」とした。	6
	羊水検査の「その他」の「具体的に」の記述内容から、選択肢「障害の有無」に振替。	2
病院	「出産した場所」の「その他」の記述内容から、選択肢「総合病院・総合病院」に振替。	2
子	子どもの出生順位が逆転→修正	2
	子どもの年齢・性別→論理整合性に欠ける回答を非該当に。	5
子どもの性別	「子どもの性別」で選択肢「妊娠中でまだわからない」が複数回回答されている→非該当に。	52
	「子どもの性別」で選択肢「妊娠中でまだわからない」が複数回、回答されている→ずれた回答をしたと解釈し、「妊娠中でまだわからない」を「女」に振替。	1

自分と夫の仕事	自身の仕事の「その他」の具体的記述を、内容的に妥当な選択肢がある場合振替。	52
	配偶者の仕事の「その他」の自由記述から、配偶者の学歴に関する質問の回答を「配偶者はいない」に振替。	12
	配偶者の仕事の「その他」の自由記述で「パートナーはいない」とある→非該当に振替。	12
	配偶者の仕事の「その他」の具体的記述を、内容的に妥当な選択肢がある場合、振替。	85
	本人の年収と世帯年収を比較して世帯年収のほうが多いように修正。例えば、本人が 600~800 万で、世帯がなしと回答されている場合、本人をなしへ、世帯を 600~800 へ修正した。	8

以上のように、出生前検査に関する質問項目群については、同一サンプル内での回答の論理矛盾や、回答者の理解ちがいなどを検討し、必要に応じてデータの修正を加えている。

インターネット調査では、例えば直近の妊娠年齢を尋ねる場合も、妊娠開始年と妊娠終了年の別に尋ね、プルダウン方式の選択肢の提示や、一覧形式で数字を入力してもらう方法など、質問紙調査等の他の調査とくらべ、容易に正確な情報を捕捉できるというメリットがある。しかし、調査モニターの中にはもっぱら回答によるポイント（謝礼品）獲得のために、どのような調査でも応諾し、最小限の時間やコスト（全部「3」を選ぶなど）で回答したり、悩む場合にはあえて選択せずに「わからない」や「答えたくない」といった選択肢を選ぶなどの態度が取られている可能性がある（なお、回答時間が早すぎる場合や、すべて「わからない」と回答している場合には、一般的にはデータから除外される）。そのような「ノイズ」をどのように定義するのか、またデータや分析から排除するか否か、とりわけ「わからない」という選択肢が重要な意味をもつ本調査のようなテーマにおいては慎重に検討する必要があるだろう。また本調査で採用した対象者の抽出条件によるバイアスをどのように考慮するのも重要な検討課題である。本調査の記録が、今後の様々な調査や研究の参考になればと願っている。

参考文献

三浦麻子・小林哲郎, 2015, 「オンライン調査モニタの Satisfice に関する実験的研究」『社会心理学研究』 31-1, 1-12. http://doi.org/10.14966/jssp.31.1_1

謝辞

まず本調査に協力いただいた回答者の皆様に御礼申し上げます。本調査の回答者の皆様のほかに本報告での対象とはならないが、予備調査までの協力となった方も沢山いる。回答へのご協力を感謝いたします。

本調査の実施にあたっては、(株)日経リサーチ社国際調査本部の鷺田恵理氏に多大なるご尽力をいただいた。記して感謝いたします。

また、本調査はメンバーの田中が本調査のサブ調査として実施した、独立行政法人日本学術振興会委託研究「少子化対策に関わる政策の検証と実践的課題の提言」(代表：中央大学 阿部正浩教授)での調査項目を一部同一にしている。許諾をくださった阿部教授にも御礼申し上げます。